

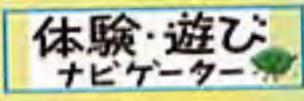
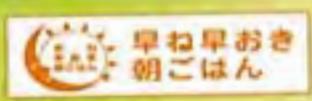
Deutsch-Japanisches Austauschprogramm für junge Ehrenamtliche 2015
 Abschiedsparty in der Gastfamilie
 ホストファミリー歓迎会



平成27年度

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立岩手山青少年交流の家 所報



目 次

1. はじめに

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
------------------------------	-----

2. 施設運営の全体概要

(1) 施設運営の基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
-------------------------------	-----

(2) 教育事業について

(3) 研修支援について

(4) 地域との連携、社会貢献について

(5) 職員の資質向上について

3. 事項別概要

(1) 教育事業等一覧及び事業報告・・・・・・・・	P 9
---------------------------	-----

(2) 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業・・・	P6 4
--------------------------------	------

(3) 利用状況（利用者数）について・・・・・・・・	P6 9
----------------------------	------

(4) ボランティア活動等について・・・・・・・・	P7 6
---------------------------	------

(5) 広報活動の実績等について・・・・・・・・	P8 6
--------------------------	------

(7) 運営費・・・・・・・・・・・・・・・・	P8 9
-------------------------	------

(8) 日誌抄・・・・・・・・・・・・・・・・	P9 0
-------------------------	------

(9) 施設業務運営委員一覧・・・・・・・・	P9 9
------------------------	------

(10) 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・	P10 0
-------------------------	-------

(11) 組織図・・・・・・・・・・・・・・・・	P10 3
--------------------------	-------



はじめに

平成27年度は前所長の三上 智氏からバトンを受けて、地元である滝沢市を拠点として北東北4県で「体験の風をおこそう」運動と「早寝早起き朝ごはん」運動の一層の推進を図るとともに、青少年教育のナショナルセンターとしての役割を果たすべく、岩手県内の青少年施設はもとより東北地区の各青少年施設と連携を進めた1年でした。

岩手県内に立地する施設として「震災から復興する岩手県」を感じ、震災を風化させないためにプログラムに防災学習を加えて、岩手県内陸部と沿岸部の児童生徒の交流と、海での体験活動をとおして被災地理解を行う「さんりく体験！探検ツアー」を実施するとともに、被災した沿岸地域の子供たちを応援するために行っている「kid's together えいご de キャンプ」も5年目を迎えました。これらの教育事業は、今後も内容に検討を加えながら継続して実施していきたいと考えています。

また、看板事業として取り組んできた岩手県内の児童養護施設と連携した「タートルズキャンプ」は6年目を迎え、着実に成果を上げるとともに、モデル事業として実施してきた通学合宿「テンちゃん一家の一週間」は4年間の蓄積を報告書にまとめましたので、一読いただけますと幸いです。

今年度は、当施設で活躍いただいているボランティアの育成のための取り組みとして、「岩手山ボランティア育成ビジョン」を策定し、大学生・高校生ボランティアの「社会を生き抜く力」の養成を目指す、循環的な育成の本格的なスタートを切った年でありました。そのために新規事業として、ボランティアの主体性を育む「ボランティア・ブラッシュアッププロジェクト」を行い、4つのプロジェクトチームが登山、子供向け自然体験キャンプ、映画製作、ボランティア交流事業に取り組んでいただきました。

また、これまでの取り組みの成果として、本年度は機構本部から全国28施設の中で最多の6名のボランティアが理事長表彰を受賞することができました。

加えて当施設のボランティアの皆さんが、機構本部の事業である「世界の仲間とゆく年くる年」や「学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会」の学生企画委員として参画するほか、「日独学生青年リーダー交流派遣事業」に参加するなど活躍の幅が広がった年でもありました。

このように平成27年度は「安全と健康、そして復興とその先の笑顔」として運営してまいりましたが、次年度に向けてさらに魅力を増す事業を実施してまいりますので、一層の御支援、御鞭撻の程よろしく申し上げます。

平成28年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立岩手山青少年交流の家 所長 松田 栄二

平成27年度施設運営の全体概要

1 施設運営の基本方針

機構本部の平成27年度の方針をふまえ、「～安全と健康、そして復興！～」を合言葉にしながら次の3点を施設運営の基本方針に定めて運営を進めてきました。

- ① 特色ある教育事業の実施を通じて青少年教育のナショナルセンターとしての役割を果たしながら教育事業の充実に努める。
- ② 研修支援事業の一層の改善・充実に努力するとともに、利用者の安定的な確保に努める。
- ③ 地域との連携を深め、地域の拠点として「体験の風をおこそう」運動、「早寝早起き朝ごはん」運動の普及・推進に努める

2 教育事業について

教育事業は、当施設の看板事業であるタートルズ・キャンプを引き続き実施したほか、通学合宿の対象校を2校とし、同日程で実施するなどその充実に努めました。成果の把握とその普及の観点では、いくつかの事業で IKR 調査や児童用情動知能尺度（EQSC）等の手法を取り入れるとともに、通学合宿の報告書を作成し関係機関に配布予定、HPに掲載予定です。

教育事業の概要は、以下の通りです。

(1) 看板事業

タートルズ・キャンプ 《平成27年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

児童養護施設との密接な連携により、課題を抱える子供達の自立支援を目的とした事業「タートルズ・キャンプ」を「アドベンチャー」をテーマに実施しました。今年度も、3つの児童養護施設と1つの情緒障害短期治療施設の参加で、事業開始から6年目を迎えました。本事業名の由来のとおり「自分の殻から顔を出し、まわりを見る勇気をだしてほしい。様子を見て、少しずつ手足をだし、ゆっくり一歩ずつ自分のペースで歩みだすことができるように・・・」が確実に実感できる子供たちの成長を見ることができました。特にカヌー体験や、うどん打ちの活動では、施設の枠を越えた参加者同士の交流も見られました。

(2) モデル事業

通学合宿 テンちゃん一家の一週間 「早寝早起き朝ごはん」運動推進事業 《平成27年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

小学生を対象に当施設から学校に通いながら規則正しい生活リズムの育成とよりよい仲間づくりを目的として通学合宿（6泊7日）を実施しました。今年度は、滝沢市立滝沢第二小学校と滝沢市立滝沢東小学校の4～6年生の児童35名が参加しました。生活の基盤となる「衣・食・住」を児童自らの力で取り組み、レクリエーションや創作活

動を体験しました。また、参加者同士の交流を1週間の前半に企画したので、後半の活動がスムーズに行われました。自分でやるべきことはしっかり行い、学生ボランティアと楽しい時間を共有しました。

(4) 東日本大震災復興支援事業

さんりく体験！探検ツアー 《平成27年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

東日本大震災から5年が経過しました。「震災を風化させない」「忘れない」ために、三陸鉄道の「震災学習列車」の乗車や「民泊」等の活動をとおして、被災地復興の現状を理解し、復興支援の一役を担う意識を高めることを、目的とした事業です。1日目は「助け合う心を学ぶ」というテーマのもと、岩手山青少年交流の家で「防災キャンプ」を行い、2日目は「三陸の暮らしを知る」というテーマのもと、震災学習列車乗車・民泊を行いました。最終日は「三陸の自然を感じる」というテーマで、サッパ船の乗船体験と机浜番屋群の見学を行いました。参加者からは、震災に関する学びを積極的に取り組みたいという気持ちが伺えました。

(5) 国際交流事業

① 日独学生青年リーダー交流事業（文部科学省委託事業）

ドイツ団の17名は、ドイツ国内でボランティア活動を行う等、様々な社会貢献をしている大学生を中心とした高校生から社会人の方々でした。

岩手山プログラムでは、法人ボランティアと一緒に、意見交換や野外炊事の実践を行いました。また、3つのグループに分かれて子供たちと交流する授業内容を企画し、滝沢市立柳沢小学校へ訪問して、その授業を行いました。ボランティア同士の交流や子供たちとの交流をとおして、「子供の体験活動の機会を提供するための支援」について理解を深めました。小学校訪問やホームステイ等の体験をとおして、日本の文化についても理解を深めることができました。

② Kids Together えいごde キャンプ in テンパーク

被災地域の子どもたちを対象に「Kids Together えいごde キャンプ in テンパーク」をHSBCグループとNPO 法人日本国際ワークキャンプセンター（NICE）との連携事業として実施しました。この事業は、平成20年度に始まった事業で、HSBCグループが資金とボランティアを提供し、NICEがキャンプの企画・運営を担当し、当施設が活動場所と指導者を提供するという三者による連携協力事業です。今年度は、「ハロウィーン」と「クリスマス」をテーマとして10月と12月に、岩手山青少年交流の家を会場に行われました。日・英2言語で運営され、参加した子供たちはHSBCグループとNICEの外国人スタッフ・外国人ボランティアと交流することにより英語・外国文化に触れ有意義な時間を過ごしました。

(6) 指導者養成事業

① 集団の力を活かすアドベンチャープログラム体験会

《平成 27 年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

プロジェクトアドベンチャーの手法を活かした体験では、一人一人が考え、意見を出し合い、楽しみながら課題解決を行いました。参加者は、公民館や教育施設の職員だったため、講座の企画や運営を行う上で大変参考になったという感想が多く聞かれました。

② How To ボランティア, 体験活動支援セミナー

《平成 27 年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

青少年教育施設でのボランティア活動の基本を学ぶ「How To ボランティア」と、実際に「テンパークちゃれんじくらぶ」に参加した子供達のグループリーダーとしてボランティア活動の実践を学ぶ「体験活動支援セミナー」を開催し、それぞれ多くの高校生・大学生が参加しました。

③ 岩手県内青少年集団宿泊教育施設職員合同研究会（宿泊連）

岩手県内の 5 つの公立青少年教育施設と連携し、岩手県立県南青少年の家で開催しました。事例発表で教育事業の成果などを発表し、その普及に努めるとともに、職員同士のネットワーク構築を図りました。

④ 教員免許状更新講習

岩手大学と連携し、「安全面に配慮した自然体験活動の実際」と「体験活動プログラムによる人間関係づくり」の 2 講習（各 6 時間）を行いました。講義と演習を行うことで、理論と実践と結びつけて講習を行うことができ、参加者の満足度は 100%でした。

⑤ ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト（8 回）

岩手山ボランティア育成ビジョンに基づき、今年度新規に実施した事業です。今まで学んだボランティアとしての知識や技術の研鑽の機会として、ボランティア自身のアイデアで「無人島キャンプ」「岩手山登山」等 4 つの事業の企画運営を行いました。法人ボランティアのスキルも大きくステップアップしました。

(7) 普及啓発事業

テンパークまつり 2015 《平成 27 年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

当施設が提供する活動プログラムを体験し、施設自体を広く地域の方々に知っていただくことを目的として「テンパークまつり 2015」を開催しました。今年度も 1 泊 2 日（土・日）の親子宿泊体験と日曜日のみのテンパークまつりの 2 部構成で実施しました。今年度はカブトムシゆかりさんが来所し「カブトムシゆかりの昆虫教室」を開催、また「テンパーク 10 種競技大会」も新たに加え、延べ 4 千人を超える家族連れが来場しました。ステージ発表、スタンプラリー、創作活動など室内外のプログラムを楽しみました。

(8) その他の事業

子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

スキー体験 in テンパーク ～スキー すき 好き シーハイル!～

《平成 27 年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

小学校3年生から6年生を対象に、スキーに親しむことと参加者間の交流を図ることを目的に、1月6日～7日と1月23日～24日の1泊2日を2回開催しました。最初にアイスブレイクを行い、岩手高原スノーパークに会場を移して、技能別に分かれてスキー体験を楽しみました。夜は講師を招き「スキーの話」を聞きました。2日目にもスキー体験を行いました。初日に比べるとどの子も上達していました。

3 研修支援について

研修支援については、利用者の立場に立った業務運営の改善に努め、利用者の研修をサポートするという意識を持って、笑顔での利用者対応を心掛けてきました。

また、利用者数の年間目標を定めるとともに、日常的に施設内の活動場所の安全点検を行い、安心・安全で清潔な活動環境を確保することに努めました。

(1) 研修指導・支援

利用団体の研修目的の実現のために、利用団体の立場になって研修支援を実施しました。具体的には、当施設職員によるきめこまやかな事前相談を行うとともに、事前相談に来られない団体にも、電話連絡を密にし、利用前の不安をなくせるように努めました。

また、野外炊事、アドベンチャープログラム、七宝焼、スキー研修などにおいて直接指導を実施しました。研修の質を高めるため職員研修を行い、より多くの職員が対応できるようにしました。

(2) 施設の利用状況及び利用者の評価

平成 27 年度の年間目標として、総利用者数 113,000 人以上、宿泊室稼働率 53.0%以上を目標としていましたが、実際の利用状況は、総利用者数 117,464 人、宿泊室稼働率 54.1%となり、利用者数、宿泊室稼働率ともに目標を達成いたしました。今後とも広報活動や成果普及活動を行い利用者の確保に努めたいと考えています。

利用団体からのアンケート「当施設を利用しての総合的な満足度」をみると、「満足している」と回答しているものが 90.3%、「やや満足している」と回答しているものが 9.5%、両者を合わせると 99.8%が「満足」と回答し、これまで以上に高い評価を得ることができました。利用団体からの意見・要望等については、事務連絡協議会でその内容を確認し、対応できるものはすぐに改善するように心がけています。

(3) 利用者の安全で快適な生活環境の確保、危機管理

利用者が安全・安心で清潔な生活環境のもとで、快適な研修活動が実施できるように、

施設設備の整備・点検を定期的に行うとともに、想定される様々な災害・事故等が発生した場合の具体的な危機管理マニュアルを策定しています。

昨年度のそりすべりの活動時に大きな事故が発生してしまったことをうけ、そりすべりの安全マニュアルを作成し、団体への配布と職員が現地に赴いて滑り方を指導することになりました。

クマ対策としては、利用者が野外活動を行う前にコースを職員が爆竹を鳴らしてから活動に入っていただくとともに、クマを目撃した場合についての資料を作成し、団体に配布しています。クマ出没情報には屋外で活動する団体には速やかに伝え、屋内への退避等の対応を取っています。スズメバチ対策については、トラップを自作し敷地内各所に設置するとともに、巣を発見し次第駆除しています。

マイマイガの大量発生については、早期の段階で敷地内全域に薬剤を散布したこと、大量発生から3年目となり、マイマイガが自然消滅したことなどから、秋に大量発生することではなく、終息を迎えました。マイマイガの発生により利用を取りやめていた団体への周知など行っていく予定です。

4 地域との連携、社会貢献について

施設の運営に当たっては、様々な団体・個人と連携し、協力をいただいています。また、社会教育実習生やインターンシップの受け入れを行っています。

(1) 教育事業における連携・協力

教育事業は、その目的・内容によって地域の団体との連携が不可欠です。教育事業における主な連携先は以下の通りです。

○タートルズキャンプ・児童養護施設、みちのくみどり学園、青雲荘、和光学園
・情緒障害児短期治療施設、ことりさわ学園

○教員免許状更新講習・岩手大学・教員免許状更新講習連絡協議会

○テンパークまつり・児童養護施設・岩手県教育委員会・地元団体・企業など

○通学合宿・滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢市立滝沢東小学校
滝沢市教育委員会

○Kids Together えいご de キャンプ・NICE, HSBC, 陸前高田市教育委員会等

○いわてしぜんとあそぼキャンプ・アウトドアチャレンジ岩手県実行委員会

(2) 岩手大学との連携・協力

自然の中での活動を通じた社会貢献及び教育・研究の発展に寄与することを目的に、岩手大学と連携・協力に関する協定を締結しました。岩手大学地域連携推進機構と主催した事業「頭と体と心の3（未）体験フェスティバル」は、来場者が1,200名を越える大盛況でした。

(3) 岩手県内の青少年教育施設との連携・協力

例年、岩手県内の青少年教育施設（県立県北・県南・陸中海岸青少年の家、盛岡市立区界高原少年自然の家）と合同で集団宿泊教育施設連絡協議会（宿泊連）を開催し、研究協議や情報交換を行っています。今年度は、岩手県立県南青少年の家で開催され、えさし郷土文化館 館長 相原 康二氏の講演が行われた後、管理・指導・食堂部門の分科会協議が行われました。

(4) ボランティアとの連携・協力

子供を対象とした教育事業の際に大学生や高校生などにグループリーダーとして運営の補助をしてもらうとともに、広大な施設の環境整備は職員だけでは限界があるため、地域住民からなるボランティアの協力により、草刈り・花壇整備などの環境整備を行いました。

① 施設ボランティア（法人ボランティア）

大学生や高校生などによるボランティアを育成し、希望者には法人ボランティアとして登録してもらい、様々な教育事業に協力をいただいています。今年度は、118名のボランティア（新規53名、継続55名）が登録しました。平成27年度に法人ボランティアが活動した延べ日数は、449日、延べ人数は、1,012名と、昨年度の約2倍となりました。

② 環境ボランティアによる環境整備

今年度も地域住民を主体とする環境ボランティアによる環境整備活動を実施いたしました。4月から11月までの期間、施設内外の草刈りやキャンプ場などの整備を職員と共に行いました。ボランティアの皆さんの献身的な働きにより、当施設の環境が保たれています。（登録者22名、年間7日、参加者延べ105名）

③ 岩手県立盛岡峰南高等支援学校生徒による花壇整備

岩手県立盛岡峰南高等支援学校生徒の皆さんによる花壇の整備をしていただきました。生徒と教職員は、5月から10月までの間、概ね月1回程度来所し、施設内にある花壇2か所（利用玄関前、第2駐車場前）にパンジーやサルビアなどの植栽をはじめ、除草、追肥等の作業を行いました。整備の行き届いた、きれいな花に迎えられて、利用者からも大変喜ばれています。（年間7回、参加者延べ約100人）

(5) 社会教育実習生・インターンシップの受け入れ

今年度も28名（盛岡大学27名、東北福祉大学1名）の社会教育実習生の受け入れを行いました。また、インターンシップ4名（盛岡大学1名、岩手県立大学1名、岩手県立盛岡短期大学2名）の受け入れを行いました。

5 職員の資質向上について

事業における企画力・指導力・安全指導，利用者との接遇サービス・コミュニケーション能力，職務遂行上の専門能力，危機管理，子どもゆめ基金，「体験の風をおこそう」運動，サービス規律等の職員の資質向上を目指し，職員研修を行いました。施設内研修として24件（参加者延べ305名）の研修を実施したほか，外部の研修には13件（参加者延べ18名）の研修を受講しました。

また、平成27年度は平成26年9月に発生した御嶽山での火山災害を踏まえ、「火山としての岩手山を知る」と題した防災に係る研修を市民に公開して実施しました。

今後も積極的に実施・受講し，職員の資質向上を図り，全職員が利用者に対し，安全・安全，親切・丁寧で迅速な対応を心がけたいと考えております。

平成27年度 事業一覧表

国立岩手山青少年交流の家

No	事業名	事業の目的・主な内容	期 間	募集人数	参加人数	満足度 (%)	連 携 先
1	HowToボランティア ～ボランティアの基本を学ぼう～	青少年教育におけるボランティア活動に対する知識や理論を学ぶとともに、野外炊事やレクリエーション等の実習を通して、ボランティア活動の基本を学ぶ。	5.23(土)～5.24(日) (1泊2日)	50	56	100	
2	集団の力を高めるアドベンチャープログラム体験会	「PA(プロジェクトアドベンチャー)」の手法を活かしたプログラムを体験し、集団の力や個人の自己成長力を高める指導理念・方法を学ぶ。	6.2(火)	15	9	100	
3	さんりく体験!探検ツアー	岩手県内陸部と沿岸部の児童・生徒の交流と海での体験活動を通して、被災地理解と復興支援を行う。	7.18(土)～7.20(月) (2泊3日)	30	28	100	・NPO法人体験村・たのはたネットワーク ・さんりく鉄道株式会社
4	タートルズキャンプ ～自立支援が必要な子どもたちのチャレンジタイム～	自然体験や集団宿泊等を通して、コミュニケーション能力向上と個々の目標達成を支援し、自信を持たせる。	8.5(火)～8.7(木) (2泊3日)	12	11	91	・みちのくみどり学園 ・和光学園 ・ことりさわ学園 ・青雲荘
5	教員免許状更新講習	自然体験活動実施上の安全面について、人間関係づくりの手法について、講義と演習により体験的に学習する。	①8.10(月) ②8.11(火)	各30	①29 ②30	①100 ②100	・教員免許状更新講習連絡協議会
6	日独学生青年リーダー交流	研修テーマ「若者の社会参画」のもと、日本とドイツの青少年団体等でリーダーとして活躍する学生・青年等が、文化体験、意見交換、機関や団体で体験活動等を行うことにより、青年リーダーとしての資質を高めるとともに、日独の相互理解と交流の発展を図ることを目的とする。	9.2(水)～9.7(月) (5泊6日)	17	17	100	・文部科学省委託事業
7	①体験活動支援セミナー・秋 ②体験活動支援セミナー・冬	体験活動に必要な知識を学ぶとともに、小学生のグループリーダーとして実際に活動し、体験活動の支援の仕方について学ぶ。	①9.12(土)～9.13(日) (1泊2日) ②1.16(土)～1.17(日) (1泊2日)	①20 ②20	①22 ②24	①100 ②100	
8	①テンパークちやれんじくらぶ・秋 ②テンパークちゆれんじくらぶ・冬	小学生が季節に応じた様々な体験活動を通して、友達との関係づくりを深めながら、自然に対する親和的な態度を育成する。	①9.12(土)～9.13(日) (1泊2日) ②1.16(土)～1.17(日) (1泊2日)	①80 ②80	①65 ②92	①98 ②98	
9	①テンパークまつり2015 ②親子宿泊体験	岩手山青少年交流の家を広く地域に開放し、様々な活動プログラム等を通して、施設の理解と利用の促進を図る。	①9.27(土) ②9.26(土)～9.27(日) (1泊2日)	①4000 ②280	①4361 ②234	①98 ②100	
10	kids together えいご de キャンプ in テンパーク	東日本大震災被災地域の子どもたちを支援するため、小中学生を対象として、海外ボランティアと一緒に自然体験活動をおとして、新しい友達を作り、自立心や自尊心を育む機会とする。	①5.23(土)～5.24(日)<1泊2日> ②7.25～7.26(日)<1泊2日> ③10.11(土)～10.12(日)<1泊2日> ④12.12(土)～12.13(日)<1泊2日> ⑤2.27(土)～2.28(日)<1泊2日> ⑥3.26(土)～3.27(日)<1泊2日> ⑦3.28(月)～3.29(火)<1泊2日>	①250 ②250	①200 ②124		・主催：NICE ・協賛：HSBCグループ
11	通学合宿 テンちゃん一家の一週間	小学生を対象にした集団宿泊をおとして、人間関係を深め、より良い仲間作りや基本的な生活習慣育成のプログラムを開発する。	滝沢東小4～6年生 滝沢第二小4～6年生	40	35	98	・滝沢市立滝沢東小学校 ・滝沢市立滝沢第二小学校
12	岩手県内青少年集団宿泊教育施設職員合同研究会	岩手県内青少年集団宿泊教育施設の課題共有及び望ましい施設運営の充実と発展の方策を研究協議する。	11.20(金)～11.21(土) <1泊2日>	40	43		・岩手県立県南青少年の家
13	子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業 スキー体験	学習指導要領の体育編より、「自然とかかわりの深い活動」を受け、小中学生の技術の向上と交流により、より高い目標を持たせる。	①1.5(火)～1.6(水) <1泊2日> ②1.6(水)～1.7(木) <1泊2日>	①100 ②100	①110 ②72	①95 ②94	・子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業
14	岩手県アウトドアチャレンジ実行委員会「しぜんとあそぼ」キャンプinテンパーク	地域の教育力を活用しに交流体験をするなどして体験活動の機運を高めていくことを目的とする。	①7.4(土)～7.5(日) ②1.9(土)～1.11(月)	①100 ②100	①101 ②89		・岩手県アウトドアチャレンジ実行委員会
15	ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト	ボランティアがチームを組んで事業の企画立案をすることで、社会を生き抜く力磨くとともに、創造性やチャレンジ精神、リーダーシップ、コミュニケーション能力などの育成に向けた多様な体験の機会を提供する。	①4.25(土) ②5.16(土) ③6.6(土)～6.7(日)<1泊2日> ④8.22(土) ⑤9.5(土) ⑥10.31(土) ⑦12.5(土) ⑧3.12(土)～3.13(日)<1泊2日>	各回 20名	①16 ②12 ③14 ④9 ⑤22 ⑥23 ⑦24 ⑧28		・法人ボランティア

1 事業名 平成27年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
How To ボランティア
～ボランティア活動の基本を学ぼう～

2 趣 旨

講義や演習、野外活動体験等の研修をとおして、青少年教育におけるボランティア活動に必要な基礎的な知識・技術について学ぶ機会とする。

3 期 日 平成27年5月23日（土）～5月24日（日）

4 参加者 ボランティア活動に興味関心をもつ高校生、大学生 56名
（高校生 11名 短期大学生 1名 大学生 44名）

5 協 賛 Water Dragon Foundation
NPO法人日本国際ワークキャンプセンター（NICE）

6 後 援 岩手県教育委員会

7 内 容

(1) 日 程

5月 23日 （土）

	9:30	10:00	11:30	12:10	13:00	14:30	15:00	19:30	22:30	
受 付	開 会 行 事	青少年教育施設の 現状と運営	法 人 ボ ラ ン テ ィ ア 制 度 に つ い て	昼 食 ・ 休 憩	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 の 意 義	移 動	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 の 技 術 課 題 解 決 型 野 外 炊 事 「 び っ く り デ ィ ナ ー 」	青 少 年 教 育 施 設 に お け る ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	入 浴 ・ 休 憩	就 寝

5月 24日 （日）

	6:30	7:00	7:20	9:00	12:00	13:00	14:30	15:10	15:30
起 床	洗 面 ・ 清 掃	朝 の つ ど い	朝 食 ・ 休 憩	救 急 救 命 法 に つ い て	昼 食 ・ 休 憩	青 少 年 教 育 と 体 験 活 動	法 人 ボ ラ ン テ ィ ア 登 録 に つ い て	閉 会 行 事	解 散

(2) 指導者

国立磐梯青少年交流の家	事業推進室長兼事業推進係長	室井 修一 氏
国立岩手山青少年交流の家	主任企画指導専門職	桑原 玲子
国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	中田 春輝
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	鎌田 信浩
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	及川未希生
日本赤十字社 岩手県支部	赤十字救急法指導員	八重樫京子 氏
日本赤十字社 岩手県支部	赤十字救急法指導員	高柳 明子 氏
指導補助		法人ボランティア

(3) 企画のポイント

ボランティア活動に興味関心をもつ高校生、大学生に向けて、ボランティア活動の基本を講義・演習をとおして学び、ボランティアとして活動する上で必要な資質や施設を活用するためのスキルを身に付けさせる。事業のプログラム構成に当たっては、本施設で提唱している「国立岩手山青少年交流の家ボランティア育成ビジョン」をもとに、「魅力的な体験プログラム」「魅力的なボランティア仲間の存在」「魅力的な講師の存在」を参加者とボランティアスタッフのかかわりをもたせながら、相互に自己実現を図っていく。

(4) 広報のポイント

東北地区国立青少年教育施設の4施設（岩手山、花山、磐梯、那須甲子）合同のボランティア養成講座と岩手山独自のチラシを作成し、青森、秋田、岩手の三県の大学と岩手県内の高等学校にチラシを配布し、広報を行った。また、施設のホームページにおいて、参加フォームを設け、インターネット上から申し込めるようにした。盛岡大学には、年度初めの4月に事業のガイダンスを実施し、事業の趣旨や内容の説明と広報を行った。過去の事業の様子をスライドショーで紹介し、事業内容がイメージしやすいようにした。高校においては、前年度まで参加した生徒のいる学校に電話をして広報を行った。さらに今年度は、宮古方面からの参加者に向けたポスターを作成するとともに、宮古発のバス送迎も計画し、沿岸地区からも参加しやすい体制にしたことも広報に加えた。

(5) 運営のポイント

機構の共通カリキュラムをもとに事業を推進する中で、ボランティアに対する理論や知識を習得するとともに、アイスブレイクを行い、56名の参加者のコミュニケーションが十分にとれるように進めた。

継続的にボランティアの養成及び育成を行うために、本施設で取り組んでいる「国立岩手山青少年交流の家ボランティア育成ビジョン」を根幹に据え、提唱している本施設事業推進係 及川未希生を中核の講師として、参加者が意欲的に講義・演習を実施できるようにプログラムを構成した。また、国立磐梯青少年交流の家から職員を招聘し、野外活動を安全に行うための理解を深め、活動中においても安全管理を意識させた。野外炊事はグループ内の話し合いをもとにメニューを決め、工夫して野外炊事を行った。

ボランティア養成研修という事業の特質から、ボランティアスタッフが参加者の身近な手本となるよう、学生のボランティアスタッフをグループに配置したり、ボランティアスタッフが前に出て活動したりすることで、参加者もボランティアスタッフも相互にかかわり合いながら活動を進めた。参加者にとって、ボランティアスタッフの動きは、参加者自らがボランティア活動に一步踏み出すためのモデルとなる。また、ボランティアスタッフも、自分たちのスキルアップを図る機会となる。

8 成果とその普及

2日間をとおして、講師と参加者の架け橋としてボランティアスタッフが細やかに活動したことにより、参加者は意欲を持続して取り組む様子が見られた。参加者56名中、法人ボランティア登録を行ったのは53名と、本事業の参加者に対して、ボランティアとしての「心に火をつける」ことができた。青少年教育におけるボランティア活動に興味をもち、その後の本施設の事業にボランティアスタッフとして参加したいと考えている参加者も見られ、職員やボランティアスタッフに話を聞く様子が見られた。

9 今後の課題

登録した法人ボランティアが当所できいきと活動が出来るように、ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクトへの参加を促し、研修の機会を設けていくとともに、「国立岩手山青少年交流の家ボランティア育成ビジョン」に則った継続的なボランティアの育成を行っていく必要がある。



講義



野外炊事（びっくりディナー）



ポスターセッション

1 事業名

平成27年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
集団の力を活かすアドベンチャープログラム体験会

2 趣旨（事業の目的）

PA（プロジェクトアドベンチャー）の手法を生かしたプログラムの体験をとおして、集団の力や個人の自己成長力を高めるための指導理念・方法を取得し、指導者・支援者としての知識や技能、資質の向上を図る。

3 期日

平成27年6月2日（火）

4 参加者

教職員，青少年教育施設職員，青少年教育に興味・関心のある方 9名

5 連携・協力

○後援 岩手県教育委員会

○協力 岩手県市町村教育委員会（盛岡市，滝沢市，八幡平市，花巻市，遠野市，北上市，奥州市，一関市，陸前高田市，大船渡市，釜石市，宮古市，久慈市，二戸市，矢巾町，紫波町，岩手町，雫石町，葛巻町，西和賀町，金ヶ崎町，平泉町，住田町，大槌町，山田町，岩泉町，洋野町，一戸町，軽米町，田野畑村，普代村，野田村，九戸村）

6 内容

（1）日程

8:30	9:00	9:30	12:00	13:00	16:00	16:30
	受付	開会行事	【アクティビティ 実習】	昼食・休憩	【プログラム実習】	閉会行事 解散

※【アクティビティ実習】の内容

・後だしジャンケン ・パンパンリズム ・自己紹介→ネームトス ・ジャンボ
ジャンボジャンボ

・ジムのボタン工場 ・キャッチ ・人間知恵の輪 ・キーパンチ

※【プログラム実習】の内容

・講義

（アドベンチャープログラムについて・フルバリューコントラクトについて・ファシリテーターの視点について）

・ヘリウムフープ ・ビーイング ・TP シャッフル ・モホークウォーク

・ニトロクロッシング

(2) 指導者

・国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	高橋 省一
・国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	中村 聡
・国立岩手山青少年交流の家	事業推進係長	田口 康宏

(3) 企画のポイント

事業の目的を達成させることとともに、地域にプロジェクトアドベンチャーの理念を広げることにもめざした。そのため、アドベンチャープログラムの体験を中心として日程を組み、初めて体験する方にも無理なく理念が伝わるようにした。

(4) 広報のポイント

岩手県内の青少年宿泊研修施設や社会教育施設の他、岩手県内の全ての小中学校並びに高等学校にチラシを配布するとともに、本施設のホームページを活用し、事業の周知を行った。

(5) 運営のポイント

体験を中心としながらも、プロジェクトアドベンチャーの理念が参加者に伝わるように、講義も織り交ぜた日程で運営にあたった。

参加者自身が、グループの高まりや個人の学びを実感できるように、参加者全員が一つのグループとして様々なプログラムを体験するようにした。

7 成果とその普及

アンケート調査による総合的な満足度は100%であった。体験することを中心にしたことで充実感を味わうことができたと思われる。「初めての体験が多くあり、とても参考になった。特に、島渡りは不可能かと思われたが、その分できた時の喜びは大きいものがあつた。難易度が高い分、そのプロセスも楽しめた。」「実際に活動をしてみることで、聞くよりもよりよくアドベンチャープログラムの効果について知ることができたと思う。」といった感想が寄せられた。

参加者は、普段は教育施設や公民館で青少年教育に携わる場面が多く、「公民館での子供向け事業の運営の参考にといい、参加した。参加した皆さんと交流しながらとても楽しく体験できた。自分自身も楽しみ、お互いに心を開き合うことでより良い講座運営につながると思う。そういった意味で、今回の体験はとても参考になった。より良い講座作りができるように、職場に戻り頑張りたい。」という感想も聞かれた。

企画の概要・報告書等は、岩手県内の青少年宿泊研修施設や社会教育施設、以前小中学校並びに高等学校に配布する。また、ホームページへの掲載や館内への写真掲示による紹介をとおして、幅広く普及に努めたい。

8 今後の課題

事業の広報は、岩手県内に幅広く行ったものの、参加希望者は予定よりも少なかった。それに伴い、6月2日と3日に2回開催する予定が2日の1回開催となった。より多くの方々が本事業に興味をもつことができるような広報の仕方を考えたい。事業の報告や、アドベンチャープログラムの理念・効果が広く伝わるようなPR活動の方法を具体的に考える必要がある。



全員でエレメントの
「島渡り」に挑戦



「ビーイング」で
個々の意見をシェア



アクティビティーの
「キーパンチャー」

1 事業名

平成27年度 教育事業 「体験の風をおこそう」協賛事業
さんりく体験！探検ツアー

2 趣旨（事業の目的）

東日本大震災から4年が経過し、被災地も徐々にではあるが復興に向かっていく。この中で、震災を「風化させない」「忘れない」ために、岩手県の将来を担う児童生徒たちが、被災地を訪問し、沿岸地域の人々と自然体験活動を通して触れ合う中で、被災地復興の現状を理解し、復興支援の一役を担う意識を高める。

3 期日 平成27年7月18日（土）～20日（月） 2泊3日

4 参加者 岩手県内の小学5年生から中学2年生 28名

5 共催 みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会

6 連携・協力 NPO法人 体験村・たのはたネットワーク
株式会社久慈グランドホテル 三陸鉄道株式会社

7 内容

(1) 日程

【1日目 7月18日（土）】

	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
受付	開 会 式	アイス ブレイク	災害時の野外炊事			入浴	避難所体験			

【2日目 7月19日（日）】

9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
岩手山青少年交 流の家→久慈市 バス移動		昼食 久慈グラン ドホテル	三陸鉄道 震災学習列車 久慈～田野畑	田野畑村 民泊体験									

【3日目 7月20日（月）】

9	10	11	12	13	14	15	16
サッパ船 体験	机浜 番屋群 見学	昼食	田野畑村→ 岩手山青少年交流の家 バス移動				閉 会 式

(2) 指導者

国立岩手山青少年交流の家	所長	松田 栄二
国立岩手山青少年交流の家	主任企画指導専門職	桑原 玲子
国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職	中田 春輝
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	丹 康浩
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	中野 健二
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	高橋 知也
指導補助		法人ボランティア

(3) 企画のポイント

野外活動を通じて被災の状況や復興の様子を感じ取れるように、担当者は現地に足を運び連携先と綿密な打ち合わせを行った。

内容については、震災の恐ろしさよりも、復興に向かっていく前向きな状況に重点を置いた。

(4) 広報のポイント

滝沢市近隣の小中学校に約 22,000 部のガチャピン・ムックの画像を使用したチラシを配布

するとともに、本施設のホームページを活用し、幅広く企画の周知を行った。「岩手日報」に参加者募集の記事が掲載され、サッパ船に乗っている様子がNHK盛岡放送局のニュースで放映され、岩手全県下に企画事業の周知をすることができた。

(5) 運営のポイント

野外活動を通じて被災の状況や復興の様子を感じ取れるように、担当者は沿岸現地に足を運び連携先と綿密な打ち合わせを行った。今年度は三陸鉄道株式会社と連携し、震災学習列車を貸し切って、沿岸部での復興の様子を学習することができた。プログラムの内容については、震災の恐ろしさよりも、復興に向かっていく状況に重点を置いた。

1日目は「助け合う心を学ぶ」というテーマのもと、岩手山青少年交流の家で「防災キャンプ」を行った。強化ポリエチレンの袋で無洗米の炊飯とカレー作り、段ボールを使って避難所の疑似体験を行った。

2日目は「さんりくのくらしを知る」というテーマのもと、震災学習列車乗車・民泊を行った。震災学習列車を通じて東日本大震災の被災状況と復興の現状について理解を深め、民泊では受入家庭の手伝いをし、食事をとりながら交流を深めた。

3日目は「さんりくの自然を感じる」というテーマのもと、サッパ船体験で海での野外活動を楽しんだ後、今年の春に復元された机浜番屋群の見学を行った。海の日イベントも催され、塩作りの番屋で海水から塩を作り出す工程を見学したり、漁具展示の番屋で漁具に触れたりした。

8 成果とその普及

参加者の教育事業全体に関する満足度・プログラムに関する満足度は共に 100%であり、震災に関する学びに積極的に取り組みたいという気持ちが伺えた。参加者からは、「初めてこの事業に参加して、今までしたことのないことを体験することができた。いろいろな人と交流もできた。来年もこの事業に参加したい。」「炊事や民泊が思い出に残った。また参加したい。」「今回の事業に参加して震災のことを詳しく知ることができた。」という感想が聞かれた。

9 今後の課題

所外での活動が中心となるために、職員の事前研修を充実させ、さらなる安全管理が必要である。参加者に事前学習の機会があればさらに復興の現状に対する理解が深まると感じる。資料の事前送付や保護者同伴の説明会等を検討しても良いと考える。

被災後の町おこしの方向性（産業・観光・防災・食文化・野外活動など）を把握し、被災地のニーズがあり、復興の様子を感じ取れるプログラムの作成が必要であり、参加しやすい日程の再検討が必要である。2泊3日、小学校高学年の震災学習のモデルケース作成・普及を目指し取り組んでいきたい。



強化ポリエチレン袋で
カレー作り



段ボールを使って
避難所疑似体験



震災学習列車の発車ベル
を鳴らす松田所長



民泊先での自然体験の
様子



サッパ船体験の様子



番屋群で塩づくりを見学

1 事業名

体験の風をおこそう運動協賛事業 平成27年度教育事業 「タートルズ キャンプ」
～自立支援が必要な子どもたちのチャレンジタイム～

2 趣 旨

被虐待等により社会的養護が必要な子供に対し、自然体験活動や集団宿泊体験等をとおしてコミュニケーション能力向上を図り、それぞれの目標に向けて、自分に自信をつける機会とする。

3 期 日

平成27年5月13日(水)	第1回担当者会議	協力4施設と主催者との事業に関わる年間計画の確認
平成27年6月14日(日)	サポート事業	和光学園鞍掛山登山
平成27年7月15日(水)	事前活動	対応事例研究会, 参加者との顔合わせ会 (みどり学園)
平成27年7月15日(水)		対応事例研究会, 参加者との顔合わせ会 (ことりさわ学園)
平成27年7月17日(金)		対応事例研究会, 参加者との顔合わせ会 (和光学園)
平成27年7月17日(金)		対応事例研究会, 参加者との顔合わせ会 (青雲荘)
平成27年8月5日(水)~7日(金)	事業	「タートルズ キャンプ」
平成27年9月27日(日)	事業	テンパークまつりステージ発表 (みどり・ことりさわ学園・和光学園)
平成27年10月予定	サポート事業	大収穫祭 (みどり・ことりさわ学園)
平成27年10月予定	サポート事業	青雲祭
平成27年10月予定	事後活動	事後反省会 (和光学園)
平成27年10月予定		事後反省会 (みどり学園, ことりさわ学園)
平成27年10月予定		事後反省会 (青雲荘)
平成27年11月予定	第2回担当者会議並びに事業成果報告会	協力4施設と主催者との事業反省会 今年度の成果確認及び次年度構想
平成28年1月予定	サポート事業	ことりさわ学園宿泊スキー教室
平成28年1月~2月予定		みどり学園日帰りスキー教室
平成28年1月~2月予定		和光学園日帰りスキー教室
平成28年1月~2月予定		青雲荘日帰りスキー教室
平成28年1月~2月予定		学園公開 (ことりさわ学園, みどり学園)

4 参加者 小学生(男子1名, 女子3名)4名 中学生(男子5名, 女子1名)6名 高校生(男子1名) 合計 11名
内訳 みどり学園 中学生2名 ことりさわ学園 中学生2名 高校生1名
和光学園 小学生3名 青雲荘 小学生1名 中学生2名

5 連携・協力

児童養護施設みちのくみどり学園, 情緒障害児短期治療施設ことりさわ学園,
児童養護施設和光学園, 児童養護施設青雲荘
NPO法人乗馬とアロマセラピーを考える会, 久慈市ふるさと体験学習協会
ユーレストジャパン(株)岩手店

6 内容

(1) 日程 平成27年 8月 5日(水)~ 7日(金)

8/5 (水)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23時
				開会行事	移動		昼食・休憩	レクリエーション~みんな仲良しになろう~	アドベンチャー1 シャワークライミング ~自然を満喫しよう~		入浴	フリータイム	夕食	フリータイム アドベンチャー2 交流ゲーム 星座観察	Tタイム	就寝準備	就寝	「内閣木キャンプ 場泊」

8/6 (木)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23時
		清掃	つどい	朝食	フリータイム	アドベンチャー3 カヌー体験 ~大自然を満喫しよう~	移動	昼食	移動	アドベンチャー4 乗馬体験・動物のお世話体験 ~なかよく動物とふれあおう~		移動	入浴	夕食	フリータイム アドベンチャー5 音楽鑑賞 読み聞かせ	Tタイム	就寝準備	就寝

8/7 (金)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23時
		荷物整理・清掃	つどい	朝食	フリータイム	アドベンチャー6 うどん打ち体験 ~みんなで協力して おいしいうどんを 作ろう~	清掃・片付け	Tタイム	閉会式									

(2) 指導者

- ・久慈市ふるさと体験学習協会職員
- ・NPO法人乗馬とアニマルセラピーを考える会 職員
- ・国立岩手山青少年交流の家 主任企画指導専門職 桑原 玲子
- ・国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 丹 康浩
- ・国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 中村 聡
- ・国立岩手山青少年交流の家 事業推進係長 田口 康宏
- ・国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 佐々木 翔也

(3) 企画のポイント

虐待を受けた子供が、大人への信頼を回復し一歩前に踏み出せるように、ゆとりある日程の中で大人1名に子供が1～2名程度になるよう、大人との関わりをとれるようなスタッフの配置となるようにした。「アドベンチャー」をテーマにシャワークライミング・カヌー体験、乗馬などのチャレンジをとおして自己肯定感を高める活動と、うどん打ち・流しうどん体験などの交流をとおして社会性を養う活動を取り入れてプログラムを構成した。また、年間を通して各施設の登山やスポーツ大会、スキー教室等の行事のサポートを行い、子供たちとの関わりをもてるよう配慮している。

(4) 広報のポイント

参加対象者を4つの施設に入所している児童・生徒と限定したことから、公募の形ではなく各施設で参加者を4人以内で確定してもらった。参加者は様々な家庭事情を抱えているため報道機関への案内はあえて行わなかった。

(5) 運営のポイント

参加児童・生徒にタートルズキャンプへの共通理解を深めてもらうために、4つの施設を事業開始前に訪問し、交流の家職員から参加者に対する対応事例の説明と参加者同士の顔合わせ会を行った。顔合わせ会では、昨年度のキャンプの様子を紹介しながら、今年のキャンプの活動内容について説明することでキャンプへの意欲付けをするとともに、参加する職員を紹介しながら交流を図った。職員間でも、参加者への対応の仕方について共通理解を深めるために、参加者就寝後にスタッフミーティングを2日間行い、参加者の行動の変化や担当する班の様子について情報交換を行った。さらに、今回のキャンプは、所外での宿泊をプログラムに初めて取り入れ、安全面のガイドラインについて職員で共通理解をしたうえで行った。

7 成果とその普及

参加した児童・生徒が関わりを深め、進んでコミュニケーションを取り合う姿が見られた。2日目のカヌー体験では、4施設の参加者、職員がみんな交流しながら楽しんで活動する姿が見られた。最終日のうどん打ち流しうどん体験の班活動でも、他施設の子も入った男女混合の班だったにもかかわらず、それぞれの班で協力して活動する場面が見られた。他施設の下級生の子にうどんの打ち方や麺の切り方をやさしく教える姿が印象的であった。子供たちの自己肯定感を高める活動につながったものと考えられる。

施設の職員や交流の家職員の連携もうまく図ることができたことから、子供たちへの対応もスムーズにできた。何より今回は、活動の途中で抜け出したり、けんかをして活動をやめてしまう子供がほとんどいなかったことが大きな成果といえる。

今回は、子供たちのキャンプの変容を把握するために、参加者の感情を読み取るため「じぶんバロメーター」で自分のその日の感情を数値化し前日と比較した。「つながりマップ」では、自分の身近にいた人を記入させることでコミュニケーションの広がりを把握した。また、事前事後に自己肯定感を図る10項目のアンケートを実施し分析を行い子供たちの変容把握を試みた。子供たちの変容を把握する有効な手段について考察する機会を得た。

8 今後の課題

キャンプに参加した児童・生徒の変容について、数値化したり、アンケートの記述で判断したり、客観的に判断する方法について様々試み、成果を把握することができた。今年度は、新たに記録写真の分析も行い数値化することも試みた。変容を把握するうえでの一つの方法となると考えている。来年度もさらに参加者の変容がわかりやすいように評価方法等について考えていきたい。

また、来年度の活動内容については、参加者のニーズと設定したねらいがずれないようにプログラムを構成していくと共に、子供たちが自己肯定感を高めるためのさらに一歩踏み込んだ活動を考えていきたい。



「シャワークライミング体験」



「うどん打ち体験」

1 事業名

平成27年度 文部科学省委託事業 日独学生青年リーダー交流事業（地方受け入れプログラム）

2 趣旨（事業の目的）

日本とドイツの青少年団体等でリーダーやボランティアとして活動する学生・青年が、文化体験、意見交換、機関や団体で体験活動等を行うことにより、青年リーダーとしての資質を高めるとともに、日独の相互理解と交流の発展を図ることを目的とする。

3 期日

平成27年9月2日（水）～9月7日（月）

4 参加者

- ・ 社会人を含む18歳～26歳のドイツ人学生青年リーダー16名
- ・ ドイツ団長1名
- ・ 岩手山青少年交流の家法人ボランティア18名

5 連携・協力

滝沢市 滝沢市立柳沢小中学校 岩手県立大学さんさ踊り実行委員会
 公益財団法人岩手県国際交流協会 ホストファミリー16家族

6 内容

（1）日程

	6:30	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
9月2日（水）	ドイツ団 バス移動							岩手山青少年交流の家着	オリエンテーション 歓迎会		夕食	入浴	ドイツ団ミーティング	宿泊 （岩手山）			
9月3日（木）	起床	朝のつどい	朝食	日独ボランティア 意見交換会	共同体験活動 野外炊事			柳沢小学校訪問にむけての 企画作り①		夕食	企画づくり②	入浴	宿泊 （岩手山）				
9月4日（金）	起床	朝のつどい	朝食	移動・準備	柳沢小学校訪問 授業参観・交流会・給食体験		移動	ドイツ団ミーティング		ホストファミ リ ー 別荘式	ホームステイプログラム						
9月5日（土）	ホームステイプログラム																
9月6日（日）	ホームステイプログラム							ホストファミ リ ー 交流会	ドイツ団ミーティング 学習発表会準備		夕食	入浴	ドイツ団ミーティング 学習発表会準備	宿泊 （岩手山）			
9月7日（月）	起床	朝のつどい	朝食	学習発表会			昼食	お別れ会	岩手山青少年交流の家 出発								

（2）指導者

国立岩手山青少年交流の家	主任企画指導専門職	桑原 玲子
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	高橋 省一
国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	中村 聡
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	中野 健二
国立岩手山青少年交流の家	事業推進係	佐々木 翔也

（3）企画のポイント

本事業では、岩手山青少年交流の家の法人ボランティアが実際に行っている活動の体験や、意見交換などをおしてドイツ人参加者が「子供の体験活動の機会を提供するための支援」理解を深められるようにプログラムを企画した。また、岩手山法人ボランティアがドイツ団参加者ととともに活動することで、日独の青年が互いに違った立場で、文化理解や交流の発展につい

て考えを深める機会とすることをねらった。さらに、「ホームステイ」や「盛岡さんさ踊り」の体験等をとおして、一層の日本の文化理解と交流を図った。

(4) 広報のポイント

ホームステイプログラムに向けて、ホストファミリーの募集を行った。公益財団法人岩手県国際交流協会に協力をいただきながらホームページにて広報をした。また、滝沢市近郊の高等学校にチラシを配布した。国際交流やホームステイに興味を持ち、初めてホームステイを受け入れる家族が8家族あった。また、事業全体の広報として、岩手県内の各テレビ局やラジオ局、新聞社に取材を依頼した。事業期間中、2社の新聞社による取材があった。

(5) 運営のポイント

「交流」をポイントの中心に据えて運営した。日独のボランティア同士と一緒に意見交換や体験活動ができるように日程を考えた。また、より良い意見交換や交流ができるようにグループを3つに分けて活動するようにした。さらに、滝沢市立柳沢小学校へ実際に訪問し、交流事業を行った。ここでは、ボランティア同士の交流同様に3グループに分かれて、子供たちと交流する授業内容を企画し、小学校の3つの教室でその企画内容で授業を行った。ボランティア同士の交流や子供たちとの交流をとおして、「子供の体験活動の機会を提供するための支援」について理解を深められるようにした。

7 成果とその普及

日独のボランティア同士の交流や共同体験活動によって、お互いのボランティア活動の様子について理解を深めることができた。ドイツ人参加者からは、「実践（野外炊事）したことで、法人ボランティアが活動していることがよくわかった。」「日本のボランティア活動について興味深い意見交換ができた。一緒に野外炊事をしたことで、子供との活動を示すよき例を知ることができた。」といった感想が聞かれた。また、小学校へ実際に訪問して交流をしたことも、日本の学校の様子について理解する機会となった。「日本の学校生活を実際に体験できたのは良かった。子供と遊ぶのはとても楽しかったし、文化理解にも役に立った。」「学校制度を実際に見ることができたのは興味深かった。」といったドイツ人参加者からの感想が寄せられた。

ホームステイプログラムもおおむね好評価であった。「日本の文化を理解できるような、重要な交流ができた。」という意見もあった。言語の壁により、意思疎通が難しかったと感じる家族も多かったが、ホームステイプログラムはドイツ人参加者・ホストファミリー双方とも100%の満足度であり、ドイツ人参加者のために頑張るホストファミリーの気持ちは十分ドイツ人側に伝わっていた。ドイツ人参加者は皆、「楽しかった。」「最高の家族に出会えた。」「ありがとう。」という感想を述べていた。

ボランティア同士の共同体験活動（野外炊事）で報道新聞1社、柳沢小学校訪問で新聞報道1社の取材があった。企画の概要・報告書等は、ホームページへの掲載や館内への写真掲示による紹介をとおして、幅広く普及活動を行うこととする。

8 今後の課題

5泊6日の限られた期間の中で交流をとおして文化理解や交流発展を図るには、プログラムの精選と焦点化が必要である。今回は、「交流」をポイントにしながらい体験活動を重視した内容で運営した。しかし、日独お互いのボランティアについて理解し合えるための意見交換会の時間は短かった。「深い話し合いができなかった。」「理解し合えるには時間が短すぎた。」といった声が日独双方のボランティアから聞かれた。自己紹介シートを活用し、事業前にそれぞれのボランティア活動などの情報を把握しておき、意見交換会では、テーマを絞り深くディスカッションできるように内容や時間について工夫する必要がある。

ホームステイでは、「ドイツの方の希望をもっと詳しく知っていれば計画が立てられた。」というホストファミリーからの声も聞かれた。ボランティア同士の交流同様、事前の情報提供に

ついても工夫したい。



ボランティアの意見交換



柳沢小学校での交流



ホストファミリー歓送

1 事業名

平成27年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「体験活動支援セミナー」 ～ドキドキ わくわく ボランティア 秋～

2 趣 旨（事業の目的）

小学生を対象とした事業の企画・運営を行うためのボランティア活動に必要な知識や技能の研修を行い、ボランティアとしての資質の向上を図る。

3 期 日 平成27年9月12日（土）～13日（日）

4 参加者 22名（高校生2名，大学生20名）

5 後 援 岩手県教育委員会

6 連携・協力 盛岡大学

7 内 容

（1）日程

日時	9:20		9:40	10:00		10:50	11:45		13:00	13:30	13:50	15:00		17:30		1
	8:30		20:00		21:00	21:30		22:30								
12日（土）		参加者受付	開会行事	講義 「事業運営及び活動支援についての心構え」	活動内容についての 打合せ	昼食	小学生受付	はじめの会	活動1 きらきらの秋① アイスブレーク	活動2 もぐもぐの秋 野外炊事	活動3 きらきらの秋② キャンプファイヤー	入浴	就寝指導	振り返り	就寝準備	就寝
日時	6:30	7:00	7:20	8:45	9:00		12:00		13:00	14:00	14:30	太枠で囲まれている部分は小学生との活動				
	0		15:00		15:15											
13日（日）	起床	洗面・清掃	つどい	朝食・休憩	退所点検	活動4 ぺたぺたの秋 創作活動	昼食	片づけ	おわりの会	小学生解散	演習 「活動支援と児童理解」	閉会行事	参加者解散			

（2）・指導者

国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	鎌田 信 浩
	副主任企画指導専門職	中 田 春 輝
	事業推進係	及 川 未希生
	事業推進係	高 橋 知 也
・指導補助	法人ボランティア	13名

（3）企画のポイント

法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、企画会議、事前準備を行い、テンパークちゃれんじくらぶの企画・運営体制を構築した。その際、支援セミナー参加者に対する支援を行うことができるように法人ボランティアの3名を配置した。また、支援セミナー参加者はグループリーダーとして、子供に近い立場で関わる体験ができるように企画した。

(4) 広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載した。開催要項に関しては、チラシとともに岩手県内の大学・短期大学、高等学校、報道機関に送付した。

(5) 運営のポイント

第一日目の午前中に実施した「事業運営並びに活動支援についての心構え」の講義では、体験学習サイクルを中心とした体験的な活動を導入に取り入れ、子供と関わる上でのリスクマネジメントに関する内容や、自己成長のきっかけとなる心理学的アプローチを取り入れ、支援セミナー参加者の興味を掻き立てる内容となるよう工夫した。小学生を迎えての活動に備えて、参加者に対するアイスブレイクも交えながら、活動の支援に必要な知識や技能についての研修を行った。また、アイスブレイク等の体験活動を、法人ボランティアがコーディネートすることにより、近い世代の若者が活躍する姿を見て、憧れを抱くような事業展開を心がけた。

さらに、事業の企画・運営についての事前説明及び実際の運営を、法人ボランティアが担当することで、法人ボランティアとセミナー参加者が主体となって活動に取り組めるように心がけた。

一方で、事業のリスクマネジメントの視点から、組織的なキャンプ運営を心がけた。具体的には、法人ボランティア3名が統括リーダーとなり、テンパークちゃれんじくらぶ参加児童の健康調査票をもとに児童の健康面や心理面、保護者からの心配事等を把握することで、支援セミナーの参加者と児童理解を深め、受け入れの準備を整えた。組織構築の中で、参加した子供が2日間、楽しく過ごせるように、支援セミナー参加者と参加児童との関わりに重点を置いた。具体的には、セミナー参加者を、2～3名ずつ小学生の班にグループリーダーとして配置し、統括リーダーがフォローできる体制を敷いた。運営スタッフとして参加している法人ボランティアも、子供との関わり方等についてセミナー参加者にアドバイスを行えるように配置した。

活動の振り返りは、体験活動支援セミナーの参加者も法人ボランティアも、それぞれ別時刻に設定し、子供から大人が離れることがないように配慮した。(補足資料1を参照)

8 成果とその普及

体験活動支援セミナーの参加者は、小学生と関わりたいと思う意識の高さが伺えた。グループリーダーとして、子供たちと深く関わり、子供たちと真剣に向き合う中で、子供たちへの接し方やコミュニケーションの取り方など、体験から多くのことを学んでいた。事業の目的どおりの成長が得られた2日間であった。アンケートの結果も大変高い満足度であった。セミナー参加者自身が自分の変容を認識することができ、次の活動への意欲付けになった。この成果を、他施設に普及していきたいと思う。

また、子供と関わる体験は、当施設で活躍する法人ボランティアのきっかけになると考えられる。体験活動支援セミナーを入口とした、当施設での法人ボランティアの拡充も大いに期待できると考えられる。

9 今後の課題

体験活動支援セミナー参加者に対して、グループを引っ張っていけるよう、見通しをもたせるとともに、各活動のスキルアップを図る研修や事前のミーティングの時間が十分にとることができなかった。事業に参加することで子供とかかわれることはもちろん、体験活動のスキルを高めていくことにも、体験支援セミナー参加者にとってバリューをもたせていきたい。そうしたプログラムを構成していく上での時間の確保が、今回十分ではなかったように思う。テン

パークチャレンじくらぶに向けた準備や打合せを十分に行う意味でも、体験活動支援セミナーの日程を2泊3日とするなど、参加者自身が意欲と自信をもって子供たちとかかわることができるよう、内容や開催時期等を模索していきたい。

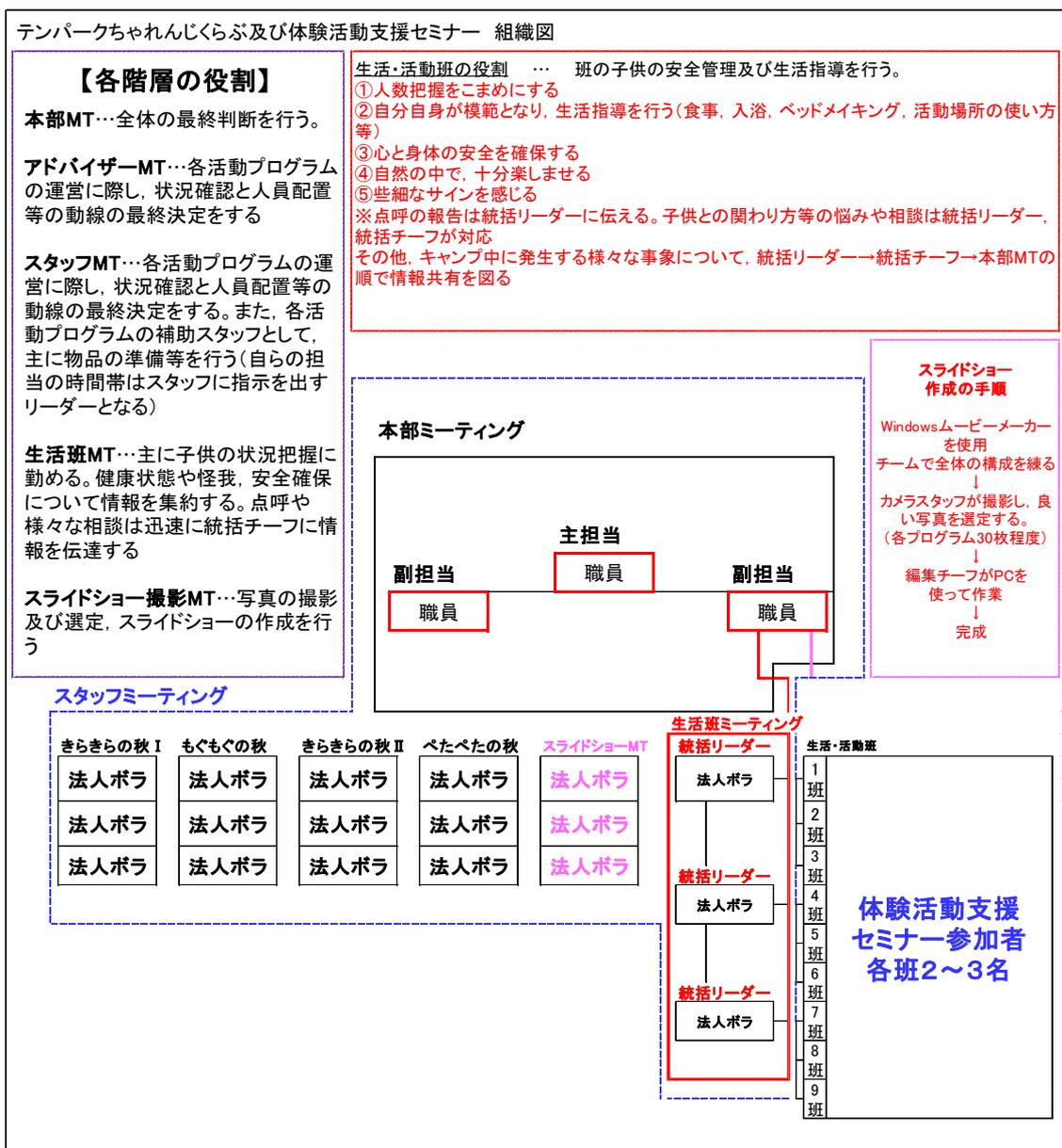


法人ボランティアによる企画説明
の秋（野外炊事）

子供との出会い（アイスブレイク）

もぐもぐ

補足資料1 テンパークチャレンじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図



- 1 事業名
平成27年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「体験活動支援セミナー」 ～ ドキドキ わくわく ボランティア 冬 ～
- 2 趣旨（事業の目的）
小学生を対象とした事業の企画・運営を行うためのボランティア活動に必要な知識や技能の研修を行い、ボランティアとしての資質の向上を図る。
- 3 期日
平成28年1月16日（土）～17日（日）
- 4 参加者 24名
（高校生15名、大学生9名）
- 5 連携・協力 岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、滝沢市教育委員会、盛岡大学
ユーレストジャパン（株）岩手店

6 内容
(1) 日程

日時	9:20 9:40		10:00 10:50		11:45 13:00		13:30 13:50		16:00 17:30		18:30 20:00		21:00 21:30		22:30	
8日 (土)	受付	開会 行事	講義 「事業運営及び 活動支援につ いての心構え」	活動内容・プログラ ムについての説明	昼 食	小 学 生 受 付	は じ め の 会	テンパーク プチリンピッ ク! ～雪上運動会～	ラン タ ン づ くり	夕 食	スノーマジック ファンタジー ～キャンプ ファイヤー～	入 浴	就 寝 指 導	ミー ティ ング	就 寝 準 備	就 寝
日時	6:30 7:00		7:20 8:45		9:30 13:00		13:30 13:45		14:10 15:00		15:30		太枠で囲まれている部分は 小学生への支援プログラム です。			
9日 (日)	起 床	洗 面 ・ 清 掃	つ ど い	朝 食 ・ 休 憩	退 所 点 検	もちフェス! ～もちつき大会～	ア ン ケ ー ト 記 入	お わ り の 会	小 学 生 解 散	演習 「活動支援と 児童理解」	閉 会 行 事	解 散				

(2)・指導者

国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	鎌 田 信 浩
	企画指導専門職	丹 康 浩
	事業推進係	及 川 未 希 生
	事業推進係	高 橋 知 也
	法人ボランティア	27名

(3) 企画のポイント

参加者には、活動を支援する立場として、主体的に学校外における体験活動を行うための心構えや知識・技能を習得する講義・演習の時間を設定した。習得した知識・技能を生かす場として、実際に小学生を対象とした事業にグループリーダーとして主体的に関わらせ、小学生の野外活動の補助や安全管理などの経験が十分に得られるように企画した。

(4) 広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載した。開催要項に関しては、

チラシとともに岩手県内の大学・短期大学、高等学校、報道機関に送付した。

(5) 運営のポイント

「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、法人ボランティアが本事業に向けた企画会議を行い、KJ法を行って内容を絞り込み、活動内容の企画を担当した。企画ごとのワーキンググループに所属し、大学構内でのミーティングやLINEを活用した情報交換、Dropboxを利用したデータの共有等、様々な方法を使って企画内容を構成していった。実際に実践してみる活動も行い、具体的な動きや必要な購入物品について検討することで、より本番をイメージした取組となった。また情報交換のツールとして活用したLINEやDropboxは、職員も確認できるよう、グループのメンバーに登録し、必要に応じてアドバイスをを行い、時間的な部分や企画内容について詰めていった。さらに事業運営がスムーズに行えるよう、職員が組織図を作成し、法人ボランティアとセミナー参加者、そして職員を含めた階層型組織を構築し、明確な役割分担のもと、事業に臨んだ。

体験活動支援セミナーの参加者及び法人ボランティアは、それぞれ別時刻にスタッフミーティングを行い、子どもの宿泊室から大人が離れることがないようにし安全面に配慮した。

7 成果とその普及

本事業は、「テンパークちゃれんじくらぶ」に参加した子供たちが、体験をとおして満足感を得るとともに、体験活動支援セミナー参加者が、子供と接することをとおしてボランティア活動への指針となるべく、事業を展開している。さらに法人ボランティアの企画・運営能力の向上を狙う3つの軸で構成されている。それぞれの立場において、アンケートの結果も大変高い満足度を得ることができ、事業の目的どおりの成長が見られた2日間であった。体験活動支援セミナー参加者は、小学生との関わりの様子から、意識の高さが伺えた。グループリーダーとして、子どもたちと深く関わり、子どもたちと真剣に向き合う中で、子どもたちへの接し方やコミュニケーションの取り方など、多くのことを学ぶことができたと考える。

本事業は、本施設で提唱している「岩手山ボランティア育成ビジョン」が基盤となっている。ボランティア育成の積み重ねが、今回の事業の成果であるといえる。法人ボランティアの企画や活動が体験活動支援セミナー参加者に大きな影響を与え、次のステージの目標となれるよう、このボランティア育成の手法について広く県内外の施設に普及していきたい。

8 今後の課題

ボランティア育成において、ボランティアが活動に参加し満足感を得ることで、継続的に取り組む姿勢をもたせることができ、活動の魅力や価値を伝えることで、循環的な人材育成を図ることができる。このことは、本施設で取り組んでいる「岩手山ボランティア育成ビジョン」を継続していくことが重要であり、ボランティア活動全体が充実したものになっていくよう、今後もことが期待される。動を展開していくことができるとともに、継続的なボランティア育成につながっていくと考える。



班ごとの事前打ち合わせ



プチリンピック 雪だるまづくり



講義の様子

1 事業名

平成27年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「テンパークちゃれんじくらぶ」 ～ドキドキ わくわく 秋～

2 趣旨(事業の目的)

自然体験をとおして、自然を大切にする心、豊かな感性や思いやりの心を育むとともに、ボランティア高校生・大学生また参加者同士の交流をとおして、コミュニケーションの力を育む。

3 期日 平成27年9月12日(土)～13日(日)

4 参加者 65名(盛岡市, 滝沢市, 雫石町の小学生, 3～6年生)

5 後援 盛岡市教育委員会, 滝沢市教育委員会, 八幡平市教育委員会, 雫石町教育委員会

6 内容

(1) 日程

日	13:00		13:30		13:50		15:00			17:30		18:30	
時	20:00		21:00		21:30								
9/12 (土)		参加者受付	はじめの会	きらきらの秋① みんなで楽しもう!	もぐもぐの秋 みんなでクッキング!	夕食	きらきらの秋② みんなで火をかこもう!	入浴	就寝準備	就寝			
日	6:30		7:00		7:30		9:00			12:00			
時	13:00		14:00		14:30								
9/13 (日)	起床	洗面	つどい	朝点・食検	ぺたぺたの秋 みんなでクラフトにチャレンジ!	昼食	片づけ	終わりの会	解散				

(2) 指導者

国立岩手山青少年交流の家

企画指導専門職

鎌田 信 浩

副主任企画指導専門職

中 田 春 輝

事業推進係

及 川 未 希 生

事業推進係

高 橋 知 也

指導補助

法人ボランティア

13名

(3) 企画のポイント

今年度は、秋をテーマにした活動を企画立案した。企画立案に際して、法人ボランティア向けの事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」において、約3週間前と1週間前の2回にわたり企画会議、事前準備を行った。参加した小学生が、楽しく2日間を過ごせるように、体験活動支援セミナーに参加している高校生や大学生を、

グループリーダーとして配置し、高校生や大学生とのふれあいや体験活動をとおして、友達作りや班で協力することの大切さを学ぶことのできる機会を提供した。

今回は、それぞれの活動において秋を満喫できるような工夫を行った。「きらきらの秋」では、体を動かす活動を中心としたスポーツの秋、夜はキャンプファイヤーの時に、月や星についての話をし、お月見を意識させた。「もぐもぐの秋」では、郷土料理のひつまみと炊き込みご飯、焼き芋を各班で協力して調理し、食欲の秋を楽しんだ。「ぺたぺたの秋」では、木材を使ったクラフトに挑戦し、芸術の秋に取り組んだ。どの活動も季節を感じながら、班ごとのコミュニケーションが深まるように、先輩法人ボランティアがプログラムを構成した。

(4) 広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載してきた。また、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の教育委員会教育長、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の各小学校と報道機関へ開催要項とチラシを送付した。

(5) 運営のポイント

体験活動支援セミナーの参加者を2～3名ずつ、小学生7～8人の9グループのグループリーダーとして位置づけて、小学生の参加者が不安を抱くことがないように、あたたかく迎え入れるようにした。また、班が早く仲良くまとまるようにグループリーダーが率先して話しかけ、班のコミュニケーションを深めることで、参加者がより楽しく活動ができるように配慮した。

また、階層型組織キャンプを構成し、本部ミーティング、スタッフミーティング、映像撮影ミーティング、統括リーダーミーティングなど役割を明確にした、質の高い組織運営体制を敷くことで、安全に留意したプログラム展開を実践することができた。(補足資料1を参照)

7 成果とその普及

テンパークちゃれんじくらは、以前も参加して楽しかったので、今回も是非参加したいという参加者が約半数を占め、人気の高い期待されている事業となっている。

参加者のアンケートから「友達がいっぱいできて楽しかったので、また来たい。」「初めは緊張していたけれど、お兄さんやお姉さんが優しくて安心した。たくさん友達ができた。」「みんなで助け合いながら活動できた。大切な思い出として心に焼き付けておきたい。」「みんなでつくったご飯を、みんなで食べてすごくおいしかった。」などの感想がよせられた。一つ一つの活動も楽しいが、他の学校の参加者や、高校生や大学生のボランティアのお兄さんやお姉さんとのコミュニケーションが楽しい要因のようだ。今の子供たちに欠けているといわれるコミュニケーション能力の向上にもつながった。1泊2日という短い期間ではあるが、十分に満足できる活動を提供できたものとする。

8 今後の課題

子供たちの中には、はじめは不安や緊張を感じていたところもあったが、各グループのカウンセラーや仲間とかかわる中でうちとけ、仲良く活動を楽しむ姿が見られた。こうした体験の広がりとして、2日間と短い期間ではあるが、カウンセラーや子供たちがグループで工夫をして活動できる時間を設定できれば、さらにコミュニケーション能力の向上につながると感じた。

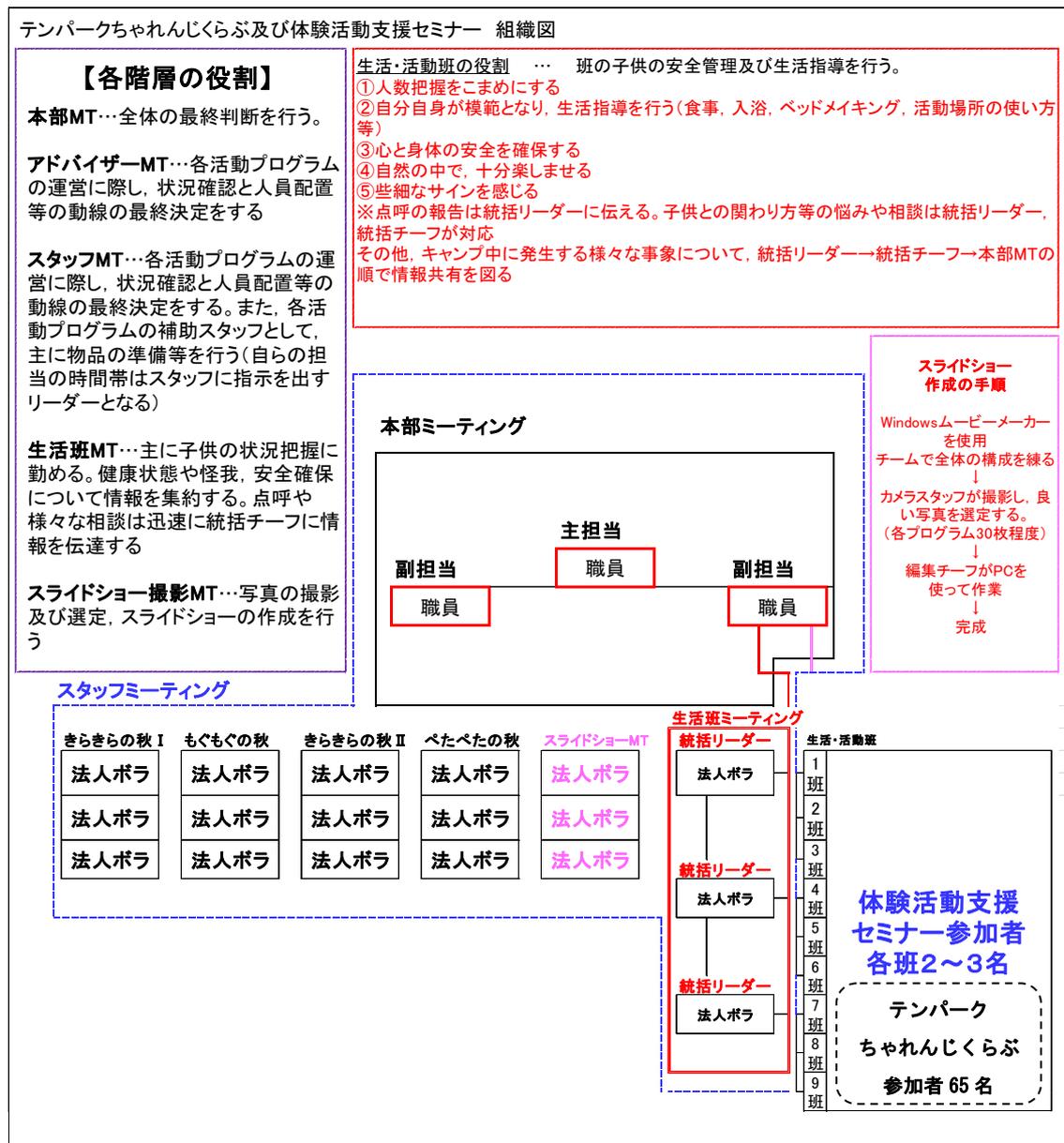
一方で、法人ボランティアが企画立案するに当たり、子供達の手元に届く広報チラシの内容が、抽象的な内容にせざるを得ない状況となり、リピーター中心の集客となっている。この点に関しては、企画立案のタイミングを早め、子供を集客できるメインの体験プログ

ラムを広報チラシに盛り込めるようにしていく必要があり、次回へ向けた課題であるといえる。



もぐもぐの秋(野外炊事) きらきらの秋(キャンプファイヤー) ペたぺたの秋(クラフト)

補足資料1 テンパークちゃれんじくらぶ及び体験活動支援セミナー 組織図



1 事業名

平成27年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「テンパークちゃれんじくらぶ ～ドキドキ わくわく 冬～」

2 趣旨（事業の目的）

自然体験をとおして、自然を大切にする心、豊かな感性や思いやりの心を育むとともに、ボランティアの高校生・大学生また参加者同士の交流をとおして、コミュニケーションの力を育む。

3 期日

平成28年1月16日（土）～17日（日）

4 参加者

盛岡市，滝沢市，紫波町，雫石町の小学生，3～6年生（92名）

5 連携・協力

岩手県教育委員会，盛岡市教育委員会，滝沢市教育委員会，盛岡大学
ユーレストジャパン（株）岩手店

6 内容

（1）日程

日時	13:00 13:30 13:50			16:30 17:30 18:30			20:00	21:00	21:30
7日 (土)	受 付	は じ め の 会	テンパーク プチリンピック！ ～雪上運動会～	ラ ン タ ン づ く り	タ 食	スノーマジック ファンタジー ～キャンプ・ ファイヤー～	入 浴	就 寝 準 備	就 寝
日時	6:30	7:00	7:20	8:45	9:30	13:00	13:30	13:45	14:00
8日 (日)	起 床	洗 面 ・ 清 掃	つ ど い	朝 食 ・ 休 憩	退 所 点 検	もちフェス！ ～もちつき大会～	ア ン ケ ー ト 記 入	お わ り の 会	解 散

（2）指導者

国立岩手山青少年交流の家

企画指導専門職

鎌田 信浩

企画指導専門職

丹 康浩

事業推進係

及川 未希生

事業推進係

高橋 知也

指導補助

法人ボランティア

26名

（3）企画のポイント

体験活動支援セミナーに参加している高校生や大学生とのふれあいや体験活動をとおして、友達づくりや班で協力することの大切さを学びながら、楽しい2日間を過ごせるように生活班に複数名のグループリーダーを配置した。

はじめに、全体でのアイスブレイクを行い参加者の緊張をほぐし、班ごとのコミュニケーションが深まるようにプログラムを構成した。プチリンピックでは雪上でダイナミックに体を動かしたり、もちフェスでは臼と杵を使って、実際にもちをつき、伝統的な雑煮や一般的な味付けから、ちょっと変わったものまで、様々な餅の味覚を楽しんだり、冬を満喫する企画を立てて臨んだ。

(4) 広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載してきた。また、盛岡市、滝沢市の教育委員会教育長、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の各小学校と報道機関へ開催要項とチラシを送付した。

(5) 運営のポイント

体験活動支援セミナーの参加者を各グループ2～3名ずつ、小学生10グループのグループリーダーとして位置づけて、小学生の参加者が不安を抱くことがないようにあたたかく迎え入れるようにした。班が早く仲良くまとまるようにグループリーダーが率先して会話をするを心掛け、班のコミュニケーションを深めることで、参加者がより楽しく活動ができるように配慮した。職員と法人ボランティアは、グループリーダーや子どもたちの様子を観察しながら、活動の支援を行うことで活動が円滑に流れるようし、グループリーダーが子どもたちから信頼を得られるようにした。

7 成果とその普及

参加者のアンケートから「来たときは一人ぼっちだったけど、その日の夜はみんなが友達になっていた。」「いろいろな活動をとおして、みんなと協力し、友情を深められたのでよかった。」「班のリーダーがおもしろくて、いい思い出になった。」「グループリーダーと協力し合い、たくさん笑って過ごせた。」などの感想がよせられた。他の学校の人と友達になれたことや、高校生や大学生とのコミュニケーションが楽しい要因であったことがうかがえる。法人ボランティアが企画した活動一つ一つが参加者にとって魅力的なものとなり、活動を楽しみながらグループから全体へと交流の輪が広がっていった。2日間、様々な活動をとおして、本事業の趣旨であるコミュニケーションの力を育む機会を、1泊2日という短い期間ではあるが十分に提供できたものとする。この結果について、広く県内外の施設に普及していきたい。

8 今後の課題

初日は活動がおしてしまうことで、多少窮屈な日程になってしまった部分もあった。反面、2日目は時間的に余裕ができたところで、グループ内での会話や鬼ごっこ、だるまさんが転んだなどの遊びをグループリーダーが中心となって過ごす時間をとることができた。こうした自由時間を活用することで、さらにコミュニケーションの力を育むことができると感じた。今後は個人の部分からグループ、全体へとつながりが広がっていくような時間を設けていきたい。活動をとおしたグループ内でのつながりと、時間的な余裕の中で生まれるかかわりのバランスを考慮に入れて事業を展開していくことで、参加者自身のコミュニケーション能力が高まっていくと考える。そうした活動の支えとなるグループリーダーの働きも非常に重要になってくるので、事前の打合せや準備をしっかりと行い、参加した小学生に寄り添っていく姿勢を今後も大切にしていきたい。

また、この事業は、リピーターの多い事業ということで、新規の参加者にも多く参加していただけるよう、今年度は広報の幅を広げた。結果として多くの参加者を得ることができた。今後は日程等も考慮に入れながら、広報についてさらに工夫していきたい。



アイスブレイク



プチリンピック
「雪だるまづくり」



もちフェス！

- 1 事業名
平成27年度教育事業「体験の風をおこそう」運動協賛事業 テンパークまつり 2015
- 2 趣旨（事業の目的）
岩手山青少年交流の家（テンパーク）を広く地域に開放し、当施設の様々な活動プログラムなどの体験を通して、施設の理解と利用の促進を図ると共に震災復興に立ち向かっている県民の元気回復に寄与する。
- 3 期 日
平成27年9月27日（日）9：00～15：30
- 4 参加者
4,361名
- 5 後援
岩手県教育委員会 盛岡市教育委員会 滝沢市教育委員会
- 6 協力
ユーレストジャパン株式会社, ファーム仁王, りんりん舎, みのりホーム, みどり学園, ことりさわ学園, 和光学園, 岩手大学 IWATE STREET PERFORMANCE CLUB, 元村こどもさんさ愛好会, 国立花山青少年自然の家, 国立磐梯青少年交流の家, 国立那須甲子青少年自然の家
- 7 協賛
(株)浅沼工務店, (社)岩手県薬剤師会検査センター, 岩手トヨペット(株), (株)いんべりネンサプライ, 北岩手環境保全, キョウワセキュリオン(株), コセキ(株)盛岡営業所, (株)小山商会盛岡営業所, 三機商事(株), (株)三幸堂ビジネス盛岡店, 松栄商事(株), 東北ビル管財(株), (株)ジャパンビバレッジ東北, (株)トライス, 杜陵高速印刷(株), (株)ネクサス, (株)橋市物産, (株)平金商店, 富士水工業(株), (有)万作石油店, フルテック(株), 盛岡ガス燃料(株), (株)ユアテックサービス岩手営業所
みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会

8 内 容

つどいの 広場	開会式(9:00) 和太鼓発表 《みどり学園・ことりさわ学園(9:00～)》 伝統さんさ踊り《元村こどもさんさ愛好会(9:45～10:10)》 ジャグリング 《岩手大学 IWATE STREET PERFORMANCE CLUB(10:15～10:45)》 さんさ踊り 《和光学園(10:55～11:10)》 フードコーナー(9:00～15:00) テンパークスタンプラリー(9:30～15:00) 閉会式(15:30)
多目的B 研修室	カブトムシゆかりの昆虫教室 《カブトムシゆかり(13:00～14:00)》
グラウンド	ストラックアウト(9:30～15:00) ディスク投げ(9:30～15:00) スナッグゴルフ(9:30～15:00) PKボーリング(9:30～15:00)

体育館	スリッパ飛ばし (9:30~15:00) ハンガー釣り (9:30~15:00) 寝袋はやたたみ (9:30~15:00)
卓球場	かさバランス (9:30~15:00) ビーズつかみ移し (9:30~15:00) 枕つみ (9:30~15:00)
ホール	こけしの絵付け <<花山青少年自然の家 (9:00~15:00)>>
研修室	七宝焼 (9:00~15:00) チャグチャグ絵馬 (9:00~15:00) あけびつるクラフト① (9:00~12:00) ② (13:00~15:00)
曲家	昔の話を聞いてみよう ① (11:00~11:30) ② (13:15~13:45) ③ (14:15~14:45) 草木染め① (10:30~12:00) ② (13:00~14:30)

(2) 指導者

あけびつるクラフト	国立岩手山青少年交流の家	創作活動指導員	田中 潔 氏
チャグチャグ絵馬		創作活動指導員	階 幸男 氏
草木染め		創作活動指導員	西田 宏子 氏
昔の話を聞いてみよう		指導員	太田トミエ 氏
		指導員	藤沢 昭子 氏
		指導員	斉藤 桃江 氏
こけしの絵付け	国立花山青少年自然の家	企画指導専門職	村上 卓 氏
		企画指導専門職	奥山 洋 氏
		安全推進専門職	曾根 正幸 氏
		事業推進係	松田久美子 氏
スナッグゴルフ	国立磐梯青少年交流の家	企画指導専門職	岡本 康博 氏
	国立那須甲子青少年交流の家	事業推進係	湯川 枢 氏

(3) 企画のポイント

特別企画ということで、カブトムシゆかりさんを講師に「カブトムシゆかりの昆虫教室」を開催したり、地元の滝沢市に古くから伝わる伝統さんさのこどもたちによる発表や、岩手大学学生によるジャグリングのステージ発表を盛り込んだりすることで、多様な来場者に楽しんでもらえるよう配慮した。

(4) 広報のポイント

盛岡市、紫波町、矢巾町、八幡平市、雫石町、滝沢市の全小学校と盛岡市、八幡平市、滝沢市の幼稚園と保育園にチラシを送付した。滝沢市広報誌へチラシの折り込み、地域情報誌、HPへの掲載を行った。

9 成果とその普及

当日は、施設ボランティアや社会教育実習生・インターンシップを含め約80名のスタッフで運営し、4,361名の参加者から100%の満足度を得ることができた。参加者からは「毎年楽しみにしています。」「職員の方々やボランティアの皆さんが親切で良かったです。」等の感想を頂いた。このことにより、施設の理解と利用促進を図ると共に震災復興に立ち向かう岩手県民の元気回復に寄与するという当初の目的を達成できたと考える。

特別企画として、テレビやラジオ等で活躍しているカブトムシゆかりさんの昆虫教室を開催したことで、集客率を伸ばすことができた。さらに、新たな活動プログラムとして、「テンパーク10種競技大会」を行い、幼児から大人まで幅広い年齢層の方々が楽しんでいただけた。

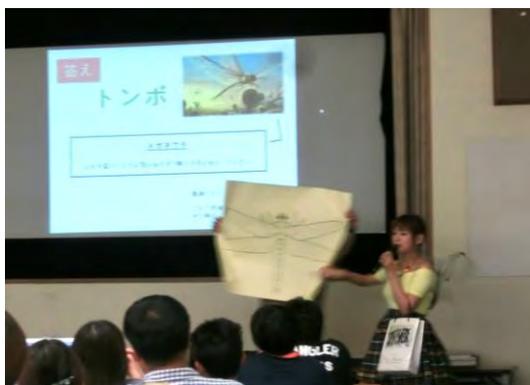
また、東北の国立4施設と連携することで、指導方法や運営方法の情報交換を行うことができた。

今年度は、協賛として23社を得ることができた。また、連携機関12カ所の他、当施設の活動プログラム登録指導者の協力を得て実施したことにより、各連携先との関係が深められた。

10 今後の課題

今後もより多くの参加者を対象に質の高い内容を提供するためには、活動プログラムの開発とイベント内容の精査、ボランティアスタッフのスキルアップが重要であると考えられる。参加者が多かった活動では、参加者をかなり待たせた場面も見られた。時間の調整やスタッフの配置、場の設定の工夫も課題である。

岩手大学学生サークルのステージ発表は質も高く参加者からも好評であった。学校の活動発表の場としての役割も積極的に担っていきたい。



カブトムシゆかりの昆虫教室



創作活動（こけしの絵付け）



スナッグゴルフ（テンパーク10種競技大会）



ステージ発表（元村こどもさんさ愛好会）



テンパーク10種競技の表彰式



表彰終了後の記念撮影

1 事業名

平成27年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「テンパークまつり2015 親子宿泊体験」

2 趣 旨

国立岩手山青少年交流の家（テンパーク）を広く地域に開放し、当施設の様々な活動プログラムなどの体験を通して、施設の理解と利用の促進を図るとともに、震災復興に立ち向かっている県民の元気回復に寄与する。

3 期 日

平成27年9月26日（土）～27日（日） 1泊2日

4 参加者

小学生以下の親子 73家族234名

（大人：男38名・女66名，中学生：男2名・女3名，小学生：男50名・女39名，未就学児：男15名・女13名，未満児：男5名・女3名）

5 連携・協力

岩手大学地域連携推進機構

6 日 程

(1) 内容

【1日目 9月27日（土）】

15:00	16:00	16:30	18:00	19:00	19:30	20:30	22:00
受付	オリエンテーション	親子レクリエーション	夕食 (バイキング)	休憩	科学実験教室	入浴 自由時間	就寝

【2日目 9月28日（日）】

6:30	7:00	7:30		8:30	8:45	9:00
起床 洗面 清掃	つどい	朝食 (バイキング)	清掃	退所 点検	見て・聞いて・ふれて 体験「テンパークまつり」自由参加	

(2) 指導者

岩手大学地域連携推進機構

准教授 生涯学習部門長 今井 潤 氏
岩手大学学生

国立岩手山青少年交流の家

主任企画指導専門職 桑原 玲子
企画指導専門職 中田 春輝
企画指導専門職 鎌田 信浩
事業推進係長 田口 康宏
事業推進係 及川 未希生
事業推進係 高橋 知也
法人ボランティア

(3) 企画のポイント

親子の交流を楽しむことと参加家族同士の交流を深めることをねらい、職員による親子レクリエーションをプログラムに取り入れた。また、幼児から小学校高学年までの子供た

ちが楽しめるように岩手大学地域連携推進機構に依頼し、科学実験教室を企画した。2つのプログラムともに、飽きることなく楽しむことができるようにプログラムの時間を設定した。

(4) 広報のポイント

当施設のある滝沢市をはじめ、盛岡市とその近隣の市町村の小学校に、それぞれの学校児童数分の募集要項を配布した。また、昨年度の本事業への応募やみちのく「体験の風をおこそう」運動事業「親子で楽しむ 自然体験 in 冬のテンパーク」へ応募いただいた全家族にダイレクトメールを送付した。

さらに、本施設のホームページにも募集要項を掲載し、事業広報の拡大を図った。

(5) 運営のポイント

参加家族がゆとりをもって準備や移動ができるように、プログラムの日程に余裕をもたせた。それぞれのプログラムの時間は長くなり過ぎないように設定した。

オリエンテーション、ベッドメイキング、部屋の清掃、朝のつどいなど、青少年教育施設での生活についても親子で体験することにより、楽しい時間を過ごしながらも規律ある生活ができるようにし、参加者の施設に対する理解を深めるようにした。

7 成果とその普及

当施設職員による親子レクリエーションでは、限られた時間の中で多くのレクリエーションを体験することができ、参加者は充実したひと時を過ごすことができた。参加者からは、「親子でゆっくりとレクリエーションや実験教室を楽しむことができました。他の家族の方とも知り合うことができ、よい交流になりました。」「他で経験したことのない楽しいレクリエーションや科学実験教室に子供もテレビのないことなども忘れ、心から楽しい時間を過ごすことができました。今年はお友達もできて、より貴重な体験となったことを喜んでいます。」「思ったより多くのファミリーが参加していて驚きました。所員やボランティアの方々のおかげで楽しく活動することができました。時間設定も余裕があり、追い立てられ感がなく、小さいお子さん連れのファミリーもよかったです」という声が聞かれた。今回の体験が今後の親子の交流の手段や家族間の交流のきっかけの一つとなった。

岩手大学地域連携推進機構による科学実験教室は、特に子供たちに大変好評であった。保護者の方からも、子供たちと楽しく学ぶことができた満足いく感想が寄せられた。

宿泊体験をして、保護者の方からも「青少年交流の家はとて素晴らしい施設だった。また親子で参加できる企画があったら参加させていただきたい。」「テンパークは楽しいからまた来たい。と子どもが言っています。今後も我が家の恒例行事になればよいと思っています。」という感想が寄せられた。プログラムと青少年教育施設での生活体験が、施設の利用と普及につながっていくものと期待できる。

8 今後の課題

参加対象が小学生以下の親子ということもあり、幼児の参加も多かった。今後の利用促進を図るうえでは、幼児の利用を想定した施設設備の整備も必要になってくる。



親子レクリエーション



親子レクリエーション



科学実験教室

1 事業名

「体験の風をおこそう」運動協賛事業
平成27年度教育事業 「kids together えいごdeキャンプ in テンパーク」

2 趣旨（事業の目的）

東日本大震災の被害を受けた岩手県内沿岸市町村の陸前高田市・大船渡市・釜石市・宮古市・久慈市・住田町・大槌町・山田町・岩泉町・田野畑村・洋野町・野田村・普代村の児童生徒に対し復興支援の一環として、様々な自然体験活動や英語を使った国際交流活動を行い、同郷の友達と交流やふれあいを深めるとともに、豊かな心を育み心身のリフレッシュの機会とする。

3 期日

- ①平成27年 5月23日（土）～24日（日） 1泊2日
- ②平成27年 7月25日（土）～27日（月） 2泊3日
- ③平成27年10月11日（日）～12日（月） 1泊2日
- ④平成27年12月12日（土）～13日（日） 1泊2日
- ⑤平成28年 2月27日（土）～28日（日） 1泊2日
- ⑥平成28年 3月26日（土）～27日（日） 1泊2日
- ⑦平成28年 3月28日（月）～29日（火） 1泊2日

4 参加者

陸前高田市・大船渡市・釜石市・宮古市・久慈市・住田町・大槌町・山田町・岩泉町・田野畑村・洋野町・野田村・普代村の小学校3年生～中学校3年生

- ①小学校3年生～中学校3年生 25名
ボランティア 8名 (NICE ボラ5名, HSBC 社員ボラ3名)
- ②中学校1年生～中学校3年生 21名
ボランティア 20名 (NICE ボラ15名, HSBC 社員ボラ5名)
- ③小学校3年生～中学校3年生 204名
ボランティア 5名 (NICE ボラ28名, HSBC 社員ボラ4名, 岩手山ボラ25名)
- ④小学校3年生～中学校3年生 124名
ボランティア 61名 (NICE ボラ24名, HSBC 社員ボラ4名, 岩手山ボラ33名)
- ⑤中学校1年生～中学校3年生 16名
ボランティア 7名 (NICE ボラ3名, HSBC 社員ボラ4名)
- ⑥小学校6年生～中学校3年生 61名
ボランティア 18名 (NICE ボラ11名, HSBC 社員ボラ7名)
- ⑦小学校6年生～中学校3年生 44名
ボランティア 14名 (NICE ボラ11名, HSBC 社員ボラ3名)

5 連携・協力

- (1) 主催：NPO法人日本国際ワークキャンプセンター（NICE）
- (2) 共催：国立岩手山青少年交流の家
- (3) 協賛：HSBCグループ, Water Dragon Foundation, みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会
- (4) 協力：自然遊びクラブ, 株式会社岩手ホテル&リゾート
- (5) 後援：宮古教育事務所, 沿岸南部教育事務所, 県北教育事務所

6 内容

(1) 日程

- ①【第1日目 5月23日(土)】小岩井農場・ホテル志戸平
英語のゲーム・小岩井農場探検・宮澤賢治童話語り部
【第2日目 5月24日(日)】小岩井農場・ホテル志戸平
英語に親しもう-英語のゲーム-英語の歌を歌ってみよう
- ②【第1日目 7月25日(土)】安比高原
チームビルディングゲーム・テント設営・野外炊事
【第2日目 7月26日(日)】安比高原
マウンテンバイク体験・英語で発表会
【第3日目 7月27日(月)】安比高原
思いで創作体験
- ③【第1日目 10月11日(日)】国立岩手山青少年交流の家
森のウォークラリー・ハロウィンパーティー(ミュージックプログラム)
【第2日目 10月12日(月)】国立岩手山青少年交流の家
ハロウィンパーティー(クラフトワークショップ, インターナショナルゲーム, 音楽・科学・スポーツ体験)
- ④【第1日目 12月12日(土)】盛岡市アイスリンク・アイスアリーナ, 国立岩手山青少年交流の家
スケート体験教室・クリスマスコンサート
【第2日目 12月13日(日)】国立岩手山青少年交流の家
クリスマスパーティー(クラフトワークショップ, インターナショナルゲーム, 音楽・科学・スポーツ体験)
- ⑤【第1日目 2月27日(土)】安比高原
スキー・スノーボードレッスン, 国際交流ゲーム
【第2日目 2月28日(日)】安比高原
スキー・スノーボードレッスン, ポールバーンに挑戦
- ⑥【第1日目 3月26日(土)】安比高原
スキー・スノーボードレッスン, 国際交流ゲーム
【第2日目 3月27日(日)】安比高原
スキー・スノーボードレッスン
- ⑦【第1日目 3月28日(月)】安比高原
スキー・スノーボードレッスン, 国際交流ゲーム
【第2日目 3月29日(火)】安比高原
スキー・スノーボードレッスン

(2) 指導者

自然遊びクラブ

NPO法人日本国際ワークキャンプセンター(NICE)

岩手山青少年交流の家 企画指導専門職

事業推進係

イーハトーヴォ安比高原自然学校

岩手県スケート連盟公認指導員

ICT音楽教育家

夜長三丁目カルテット

安比高原 スキー, スノーボードインストラクター

豊留 雄二 氏

上田 英司 氏

丹 康浩, 中村 聡

及川未希生, 高橋知也

5名

10名

鈴木 正樹 氏

寺山 貴大 氏

(3) 企画のポイント

東日本大震災の被害を受け仮設住宅で暮らす子供たちや、学校の校庭に仮設住宅が立ち並び、十分な遊びができない子供たちが、思いっきり遊ぶことのできる体験プログラムを設定した。事前に安全管理意識を高めるための綿密な打ち合わせを実施したことで、交流の家、HSBC、NICE のスタッフ間で密な連携をとることができ、プログラムを安全に進めることができた。各回のプログラムでは、チームで協力したりチャレンジしたりする機会を多く設定した。その際、仲間と支え合い交流を深めるとともに楽しみながら英語に触れ国際理解を深めることができるように外国人ボランティアと密な打ち合わせを行った。

(4) 広報のポイント

宮古教育事務所、沿岸南部教育事務所、県北教育事務所の理解と協力を得て、事務所管内の小学校・中学校にチラシを配布し、企画の周知を行った。

(5) 運営のポイント

「えいご de キャンプ」は、HSBC グループのコーポレート・サステナビリティ（社会貢献）事業の一環で行われている。また、委託先である主催団体の NICE は、青年向けの国際ワークキャンプ団体である。

NICE は、組織としての運営ノウハウを高いレベルで有しているが、青少年に関わるための教育的ノウハウや、安全に野外活動を実施するための指導力の確保が課題である。そこで、開催地である岩手山青少年交流の家が職員及びボランティアを派遣することで教育的ノウハウを補完し、同じく開催地の団体である「自然遊びクラブ」が野外活動の安全面についてコーディネートすることで、事業の効率的かつ質の高い運営を実現している。

交流の家を含めた 4 つの団体は「沿岸地域の児童を支援する」という目指すべきミッションを共通で認識しており、それぞれの団体が、その特性を存分に活かすことで有機的な協力関係を実現している。

NICE のキャンプ運営ノウハウ、HSBC グループの多国籍社員スタッフの派遣、自然遊びクラブの野外活動スキル、そして岩手山青少年交流の家の教育的ノウハウが密接に絡み合い、事業を運営している点が本事業における最大の運営ポイントであるといえる。

7 成果とその普及

子供達の感想からは、「友達もたくさんつくることができたし、パーティーも楽しかった。外国の人ともいろいろなゲームができてとても楽しかった。」「外国の人に教えてもらいながらいろいろな国のことや言葉を学ぶことができた。」「英語を使うゲームで外国の人と話ができるようになったし、新しい友達ができとても楽しかった。またこのキャンプに参加したい。」などの感想が寄せられた。このことから、キャンプの特徴である外国語圏のスタッフとの国際交流やコミュニケーション・友達同士の交流を通して心身共にリフレッシュでき、活動内容の有効性が認められたと考えられる。また、普段外国の人と接することが少ない子供たちにとってこのキャンプは、外国語圏のスタッフとコミュニケーションを図る大変良い機会となった。様々な活動をともに行うことで英語を身近なものと感じることができた。

また、「えいご de キャンプ」では、平成 25 年度から継続して参加者の「情動知能 (EQSC)」調査を実施している。データの分析から震災が被災地の子供に対する心理的な影響が明らかとなってきている。このことから、調査結果をより詳細に分析することは、子供たちの実情に合わせたケアやプログラムを考える上で非常に有効な情報となると考えられ、今後

もデータの蓄積を行うとともに多角的に分析を行っていきたい。

企画の概要・報告書等はHPへの掲載，館内に写真を掲示し利用者への紹介をととして幅広く普及に努めた。

8 今後の課題

毎回，季節に応じたプログラムを提供しているが，さらに，HSBC・NICE等との連携を深め，外国人スタッフと英語を用いた活動プログラムを開発し，プログラム全体を改善しながら事業展開を行っていきたい。



外国人と初めての交流



MTB ミニツーリング



ハロウィンパーティ



インターナショナルゲーム



スケートにチャレンジ



クリスマスコンサート

1 事業名 平成27年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
通学合宿「テンちゃん一家の一週間」

2 趣 旨

日常の家庭生活とは切り離れた環境で、異なる学校・学年同士での共同生活や学習活動を行い、人と関わる力や集団生活のマナー、基本的な生活習慣の育成を図る。

3 期 日 平成27年11月8日(日)～11月14日(土)

4 参加者 滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢東小学校4～6年生 35名
(4年生 5名 5年生 14名 6年生 16名)

5 連携・協力 滝沢市教育委員会、滝沢市立滝沢第二小学校、滝沢市立滝沢東小学校

6 内 容

(1) 日 程

11月8日 (日)	日		14:30	14:40	15:00	15:30	15:45	16:00	17:30	18:15	19:00	20:00	20:30	21:10	21:30	
		※バス 送迎乗 降者	滝沢東小 学校発	滝沢第二小 学校発	受付	はじめの 会	オリエン テー ション	アイスブレイク (館内OL)	ベトナム 荷物整理等	夕食	一週間のめあてづくり	1日を ふりかえる	入浴	就寝準備	就寝	
11月9日 (月)	月	6:15 起床	6:45 朝の つどい 朝食	7:30	通 学 中			16:00頃 学校発 バス移動	17:00 学習時間	18:00 休憩	18:15 夕食	19:00 学習・交流 【アトベンチャープログラム】	20:00 1日を ふりかえる	20:30 入浴	21:10 就寝準備	21:30 就寝
11月10日 (火)	火	6:15 起床	6:45 朝の つどい 朝食	16:00頃 学校発 バス移動				17:00 学習時間	18:00 休憩	18:15 夕食	19:00 学習・交流 【レクリエーション】	20:00 1日を ふりかえる	20:30 入浴	21:10 就寝準備	21:30 就寝	
11月11日 (水)	水	6:15 起床	6:45 朝の つどい 朝食	15:00頃 滝沢第二 小学校発 バス移動				16:00頃 滝沢東小 学校発 バス移動	17:00 学習時間	18:00 休憩	18:15 夕食	19:00 学習・交流 【創作活動・ スーパージョッキー】	20:00 1日を ふりかえる	20:30 入浴	21:10 就寝準備	21:30 就寝
11月12日 (木)	木	6:15 起床	6:45 朝の つどい 朝食	15:00頃 学校発 バス移動				15:30	17:00 自由あそび	18:15 夕食	19:00 学習・交流 【星空観察】	20:00 1日を ふりかえる	20:30 入浴	21:10 就寝準備	21:30 就寝	
11月13日 (金)	金	6:15 起床	6:45 朝の つどい 朝食	16:00頃 学校発 バス移動				17:00 学習時間	18:00 休憩	18:15 夕食	19:00 学習・交流 【家訓づくり】	20:00 1日を ふりかえる	20:30 入浴	21:10 就寝準備	21:30 就寝	
11月14日 (土)	土	6:30 起床	7:00 朝の つどい 朝食	8:20 清掃活動				8:45 退所点検	9:20 成果発表 ふりかえり活動 アンケート記入	10:30 おわりの会	11:35-45 滝沢東小→ 滝沢第二小着					

(2) 指導者

・生活・学習指導全般、交流の時間の指導 国立岩手山青少年交流の家職員・法人ボランティア

(3) 企画のポイント

時間を意識して行動するために、それぞれの活動がゆとりをもってできるよう日課を改善した。規則正しい生活及び家庭学習の習慣を形成するために日課を固定し、きめ細やかな指導ができるように学生のボランティアスタッフを配置した。また、人とかかわる力や集団生活のマナーを学びながら、意欲を持続させるために交流学習の時間を設定し、職員が担当した。交流学習の「レクリエーション」では、ボランティアスタッフがこれまでのボランティア研修で学んだ事を生かして、活動内容を企画し実践する場とした。

調査研究として、参加小学生に対して事業前後にアンケートを実施した。また、保護者に対しては事業後にアンケートを実施し個々の変容や事業の有効性を探るよう企画した。

(4) 広報のポイント

年度初めに各学校を訪問し、校長、副校長、教務主任等に事業の趣旨や内容の説明と広報を行った。また、4月に行われたPTA総会等で事業について周知してもらうように依頼した。

企画段階においては、各学校との綿密な日程調整を行い、協力を得ながら企画を進め、事業1か月前には4～6年生にチラシを配布した。

(5) 運営のポイント

基本的な生活習慣を身につけることに重点を置き、1週間をとおして決められた生活リズムと時間を意識した行動ができるように活動プログラムを工夫した。また、異学年・異学校の児童が交わり、色々な人からの影響を受けながら活動や生活できるようにグループ分けをした。児童たちの活動が自発的なものになるための工夫としては、毎日の活動の最後に「1日をふりかえる」時間を設け、ビーイングに児童たちの思いや生活の中で気づいたことを書き込ませ、思いや考えを見える形で積み重ねた。最終日前日の夜にKJ法を用いながら、1週間をかけて書き込まれたビーイングから、個人の思いや考えをグループの話し合いをもとに整理し大切な言葉を組み合わせながら、これからの生活の中で生かせる「家訓づくり」としてまとめる活動を取り入れた。

1週間をとおして班での生活が中心になることから、初日から3日目までの交流学习の時間は、班員がまとまって行動し協力して活動するものとして、「館内オリエンテーリング」、「アドベンチャープログラム」、「レクリエーション」を実施した。4日目以降の交流学习は、小刀を使った「スーパー竹とんぼづくり」、職員による星座教室「星空観察」など、個人や全体での体験活動を実施した。

健康面と登下校時の安全確保における配慮として、健康観察は朝と就寝前に行い、体調や排便の有無、薬の服用について聞き取りをするとともに、必要に応じて学校と連絡を取り合った。通学バスにはボランティアスタッフが同乗し児童の掌握及び乗下車時の安全確保を行った。

児童の就寝後にスタッフミーティングを設定し、共有すべき内容や児童への対応に関する悩みを出し合い、その対策を話し合う場とした。その後の個々の「1日をふりかえる」も含め、短時間に効率よく実施することでスタッフの睡眠時間を確保した。

7 成果とその普及

合宿前半に集団や班を中心とした活動プログラムを集中して組み込んだので、児童たちはすぐに班員やボランティアスタッフと仲良くなり、班でまとまって行動することが浸透していた。

1週間の通学合宿をとおして、下校バス到着後すぐに家庭学習の時間を設定したことにより、落ち着いた学習に取り組む姿が見られた。児童からも「いつもよりも集中して勉強ができた」「わからないところをていねいに教えてもらった」という感想が聞かれた。

生活に関しては、「衣・食・住」を自らの力で取り組ませたことにより、「洗濯や持ち物の整頓など自分のことは自分でできるようになったし、バランスの良い食事をとるようこころがけた」という児童の声が聞かれた。また、集団生活の約束事を「家訓」として提示し、「1日をふりかえる」や評価の方法を工夫したことにより、児童への浸透が見られ、ねらいとしている基本的な生活習慣の定着につながった。

参加児童とその保護者のアンケートは、過去3年間のデータも見ながらまとめ、事業の成果を広めるとともに今後の事業計画、運営に生かしていきたい。また、6年生の参加児童から「別の学校の6年生と仲良く交流できたので中学校入学後に再会するのが楽しみだ」という児童の感想が多くあった。この事業が「中1ギャップ」の解消につながっている取り組みであることも普及していきたい。

8 今後の課題

6泊7日の長期事業であり、安全・健康を第一に運営を心がけたが、冬場に入った時期で、宿泊室が乾燥した状況により喉の痛みを訴える児童が多かった。合宿後半は部屋の換気を多めに行ったが、今後は期間中をとおして室内の生活環境に気を配っていくことが重要であると感じた。

二校合同での通学合宿は今回で2回目である。今回の事業の趣旨としては十分な成果を上げることができたと感じているが、今年度の参加状況を見るとリピーターの応募が多く、新規の申し込み者が少なかった。来年度は、新規申込者が増えるようにPRを工夫していきたい。



帰所後の学習をしている様子



洗濯の様子



竹とんぼづくりの様子

1 事業名

平成27年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動推進事業
平成27年度岩手県内青少年集団宿泊教育施設職員合同研究会

2 趣 旨

岩手県内の青少年集団宿泊教育施設が当面する諸課題について、共通理解を深めるとともに、今後の施設運営の充実と発展のための方策を研究協議する。

3 期 日

平成27年11月18日（水）～19日（木） 1泊2日

4 会 場

岩手県立県南青少年の家

5 参加者

岩手県内の青少年集団宿泊教育施設関係職員 43名

- ・岩手県立陸中海岸青少年の家
- ・岩手県立県南青少年の家
- ・岩手県立県北青少年の家
- ・盛岡市立区界高原少年自然の家
- ・国立岩手山青少年交流の家

6 内 容

(1) 日程

【1日目】11月18日（水）

	13:00	13:15	13:45		15:15	15:30	15:45		17:15	18:30		21:00
	22:00											
	受 付	開 会 式	講 演	写 真 撮 影	休 憩	研 究 協 議	入 浴 ・ 休 憩	情 報 交 流 会 〔 兼 夕 食 〕	就 寝 準 備	就 寝		

【2日目】11月19日（木）

	6:30	7:30	9:00		11:45	12:00
	起 床	朝 食	(株) ト ロ ン 東 北 （ 東 京 エ レ ク 察 先 進 企 業 視	閉 会 式	解 散	

(2) 指導者

講演講師 えさし郷土文化館 館長 相原 康二 氏

(3) 企画のポイント

岩手県内の青少年集団宿泊施設が当面している諸課題（管理・指導・食堂部門）について

共通理解を深めるとともに、岩手県の郷土について理解を深める講演会を行った。

(4) 広報のポイント

7月に行われた岩手県内青少年集団宿泊教育施設連絡協議会の役員会において、開催期日の確認と分科会ごとの研究協議と体験的な研修を行うことと、各施設の職員の積極的な参加について依頼した。

(5) 運営のポイント

研究協議を運営するにあたり、事前に各施設から提出された協議事項を集約し、それぞれの施設において、他施設からの提案について改善策を検討し参加してもらった。

7 成果とその普及

講演会では、えさし郷土文化館館長 相原 康二氏から「岩手県の歴史－日本列島の境界地帯－」と題し、岩手の郷土について分かりやすく、丁寧に教えていただいた。「岩手の地には、歴史地理学的・考古学的な境界地帯があり、中世に安倍氏・清原氏・奥州藤原氏が活躍できたのは、この地域を根拠地にしたからであった。」「平泉文化の精髓は、平和・平等な社会の実現であった。」といった言葉が印象的であった。岩手の歴史を見直し、改めて考えるきっかけとなった。

その後の研究協議は管理・指導・食堂の3部門に分かれて行った。管理部門では「環境整備に関わる予算について」・「岩手県で開催される国民体育大会時の宿泊における問題点、課題等について」、指導部門では「各施設の抱えている悩みや現状の交流」・「施設ボランティアについて」、食堂部門では「国民体育大会の対応について」・「アレルギー対応などについて」等について話し合った。各部門において積極的な意見交流が行われ、今後に向けて有意義な話し合いとなった。

この事業報告を、岩手山青少年交流の家のHPに掲載することによって、広く周知を図る。

8 今後の課題

毎年、施設の持ち回りで行われている研究会であることから、施設の特徴を生かした運営が来年度も必要である。次年度の開催時期決定については、各公所で年間行事を立てる上で、なるべく早く行った方がよい。



講演「岩手県の歴史－日本列島の境界地帯－」



研究協議「指導分科会」



参加者集合写真

(3) 企画のポイント

岩手県内盛岡市近隣の小学校では、3学期に体育の授業で「スキー」が行われることが多いため、小学校の授業の前にスキーに慣れ親しむことに重点を置いて企画した事業である。そのため、事業名も「スキー体験 in テンパーク」とし、あえて「体験」という言葉を使用した。スキー体験では、できるだけ小グループにし、参加者一人ひとりに目が行き届くようにスキー協会を中心に指導を依頼した。

体験だけではなく、スキーに対しより幅広く興味を持ってもらうために「スキーの話」の時間を設定した。

(4) 広報のポイント

盛岡市と滝沢市の小学校に、約15,000部のガチャピン・ムックの画像と子どもゆめ基金のロゴを使用したチラシを配布するとともに、本施設のホームページを活用し、幅広く企画の周知を図った。「子どもゆめ基金」の認知度も高まった。新聞「盛岡タイムス」に、参加者が楽しくスキーを行っている様子が掲載された。

(5) 運営のポイント

スキー技術の向上というより「スキーに慣れ親しむ」ために、技能別の4～7人のグループにした。スキー指導者としては、初級者～上級者まで幅広く指導を行っている「スキー協会」を中心に依頼した。

参加者の安全性を高めるため、参加者に対応したサイズのヘルメットを購入して事業に臨んだ。

交流会では、生活班とスキー体験班が異なるため、どちらの班のメンバーとも仲良く活動ができるようなアイスブレイクを組み立てた。

8 成果とその普及

参加者のアンケートから、参加者の満足度が高かったことが伺われる。「また、来年も参加したい」といった声も多く聞かれた。「スキーが初めて」「今シーズンはまだスキーを行っていない」「スキーがちょっと苦手」といった子どもたちも、体験終了後には、「スキーが楽しかった。」と話していた。

交流に関しても、「友達が増えた。」「交流会が楽しかった。」等の感想が寄せられた。

「スキーに親しむ」と「交流を深める」という事業の目的は達成できた。

9 今後の課題

参加者個々に応じたスキー体験ができるよう、スキー体験の講師の人数を確実に確保したい。

第1回目の日程を平日としたために、学生ボランティアの参加が大学の事業と重なってしまい、ボランティアの参加が少なかった。家族と離れて過ごした経験がほとんど無い小学校3年生4年生の参加が多かったが、ボランティア一人が対応する子どもたちの数が多くなってしまい、ボランティアの負担も大きくなってしまった。

10 活動の様子



交流会（アイスブレイク）



スキー体験



スキーの話

平成27年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
アウトドアチャレンジ「岩手しぜんとあそぼキャンプ in テンパーク～夏編～」

実施概要報告

1 開催の趣旨

当実行委員会は、子どもたちの体験活動を支援する県内の団体と岩手山青少年交流の家が構成団体で、県・市・町の教育委員会、県内の大学・短大・小学校、報道機関等と連携し、価値ある体験を通じて生きる力を育成するキャンプを、大震災直後から被災地の子どもたちを対象として低廉な参加費で実施してきた。このキャンプでは、参加する子どもたちとともに学生を含めたキャンプスタッフも地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動の重要性を認識する機会となってきた。今年度は、さらに地域の教育力を活用し、国立岩手山青少年交流の家の所在地の滝沢市の児童との交流体験を実施するなどして体験活動の機運を被災地と共に県内陸部にも高めていくようにしたい。

そこで、県内の野外活動諸団体と協働して開催する「野外活動を主体としたキャンプ」を企画し実施する。対象は釜石市、大槌町、大船渡市、滝沢市の児童とした。

2 事業の目的

東日本大震災津波の被災地域の子どもたちと県内陸部の子どもたちに対して、豊かな自然の中で、ネイチャーゲームや野外炊事、テント泊等の普段とは違う自然体験、生活体験の野外活動体験プログラム、さらに、秋編でのプログラム計画立案等を盛り込んで、自分の目標を持ってチャレンジすることのできる体験の場を提供する。心のケアを進めながら生きる力を育成し、未来に夢や希望を持てる子どもたちの育成に資する。子どもたちの成長を通して家族や地域の方々に体験の価値を認識していただき、家族や地域ぐるみでの体験活動の推進につながる事が期待できる。

3 主催

アウトドアチャレンジ岩手県実行委員会

<構成団体>

特定非営利活動法人岩手県レクリエーション協会、岩手県キャンプ協会、岩手県シェアリングネイチャー協会、日本ボーイスカウト岩手連盟、ガールスカウト岩手県連盟、特定非営利活動法人盛岡YMCA、国立岩手山青少年交流の家

4 協力

株式会社ユニバーサルコンピューターシステム、日本ボーイスカウト埼玉県連盟、特定非営利活動法人未来図書館、岩手看護短期大学ボランティア部、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟、岩手大学、ルーテル学院大学、比治山大学短期大学部、盛岡市医師会、特定非営利活動法人乗馬とアニマルセラピーを考える会（馬っこパーク・いわて）、株式会社IBC岩手放送

5 後援

岩手県教育委員会、釜石市教育委員会、大船渡市教育委員会、滝沢市教育委員会、大槌町教育委員会

6 事業名称

平成27年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
アウトドアチャレンジ「岩手しぜんとあそぼキャンプ in テンパーク～夏編～」

7 実施場所

国立岩手山青少年交流の家「テンパーク」 〒020-0601 岩手県滝沢市後292

8 事業日程 平成27年7月4日（土）～5日（日） 1泊2日

9 参加費 一人 2,000円

10 集散及び移動手段

釜石市内5か所・大槌町内1か所・大船渡市内1箇所の集散場所を設置し、集散場所より会場まで貸切バスにて送迎した。（片道約3時間）また、滝沢市内は会場を集散場所とし直接保護

者に送迎していただいた。

- 11 **参加者** 104名（釜石市・大槌町・大船渡市・滝沢市の小学4～6年生）
 大船渡 30人（男13人、女17人）
 釜石・大槌 43人（男16人、女27人）
 滝沢 31人（男7人、女24人）

- 12 **スタッフ** 46名
 実行委員7人、レク協会9人、キャンプ協会2人、ボースカウト5人
 ネイチャー2人、アドバイザー1人、グループリーダー20人

13 **日程**

- (1) **スタッフ**（児童とは異なる活動等について）

1日目：7月4日（土）

- 9：00～10：30 スタッフ及びグループリーダー研修・会議
 「体験の風をおこそう」運動と生きる力の育成及びグリーンケアの研修
 キャンプ全体構想とプログラム運営及び安全・安心のための緊急時対応等について
 22：00～22：30 グループリーダー・スタッフ会議
 プログラム活動やグループ活動における課題解決のための打ち合わせ

2日目：7月5日（日）

- 13：30～14：30 グループリーダー・スタッフ会議（反省評価）
 ボランティアアンケート記入、反省会議（評価と課題及び感想）、秋編への提言等

- (2) **参加児童**

初日バスに乗車してから最終日バスから降車するまで安全の確保をしっかりと行った。
 主な日程は、下記の通りであるが、「しおり」を活用して自ら行動できるように指導した。

	7月4日（土）	7月5日（日）
午前	<ul style="list-style-type: none"> 指定バス停に集合 会場までバスで移動  <p>（滝沢市は会場）</p> <p>バスの中でも楽しいプログラムを予定 テーマソング</p> <p>も練習</p> <ul style="list-style-type: none"> 開会 班編成 昼食（レストランでバイキング） 	<ul style="list-style-type: none"> 朝食（レストランでバイキング） テントのあとしまつ ウォークラリー 遊びリンピック ニュースポーツに挑戦 秋編のプログラムを皆で考えよう！ 
午後	<ul style="list-style-type: none"> 寝床を作ろう（テント張り） ネイチャーゲーム 森や原っぱで自然と遊ぼう！ 夕食作り（野外炊事） 夕食 キャンプファイヤー たき火を囲んで歌って踊って仲良くなろう！ テントに寝よう！ 	<ul style="list-style-type: none"> 閉会 会場から集合バス停までバスで移動 滝沢市は会場で解散 昼食（バスの中などでレストラン特製のおにぎり弁当） 帰宅 

14 プログラムの実施

(1) 1日目：7月4日（土）

- ①開会行事：テーマソング「キャンプだホイ！」を歌って踊ったが、6割くらいの子供たちは、緊張していてなかなか踊ることが出来なかった。配付した名札の裏につけてあった動物カードをもとに班編成を行った。18班編成。GR（グループリーダー：大学生ボランティア20名）は、各班に1人ずつつき、2名は、統括リーダーとして全体を見ての支援活動を行った。アイスブレイキングのあと、班ごとに役割分担などを決める班ミーティングを行い、レストランでの昼食とした。
- ②テント設営：男女別、2つの班が合同で、男子は、1つ女子は、2つのテントを設営。ABCのテントサイトすべてを使い、GRのテントも設営した。ミーティング用テントは、キャンプ協会所有の六角テントを2張連結した。30人ぐらいいは楽に座れる。初めて会った子供たちではあるが、役割を分担し、仕事を進めるうちに自然に会話ができるようになっていった。コミュニケーションも仕事をしながらだと自然な流れの中でできるようになっていくようだ。
- ③ネイチャーゲーム：「森の探索」は、宝探しカードを使い、グループごとに周辺を探して歩いた。見つけたら仲間と一緒に確認しながら進んでいく。確認の段階で、よく観察することに付随して会話が盛んになり深まっていく。観察したものに加えて、同じ班の人同士、人物の理解も深まっていく。
- ④野外炊事（夕食）：「ごはんとスパイシーカレー」ご飯は、コッフェルで人数分を炊く。カレーは、通常の方法に加え、バナナ、リンゴ、カレー粉（カレールーのほかに）、プレーンヨーグルトを配付。班で相談して何をどの程度カレーに入れて煮込むかは相談させた。もちろんそのまま入れては、量が多すぎることを付け加え、ものによってはそのまま食べても良いことを伝えた。配給された薪の量が少なく、火加減でも意外に苦戦する班が多かった。しかし、この活動によって、子供たちは急速に打ち解け、友達になっていった。
- ⑤キャンプファイヤーエールマスターが「遠き山に日はおちて」を歌いながら営火場に先導し、全員を座らせた。火の神様が火のついた松明を持って登場、場内を一周してから厳かに点火。「大いに交流し楽しんでほしい。」旨の神の言葉を述べた。その後、歌と踊りで盛り上がり、仲間との交流を楽しんだ。主なソングは、「燃えろよ燃えろ」「大きな歌」「アブラハムの子」「誕生月の歌」「いか踊り」「おもちゃのちゃちゃちゃ」「ビスタ」「山賊の歌」「TIRO」であった。この中で特に盛り上がったのが、「いか踊り」で子供たちから何回もアンコールの声があがった。最後にエールマスターと火の神からの「まとめのお話」があり、「遠き山に日はおちて」のハミングの中、静かに退場して終了した。

(2) 2日目：7月5日（日）

- ①テント撤収：2日目は、どの班も打ち解けていてスムーズな会話と同時に、役割分担によりてきぱきと仕事を進めることができた。しかし、昨夜よく眠れずに遅くまで起きていた子（特に男子）は、やはり動きが遅くブレイキとなったため、作業終了に時間差が出てしまった。
- ②ウオークラリー：班としてのまとまりも出てきたので、思い切って子供たちだけで挑戦させた。GRは、遠くから見守り、困った様子や、ルートを間違えてしまった時などに対処するようにした。子供たちは、班長を中心に役割分担を生かしながら生き生きと活動した。ルートの中に、ニュースポーツへの挑戦も組み入れ、チャレンジする心の育成も図った。記憶をたよりに答える問題では、ゴール直前に、「もう一度確かめる！」と言って、わざわざ現地へ戻り正解を目指す班もあり、主体的な子供の動きが随所に見られた。
- ③「秋編」プロを考えよう：全体の振り返り・反省の前に、それぞれが「秋編」でやりたいこと等のプログラムを考えた。当事業で人気のプログラムもあったが、新しいものでは「魚釣り」「きもだめし」やスポーツ関係、ゲーム関係のものがあり、秋編で生かしていくことをスタッフで確認し合った。

15 事業の評価

- (1) 参加児童に対する生きる力の測定アンケート I K Rの結果 (別紙1 参照)
- ① 「生きる力」の変容は、事前から事後にかけて 8.0 ポイント向上し、その向上に有意差が認められた。
 - ② 観点別にみると「心理的社会的能力」は、4.1 ポイント、「徳育的能力」は、1.5 ポイント、「身体的能力」は、2.4 ポイント向上しており、いずれも有意差が認められた。
 - ③ 特にポイントが上がった項目 (0.5 以上) は、「いやなことは、いやとはっきり言える」「前向きに、物事を考えられる」「お金やモノのむだ使いをしない」「洗濯機がなくても、手で洗濯できる」であった。
 - ④ 全体が向上する中で、マイナス傾向 (0.1) の項目は、「多くの人に好かれている」と「人のために何かをしてあげるのが好きだ」の2つであった。
 - ⑤ 初対面の子供たちが、2 日間で、班長を中心に、話し合い、協働で作業をしたり、分担した役割を果たしたりと大きく成長した。今回のキャンプが子供たちの成長に大きく寄与したと言える。
- (2) 参加児童に対する独自アンケート調査結果 (別紙2 参照)
- (3) G R (大学生ボランティア) に対する独自アンケート調査結果 (別紙3 参照)
- ① 「子供たちの成長やグリーンケアに効果があった活動やプログラム」として特に効果があったのは、「野外炊事」「ウオークラリー」である。(共に 10 人以上が指摘)
 - ② 「野外炊事」では、「自分の役割」が明確であることや、班としての「協力や団結」を挙げている。自分の役割があることが所属意識やお役立ち感につながって主体的行動になっていたと考えられる。
 - ③ 「ウオークラリー」では、「子供たちだけ」で挑戦したことや、「話し合い、協力」を挙げており、コミュニケーション能力の育成にも役立った。存在感や所属意識の向上につながったと考えられる。
 - ④ その他に効果が認められたプロは、「テント設営」「ネイチャーゲーム」「キャンプファイヤー」であり、今回取り上げたすべてのプログラムにおいて効果があったということができる。
 - ⑤ G R自身の子供たちへの接し方においては、「G R自身ががんばったこと」において、子供たちへ気を配りながらも、自分(子供自身)でやらせるように、自主的、主体的な行動になるようにと支援したことがわかる。
 - ⑥ 運営面では、「休憩時間が欲しい」という声が学生、子供の両者からあった。秋編では意識して「休憩」をとりたいと思う。また、「スタッフで一つの目標」を掲げるという提案もあったので検討していきたい。

16 準備等の諸会議

プログラム検討会議：平成 27 年 5 月 21 日 (木) 10 時～12 時 30 分 (岩手山青少年交流の家)

プログラム会議：平成 27 年 6 月 28 日 (日) 14 時 30 分～16:30 分 (岩手山青少年交流の家)

運営会議：平成 27 年 7 月 3 日 (金) 17 時～21 時 (岩手山青少年交流の家)

17 運営組織 (別紙4 参照)

18 アウトドアチャレンジ岩手県実行委員会

委員長	澤村 憲照	岩手県キャンプ協会	理事長
副委員長	末永 正志	日本ボーイスカウト岩手連盟	理事長
副委員長	松田 栄二	国立岩手山青少年交流の家	所 長
事務局長 (委員)	横澤 繁	NPO 法人岩手県レクリエーション協会	理事長
		日本ボーイスカウト宮城県連盟	理 事
委 員	小澤 則幸	岩手県教育委員会 生涯学習文化課	主任
委 員	白岩 健介	釜石市教育委員会 生涯学習文化課	主 任
委 員	清水 茂幸	岩手大学 教育学部	教 授
委 員	最上 玲子	岩手看護短期大学	准教授

委員	神 初見	株式会社 IBC 岩手放送	取締役
委員	濱塚 有志	NPO法人盛岡YMCA	総主事
委員	中橋 邦	公益財団法人ボーイスカウト日本連盟	
		会員拡充委員会	副委員長
		日本ボーイスカウト宮城県連盟	理事
委員	沼宮内拓哉	日本ボーイスカウト岩手連盟	理事
委員	平井ふみ子	ガールスカウト岩手県連盟	連盟長
委員	谷藤 長利	岩手県シェアリングネイチャー協会	事務局長
委員	千葉 伸子	盛岡市レクリエーション協会	会長
委員	中田 春輝	国立岩手山青少年交流の家副主任	企画指導専門職
委員	高橋 省一	国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職
委員	中野 健二	国立岩手山青少年交流の家	事業推進係
監事	奥田 耕一	日本ボーイスカウト岩手連盟	副理事長

19 問い合わせ先

国立岩手山青少年交流の家（担当：高橋省三・中野健二）

TEL：019 - 688 - 4221 Fax：019 - 688 - 5047

平成27年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
アウトドアチャレンジ「岩手しぜんとあそぼキャンプ in テンパーク～秋編～」
実施概要報告書

1 開催の趣旨

当実行委員会は、子どもたちの体験活動を支援する県内の団体と岩手山青少年交流の家で構成し、県・市・町の教育委員会、県内の大学・短大・小学校、報道機関等と連携し、価値ある体験を通じて生きる力を育成するキャンプを、東日本大震災直後から被災地の子どもたちを対象として低廉な参加費で実施してきた。参加する子どもたちとともに学生を含めたスタッフも地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動の重要性を認識する機会となってきた。今年度は、さらに地域の教育力を活用し、国立岩手山青少年交流の家の所在地の滝沢市の児童との交流体験を実施するなどして体験活動の機運を被災地と共に県内陸部にも高めていくようにする。

2 事業の目的

このキャンプでは、夏編に参加した子供たちが計画立案したプログラム等を盛り込んで、自分の目標を持ってチャレンジすることのできる体験の場を提供する。心のケアを進めながら生きる力を育成し、未来に夢や希望を持てる子どもたちの育成に資する。さらに、構成団体の協力体制のもと、得意分野を子どもたちの体験活動に還元していくように活動を組み立てる。子どもたちが主に自然体験・生活体験を直接体験し、参加する沿岸地区と内陸部の子どもたち同士の交流や大学生スタッフ等のキャンプスタッフとの交流を深める絶好の機会となる。子どもたちの成長を通して家族や地域の方々に体験の価値を認識していただき、家族や地域ぐるみでの体験活動の推進につながることを期待できる。

3 主催

アウトドアチャレンジ岩手県実行委員会

＜構成団体＞

特定非営利活動法人岩手県レクリエーション協会、岩手県キャンプ協会、岩手県シェアリングネイチャー協会、日本ボーイスカウト岩手連盟、ガールスカウト岩手県連盟、特定非営利活動法人盛岡YMCA、国立岩手山青少年交流の家

4 協力

株式会社ユニバーサルコムピューターシステム、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟、日本ボーイスカウト埼玉県連盟、特定非営利活動法人未来図書館、岩手看護短期大学ボランティア部、ルーテル学院大学、比治山大学短期大学部、岩手大学、岩手看護短期大学、盛岡市医師会、特定非営利活動法人乗馬とアニマルセラピーを考える会（馬っこパーク・いわて）、株式会社IBC岩手放送

5 後援

岩手県教育委員会、
釜石市教育委員会、大船渡市教育委員会、滝沢市教育委員会、大槌町教育委員会

6 事業名称

平成27年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
アウトドアチャレンジ「岩手しぜんとあそぼキャンプ in テンパーク～秋編～」

7 実施場所

国立岩手山青少年交流の家「テンパーク」 〒020-0601 岩手県滝沢市後292

- 8 事業日程 平成27年11月21日(土)～23日(月・祝日)
- 9 参加費 一人 3,500円
- 10 参加者 89名 釜石市・大槌町・大船渡市・滝沢市の小学4～6年生が対象。
参加校：猪川小、大船渡北小、大船渡小、越喜来小、盛小、立根小、吉浜小、大槌小、吉里吉里小、甲子小、唐丹小、小佐野小、白山小、平田小、篠木小、滝沢小、滝沢第二小、鶺鴒小、姥屋敷小

	大船渡		大槌・釜石		滝沢		計		合計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
6年	0	0	2	13	0	5	2	18	20
5年	7	10	1	4	0	5	8	19	27
4年	6	15	2	7	5	7	13	29	42
計	13	25	5	24	5	17	23	66	89
合計	38		29		22		89		

11 集散及び移動手段

釜石市内5か所・大槌町内1か所・大船渡市内1か所の集散場所を設置し、集散場所と会場間を貸し切バスにて送迎した。(片道約3時間)また、滝沢市内は会場を集散場所とした。

12 スタッフ 51名

実行委員7人 レク協会8人 キャンプ協会3人 ボーイスカウト4人
ネイチャー協会3人 アドバイザー3人 グループリーダー(大学生)19人
交流の家職員4人

13 日程

(1) スタッフ (児童とは異なる活動等について)

前日：11月20日(金) 19:00～21:00 秋編運営会議(実行委員+プログラム責任者)
日程やプログラムについての最終打ち合わせと準備

1日目：11月21日(土) 9:30～12:00 スタッフ及びグループリーダー研修・会議
「体験の風をおこそう」運動と生きる力の育成及びグリーンケアの研修
キャンプ全体構想とプログラム運営について
安全・安心のための緊急時対応等について

1日目と2日目：21日(土)・22日(日) 22:00～22:30 グループリーダー・スタッフ会議
プログラム活動やグループ活動における課題解決のための打ち合わせ

3日目：11月23日(月) 13:30～14:30 グループリーダー・スタッフ会議(反省評価)
グループリーダーは、ボランティアアンケート記入
反省会議(評価と課題及び感想)

(2) 参加児童

初日バスに乘車してから最終日バスから降車するまで安全の確保をしっかりとる。
主な日程は、下記の通りであるが、「しおり」を活用して自ら行動できるように指導する。

	11月21日(土)	11月22日(日)	11月23日(月・祝日)
午前	<ul style="list-style-type: none"> ・釜石市・大槌町の参加者は指定バス停に集合 ※会場までバスで移動 ・滝沢市の参加者は14時迄に会場へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食(レストランでバイキング) ・ネイチャーゲーム 自然と遊ぼう! 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食(レストランでのバイキング) ※馬っこパークへ移動 ・乗馬や小動物とのふれあい ・遊びリンピック ニュースポーツ 
午後	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食(バスの中で持参のお弁当) ・バスの中でも楽しいプログラムを予定 ・バスが到着したら、「お互いを知ろう」「フォトラリー」を楽しもう! ・夕食(レストランでバイキング) 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食(レストランでバイキングと井ぶりなど) ・ネイチャークラフト 野外の材料でリースを! ・グループ交流タイム ・夕食(レストランでのバイキング) 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食(バスの中でレストラン特製のおにぎりお弁当) ・解散 ※馬っこパークから指定場所(集合バス停や会場)までバス移動 ・帰宅 
夜	<ul style="list-style-type: none"> ・テンパークコレクション みんなで衣装を作って発表! 楽しい思い出をつくりましょう! 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンドルのつどい みんなで歌って楽しくおどりましょう! 	

14 プログラムの実施

子どもの心の状況に注意深く対処しながら各種体験プログラムを実施し、心と体をリフレッシュさせる。また、グループリーダー(大学生)を中心に班活動を行うことでコミュニケーション能力を育成するとともに各自の生活能力を高める。

(1) 1日目: 11月21日(土)

①開会行事: 参加者の約40%(35名)がリピーターで、前回(夏編)のキャンプがいかに子どもたちの心に残っていたかが伺われる。テーマソング(キャンプだホイ)では、スタッフが積極的に子どもたちの中に入り誘導した効果もあって、歌い踊る子が前回より多かった。12班編成で各班に1人ずつグループリーダーがつき、さらに2つの班を見て柔軟に対応するリーダーを2班に1人ずつ、加えて全体を統括しながら記録をとる統括リーダーを1人配置した。

この配置は、学生リーダーの意見を取り入れたものである。かくしてグループ編成も順調に進んだ。記念写真を撮影し、プログラム活動をスタートした。

②フォトラリー：館内の思わぬところに貼られてある動物シールを班員が協力して発見しゲットするゲームで、途中にあるいくつかの課題を解決しながら仲間づくりをしていった。このゲームを通じて、班内のコミュニケーションが進み、仲良くなっていった。

※ この後、宿泊棟に移動しグループタイムとなり更に相互理解が進んだ。夕食時には、すっかり打解けて班ごとに和やかな食事会となった。

③テンパークコレクション：創作活動を通じてグループ内の親睦を深めるとともに、共同で作上げたものを披露することで達成感を感じることを目的に実施した。それぞれの班でテーマを決め、材料を選び、リーダーのファッションを考えて創作活動を展開した。材料は、カラーセロファン・カラー模造紙・新聞紙・ビーズ等・糸・ひも・キラキラテープなどである。制作後、グループごとにテーマと解説を発表しリーダーが選んだ音楽に合わせて中央ランウエイを練り歩きファッションを披露した。審査は、各自自分たちの班以外に一番良いと思った班に1票を投じ、多い順に3グループを表彰した。

(2) 2日目：11月22日(日) 野外、「つどいの広場」「曲がり家」付近

①ネイチャーゲーム：初めに全体で「ドングリじゃんけん」を、次に2つのグループに分けて「私は誰でしょう」「動物交差点」「フィールドパターン」を実施した。最後に「ふりかえり」を実施。帰りにリースの材料集めをして宿舎に戻った。

<ドングリじゃんけん>最初にどんぐりを1個ずつ手にもち、じゃんけんでは負けた相手からどんぐりを1個受けとり、次の相手とじゃんけんをして繰り返す。どんぐりを持っていなくてもじゃんけんに参加をし、勝ったら相手からどんぐりを1個受けとる。短時間に7~8個も勝ちとった子どももいて盛り上がった。

<私は誰でしょう>生き物に関するヒントを出し、どんな動物かを推理してあてる。一緒に活動する雰囲気を作りながら次の「動物交差点」につなげる。(指導者中心)

<動物交差点>各自、動物カードを背中につけてもらい、自分に割り当てられた動物が何かを、自分で質問を繰り返しながら推理する。

<フィールドパターン>カードにある形にあてはまる自然物をフィールドの中から探し出す。自然の中にある形の不思議さや、見る人によって発見の違いがあることに気づき、わかちあう。子どもの目は素晴らしく、次から次へとパターンにある形を発見し、お互いに形のよさやおもしろさを話し合っていた。

②ネイチャークラフト：リース作りを通して自分の願いや思いを深めることを目的として、秋の木の实やつる等を使ったリース作りに挑戦した。以前にドリームキャッチャーを制作したとき、意外に時間がかかったので土台のリースの輪は、市販のものを使用し、飾りつけの部分に、自分の思いや願いを表現するよう指導した。思いや願いをもとにイメージ図を作成し、材料を選んで制作した。材料は、リース土台・松ぼっくり・どんぐり・つる・モール・リボンなどで、主にホットボンドを使って接着した。制作後、グループごとに自分の作品を見せながら、願いや思いと作ってみたいの感想を発表し合った。子どもたちのアイデアや手の込んだ作品に、感心するばかりだった。グループごとに作品を持って写真をとり終了した。

※ グループタイム：夜の「キャンドルナイト」の準備のため、グループごとの活動となった。それぞれグループ名の披露の工夫(発表の仕方やダンスなど)をし、練習をした。グループ

の結束力はさらに強まった。

- ③キャンドルナイト：エールマスターの先導でグループごとに入場し、サークルの形に並んだ。そこに火の神が登場し、火の意味を説明しながら分火した。「自由」「勇気」「友情」「愛」の火。その後、中央の燭台に次々に点火し、「燃えろよ燃えろ」の大合唱がホールに響いた。「大きな歌」「アブラハムの子」「誕生月の歌」を皆で歌ったあと、いよいよグループごとの発表となった。それぞれのアイディアで発表し、ポーズを決めるその姿に、これまでの班活動の充実を感じることができた。手作りの「光る紙芝居」では、「きょうはなんのひ？」（瀬田貞二作・林明子絵）という童話を実行委員長が読み聞かせた。作中の歌もアドリブで披露するなど、大変効果的で盛り上がった。その後また「山賊の歌」や「T・I・R・O」を楽しく歌い、エンディングでは、火の神様からお言葉を賜り、「遠き山に日は落ちて」を歌いながら退場して終了となった。大変感動的なキャンドルナイトであった。

(3) 3日目：11月23日（祝月）

※朝食後、退所点検を受け、交流の家を退所し、バスで馬っこパークに向かった。3日目は、馬っこパークでの諸活動である。Aグループ（1～4班）、Bグループ（5～8班）、Cグループ（9～12班）の3グループでのローテーション方式で次の①～③の体験活動を楽しんだ。あいにくの雨模様の天気ではあったが、施設内を活用しての有意義な時間となった。

- ①動物とのふれあい：ポニー、やぎ、うさぎなどの動物にエサをあげたりなでたりなどのふれ合い活動を行った。はじめは、おそろおそろ動物に近づいていた子どもも、だんだん慣れてきて良い表情に変わっていった。
- ②乗馬体験：1人ずつ馬に乗る。静かに歩みを進める馬と対話するかのよう次第に緊張から穏やかな表情に変わっていく。馬から降りるときは、どの子も喜びの表情である。順番を待つ子も静かに馬に乗っている子の様子を見ている。静かな中にほどよい緊張感と温かな雰囲気広がっている。子どもたち一人一人が心を落ち着かせ、自分自身と向き合い、心の対話をした。心の癒しにもなっているこの体験活動は子どもたちの人気プロの一つである。
- ③遊びりんピック：各グループの4班を3種目に分けて全種目に挑戦させた。種目は、雨天のため広場の種目は取りやめ「スピードラダーゲッター」「ディスクゲッター9」「ゲーム（リズムナンバーゲーム及びまぬけな拍子ゲーム）」とし、各班は、A、Bに分けて対抗戦とした。どの種目にも皆夢中になって取り組んだ。乗馬とは対照的に歓声と笑い声に満ち溢れた楽しいひとときとなった。

※ 3日間の活動を振り返り、アンケートに記入した。IKRアンケートと実行委員会作成のアンケートである。アンケート調査結果は、別紙。

- ④閉会行事：各班の代表からの感想発表に続き、実行委員長の挨拶で締めくくった。雨のため記念写真は、その場の様子を階段上の角度から撮影した。滝沢の子どもたちとグループリーダーが見送る中、大槌・釜石方面、大船渡方面それぞれのバスが名残を惜しんで出発した。

15 事業の評価

(1) 参加児童に対する生きる力の測定アンケート I K Rの結果 (別紙 1 参照)

- ①「生きる力」の変容は、事前から事後にかけて 0.3 ポイント向上したが、その向上に有意差は見られなかった。
- ②「心理的社会的能力」の変容は、事前・事後とも 62.9 ポイントで変化はなかった。
- ③「徳育的能力」の変容は、事前から事後にかけて 0.5 ポイント低下したが、その低下に有意差は見られなかった。
- ④「身体的能力」の変容は、事前から事後にかけて 0.8 ポイント向上したが、その向上に有意差は見られなかった。
- ⑤今回有意差が見られなかったのは、前回は参加しているリピーターの子が多かった(約 40%) ことが結果に影響しているかもしれないと考える。
- ⑥また、今回は、人気プロの「野外炊事」や「ウォークラリー」、「テント泊」がなかったことも影響しているかもしれないと考える。
- ⑦児童のアンケートからも必ずしも全員が満足できた状況ではなかったことがわかる。

(2) 参加児童に対する独自アンケート調査結果 (別紙 2 参照)

- ①参加者には、リピーターが多く、友だちと参加した児童が多いことから、活動内容・友達との交流に期待して参加している。
- ②大多数の子は、期待通りの活動で楽しかったようだが、今回楽しくなかった子も 2 名いた。宿泊棟でのマイナス反応があったが、プラス反応も 72 人と最も多かった。
- ③楽しかった活動のベスト 10 は、「宿泊棟の中でのおしゃべりなど」「レストランのバイキング」「馬っこパークでの乗馬体験」「お風呂」「遊びりんピック」「動物とのふれあい」「テンパークコレクション」「リースづくり」「キャンドルナイト」「グループ活動」である。
- ④88 人が友だちができたと回答し、ほとんどがグループリーダーとも仲良くできたと回答したが、マイナス回答や無回答もあったので、指導が 100%行き届いたとは言えない。
- ⑤またキャンプに参加したいと回答した子が 69 名、3泊 4 日以上が 61 名いたが、参加したくないと回答した子も 1 人いた。
- ⑥これらのことから十分楽しいキャンプだったと言えるが、マイナス回答もあることから、個々の心の状態をさらにしっかり把握して指導する必要があると考える。

(3) G R (大学生ボランティア) に対する独自アンケート調査結果 (別紙 3 参照)

- ①夏の 1 泊 2 日と違い、秋の 2 泊 3 日は、かなり疲れた学生が多かったが、満足度(充実感)は、100%と回答した学生もいて結構いい結果と言える。
- ②子どもたちの成長(生きる力の育成)やグリーンケアに効果があったと実感している活動やプログラムは、「乗馬体験」「動物とのふれあい」「ファッションショー(テンパークコレクション)」「リースづくり」「ネイチャーゲーム」「フォトラリー」「話し合い活動」「リーダーの対応(悪いものは悪いとはっきり言う)」等であり、子どもたちの表情や反応、会話等から感じ取っていた。このことは、子どもたちのアンケート結果とも合致している。
- ③学生自身が今回のキャンプでがんばったことや学んだことは、「児童への声のかけ方」「話し方」「接し方」「雰囲気づくり」「自分自身も楽しむこと」「その子に合わせた接し方・関わり方」「たわいのない会話の大切なこと」「子どもたちが自ら行動できるように手助け(サポート)すること」「一人ひとりに仕事(役割分担)を与えるとしっかり行動してくれるということ」「平等に接すること」等であり、夏編のときより学生自身が話し方や接し方、子どもの活

かし方などをよく考え工夫し、一つの方向性を持って指導したことがよくわかる。

- ④改善点や要望等は、今後の計画や指導に生かしていきたい。子どもの指導や看護・介護等の仕事に就く学生たちである。「子どものどんどん成長する姿に驚いた。子どもをますます好きになった。」との学生の感想からもこのキャンプが子どもたちの成長だけではなく、学生の成長の一助にもなっていることがわかる。

16 準備等の諸会議

プログラム検討会議：平成27年9月14日（月）10時～（岩手山青少年交流の家）

運営会議：平成27年11月20日（金）19時～（岩手山青少年交流の家）

17 運営組織（別紙4参照）

18 アウトドアチャレンジ岩手県実行委員会

委員長	澤村 憲照	岩手県キャンプ協会	理事長
副委員長	末永 正志	日本ボーイスカウト岩手連盟	理事長
副委員長	松田 栄二	国立岩手山青少年交流の家	所長
事務局長（委員）	横澤 繁	NPO法人岩手県レクリエーション協会	理事長
		日本ボーイスカウト宮城県連盟	理事・特別委員長
委員	小澤 則幸	岩手県教育委員会生涯学習文化課主任社会教育主事	
委員	白岩 健介	釜石市教育委員会 生涯学習文化課	主任
委員	清水 茂幸	岩手大学 教育学部	教授
委員	最上 玲子	岩手看護短期大学	准教授
委員	神 初見	株式会社IBC岩手放送	
		取締役放送本部長兼報道局長（復興支援室担当）	
委員	中橋 邦	公益財団法人ボーイスカウト日本連盟	
		会員拡充委員会	副委員長
		日本ボーイスカウト宮城県連盟	理事
委員	沼宮内拓哉	日本ボーイスカウト岩手連盟	理事
委員	平井ふみ子	ガールスカウト岩手県連盟	連盟長
委員	谷藤 長利	岩手県シェアリングネイチャー協会	事務局長
委員	千葉 伸子	盛岡市レクリエーション協会	会長
委員	中田 春輝	国立岩手山青少年交流の家	副主任企画指導専門職
委員	高橋 省一	国立岩手山青少年交流の家	企画指導専門職
委員	中野 健二	国立岩手山青少年交流の家	事業推進係
監事	奥田 耕一	日本ボーイスカウト岩手連盟	副理事長

19 秋編フォトアルバム（別紙5参照）

20 問い合わせ先

国立岩手山青少年交流の家（担当：中田春輝・高橋省一・中野健二）

TEL : 019 - 688 - 4221 Fax : 019 - 688 - 5047

1 事業名

「体験の風をおこそう」運動協賛事業

平成27年度教育事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」

2 趣旨(事業の目的)

ボランティアがチームを組んで事業の企画立案をすることで、社会を生き抜く力を磨くとともに、創造性やチャレンジ精神、リーダーシップ、コミュニケーション能力などの育成に向けた多様な体験の機会を提供する。

3 期日及び参加者(国立岩手山青少年交流の家で活動する法人ボランティア)

回数	期日	参加者内訳		
		男性	女性	計
第一回	平成27年4月26日(日)	5名	11名	16名
第二回	平成27年5月16日(土)	3名	9名	12名
第三回	平成27年6月6日(土)～7日(日)	4名	10名	14名
第四回	平成27年8月22日(土)	3名	6名	9名
第五回	平成27年9月5日(土)	8名	14名	22名
第六回	平成27年10月31日(土)	10名	13名	23名
第七回	平成27年12月5日(土)	10名	14名	24名
第八回	平成28年3月12日(土)～13日(日)	12名	16名	28名
	総計	55名	93名	148名

4 内容

(1) 指導者

第一回「チームビルディングと組織キャンプ運営の心得①」

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 及川 未希生

第二回 子どもゆめ基金説明会

国立岩手山青少年交流の家 副主任企画指導専門職 中田 春輝

第三回「チームビルディングと組織キャンプ運営の心得②」

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 及川 未希生

「体験活動と安全管理」

講師 国立那須甲子青少年自然の家 総務管理係 志賀 亮太 氏

第四回「組織キャンプ運営実践①－体験活動支援セミナー夏に向けて－」

第五回「組織キャンプ運営実践②－体験活動支援セミナー夏に向けて－」

国立岩手山青少年交流の家 副主任企画指導専門職 中田 春輝

国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 鎌田 信浩

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 及川 未希生

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 高橋 知也

第六回「上半期法人ボランティア活動中間報告会」

「組織キャンプ運営実践③－体験活動支援セミナー冬に向けて－」

第七回「組織キャンプ運営実践④－体験活動支援セミナー冬に向けて－」

国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 丹 康浩

国立岩手山青少年交流の家 企画指導専門職 鎌田 信浩

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 及川 未希生

国立岩手山青少年交流の家 事業推進係 高橋 知也

第八回「下半期法人ボランティア活動報告会」

「新年度へ向けたプロジェクトチームの発足」

国立岩手山青少年交流の家 副主任企画指導専門職 中田 春輝

(2) 企画のポイント

「岩手山ボランティア育成ビジョン」をもとに、ボランティア育成の「継続」に着目した取組であった。事業の展開として、第一回目に発足したプロジェクトチームは、ボランティアコーディネーターをアドバイザーとして配置した。

第二回目以降は、子どもゆめ基金の獲得に係る説明会や安全管理スキルの講習会など、ボランティアが自主企画を行う上で必要となる知識・技能の習得を主眼とした。また、第四回～七回については、参加ボランティアの裾野を広げ、自主企画立案へ向けたトレーニングとしての教育事業「テンパークちゃれんじクラブ」における活動プログラムの企画立案体験を実施した。

第六回および第八回においては、本事業の取組を含めた、岩手山青少年交流の家の法人ボランティア全体の取組について発表の場を設けることで、プレゼンテーション能力の育成とともに、ボランティア個人の成果を全体で共有することのできる仕組みを構築した。加えて第8回では、次年度のプロジェクトチームを発足させることで、年度で途切れることのないボランティア育成の継続性を視野に入れた内容を盛り込んだ。

(3) 広報のポイント

第一回参加のメンバーは、前年度にボランティア活動意向調査において登録更新を希望した56名のうち、16名が参加した。その後の展開として、新規ボランティアを含めた初期メンバー以外のボランティアの参加も奨励することで、平成27年度の法人登録ボランティアの48%にあたる57名が、プロジェクト関連の取組に係った。

(4) 運営のポイント

職員と法人ボランティア同士の円滑な連携を図るために、クラウドサービスの一種であるDropboxを有効活用し、情報共有を図った。また、各プロジェクトチームにおいて、LINEを使用したグループを作成することで、企画立案における迅速な情報共有を図るとともに、グループに職員が加わることで、話し合いの進捗状況の確認や、インターネット活用におけるトラブル発生の予防に努めた。

Dropboxには、次年度以降の記録として、ミーティングの議事録や、交流の家への申請書等の記録をプロジェクトに関わるすべてのメンバーが共有できるよう工夫されており、次年度に繋がる資料の収集にも一役買っている。

また、事業のねらいである「社会を生き抜く力」の養成を踏まえ、各プロジェクトチームにおいては、施設の利用に際し、申込申請書類の提出や各種締切りについて、一般の研修支援事業団体に準じた扱いとすることで、計画性のない場当たりの取組とならないように、社会的スキルの育成にも目を向けた運営を心がけた。

5 プロジェクトチームの実施内容と取組結果

(1) TEAM 山「大自然を感じよう！ 登山プロジェクト」

メンバー：青木眸美(盛大4年)、有原悠里(盛大4年)、昆野航(盛大4年)、鈴木孔明(盛大4年)
荒関峻也(盛大3年)、和蛇田美穂(県立大4年)、加藤真奈美(盛大2年)

内容：岩手県最高峰である、岩手山の登山に挑戦するグループ。岩手県内の大学生を一般参加者として募集し、実施した。企画メンバーは、安全確保のために交流の家の職員研修を利用するなどして3回の実地踏査を行った。参加者は男性5名、女性15名の計20名。

実施日：8月24日(月)

(2) TEAM 無人島「無人島体験キャンプ」

メンバー：高橋諒(盛大4年)、田中照美(盛大2年)、佐々木藍(盛大2年)、玉山彩生(盛大2年)

内容：岩手県内の小学生を対象に、交流の家を擬似無人島に見立てた体験キャンプを企画。平成27年度子どもゆめ基金後期募集に応募し、採択された。2回に渡ってプレキャンプを実施し

たが、募集に対し、参加者数が10人を下回り、子どもゆめ基金交付の条件を満たすことができなかったため、事業自体は開催できなかった。

実施日：10月17日(土)～18日(日) ※当日は次年度に向けた反省会を実施

(3) TEAM 学生交流ダンスパーティー「ボランティア学生交流ダンスパーティー」

メンバー：沼田真奈(盛大4年), 杉本茜(盛大2年), 星野雄哉(盛大2年), 細川咲季(盛大2年)
菅田朱堇(不来方高校2年)

内容：全国の大学生を対象に、ダンスと雪遊びを通じた交流キャンプを企画した。ダンスは、初心者でも親しみやすい内容となるように指導方法を工夫し、事業後に行ったアンケート結果からも非常に満足度の高いキャンプとなった。参加者は男性12名、女性13名の計25名。

実施日：3月3日(木)～5日(土)

(4) TEAM プロモーションビデオ

メンバー：沼田真奈(盛大4年), 立花春香(盛大1年), 他テンパーク法人ボランティア多数

内容：岩手山青少年交流の家を知ってもらうためのPRビデオを作成。「つながり」をテーマに3つの動画作品を作成した。そのうちの一本は、テンパークまつりで来場者にむけて放映し、広報的役割を果たした。作成には、多数のボランティアが関わり、ボランティア同士の連携が深まった。

実施日：通年

6 成果とその普及

「岩手山ボランティア育成ビジョン」に基づく、新規の取組であったが、ボランティア同士が職員と有機的な連携を図り、ボランティアの「社会を生き抜く力」の向上に寄与する取組となった。最大の成果として、ボランティアの主体的な活躍の場の創出があげられる。これまでは、意欲的なボランティアが教育事業等のスタッフとして活動してきたが、事業の規模によって受入人数に制限があることが課題であった。今回の取組を通して、多くのボランティアが活動する機会を創出することができ、ボランティアの活動延べ人数は前年度466名に対して、1012名とおよそ2.5倍の活動機会を拡充することができた。

運営のポイントで挙げられたクラウドサービスの活用は、ボランティアとして活動する大学生・高校生のICT教育スキルの向上に寄与する可能性があり、現代社会に適応した先進的な取組になったといえる。

本事業は、平成28年度から始まる、国立青少年教育振興機構の第3期中期目標で述べられている、「ボランティアによる自主企画事業の実施」において、先行して実施した好事例として、他の教育施設へ向けたモデルプログラムとしての普及が期待できる。

7 今後の課題

本事業は、「岩手山ボランティア育成ビジョン」における「育成の起点」から「育成の継続」につなげるための取組であったが、ボランティア自身のスキルの向上や、集団としての能力向上には、きちんとした育成段階を経た上で実施する必要がある。特に、子どもと関わる基本的なスキルや、青少年の模範となる正しい生活習慣等は、本事業以外の各種教育事業において、正しく育成していく必要はある。平成27年度の取組は、社会的スキルの高い、各種教育事業への参加経験が豊富な大学4年生のボランティアが各プロジェクトチームを牽引したが、世代交代が予想される次年度以降においては、改めてボランティアとしての基礎基本を指導した上で、プロジェクトを進行していく必要があると考えられる。

平成27年度地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業について

1. 事業の趣旨

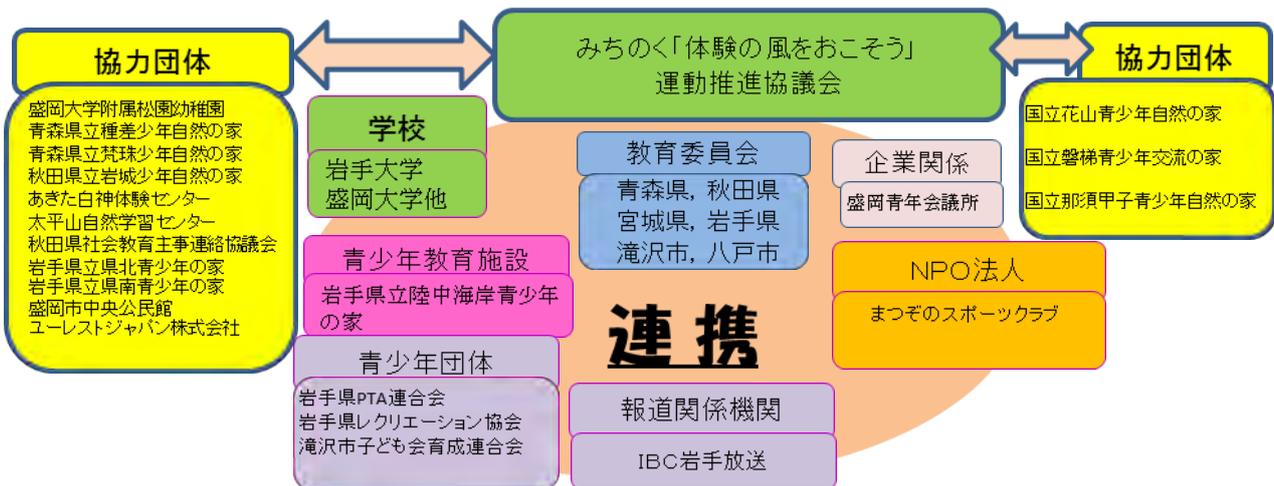
近年、社会が豊かで便利になる中で、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している。このため、東北地区において子供たちに自然体験や生活体験などの体験活動を提供するとともに、関係機関と連携を図りながら体験活動を推進する機運を高める取組などを実施し、「体験の風をおこそう」運動を普及、推進することを目的としている。

当交流の家では、外部有識者で組織する「みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会」を組織し、独立行政法人国立青少年教育振興機構から本事業を受託し実施した。

2. 受託期間

平成27年5月10日～平成28年3月31日

3. 実施体制



4. 事業概要

1 「体験の風をおこそう」運動を普及・啓発する取組

(1) 岩手県、青森県、秋田県、宮城県の公民館等に「体験の風をおこそう」運動の趣旨を説明するとともに幟旗の設置を依頼し、要望に応じ「子どもゆめ基金」の説明会を開催した。

(各県の社会教育主事会議等で説明を行い、幟旗を配布し設置を依頼した。)

① 青森県公民館訪問 10月22日(木)～23日(金)

平川市平賀公民館、弘前市立中央公民館、五所川原市中央公民館、青森市中央市民センター、三沢市中央公民館(三沢市公会堂)、八戸市公民館、南部町 町立中央公民館、三戸町中央公民館

② 秋田県公民館訪問 10月27日(火)～28日(水)

横手中央公民館、美郷町公民館(南ふれあい館)、大曲中央公民館、湯沢市立湯沢公民館、にかほ市仁賀保公民館、由利本荘市中央公民館、秋田市中央公民館、角館公民館、田沢湖公

民館

③ 岩手県公民館訪問 11月26日(木)～27日(金)

遠野市民センター, 陸前高田高等学校, 大船渡市中央公民館, 大槌町中央公民館, 宮古市中央公民館, 久慈市中央公民館, 一戸町中央公民館

④ 宮城県公民館訪問 2月15日(月)～16日(火)

気仙沼中央公民館, 気仙沼観光コンベンション協会, 南三陸町役場入谷公民館, 石巻中央公民館, 東松島市大曲コミュニティセンター, 松島自然の家, 栗原市築館・志波姫教育センター, 志波姫小学校

(2) 「体験の風をおこそう」運動推進委員会構成団体の地方組織等の事業に次の事項を依頼した。

- ① 『「体験の風をおこそう」運動協賛事業』の冠を付すこと。
- ② 事業チラシに「体験の風をおこそう」運動のロゴ等を印刷すること。

2 保護者や指導者が子供たちの体験活動の重要性について理解を促進する取組

(1) 本運動を推進する事業への本協議会委員等を派遣し, 体験活動の重要性について説明をした。

- ① 岩手県青少年健全育成県民会議「第1回青少年育成セミナー」7月1日(水)
- ② 盛岡市学童保育連絡協議会「盛岡市学童保育連絡協議会指導員部会」9月25日(金)
- ③ 盛岡市PTA連合会9月30日(水)
- ④ 奥州市教育振興運動10月24日(土)
- ⑤ 盛岡市玉山区社会福祉協議会「玉山区児童館職員研修会」11月13日(金)
- ⑥ 一関市教育振興運動12月12日(土)

(2) 公民館, 公立青少年教育施設等の事業に参加し, 体験活動の重要性について説明した。

- ① 青森県立種差少年自然の家「おいでよ! サマーキャンプ」7月28日(火)～29日(水)
- ② あきた白神体験センター「あきた白神わんぱく夏塾2」8月19日～21日(金)
- ③ 秋田市太平山自然学習センター「まんたらめちびっこキャンプ」
10月10日(土)～11日(日)
- ④ 秋田県立岩城自然の家「オープンデー」11月14日(土)
- ⑤ 岩手県立県北青少年の家「親子deチャレンジ」11月14日(土)～15日(日)
- ⑥ 盛岡市中央公民館「わくわく盛岡チャレンジクラブ」12月12日(土)
- ⑦ 青森県立梵珠少年自然の家「アウトドアライフ2016inウインター」1月16日(土)～
17日(日)

Ⅲ 子供たちに多様な「体験活動」を提供する取組

(1) 「体験の風」出前創作活動教室 in IBC祭り

期日: 平成27年9月12日(土)・13日(日)

会場: 岩手産業文化センター「アピオ」

対象: IBC祭りに来場した親子, 子供達

来訪人数: 約28,000名

(2) 頭と体と心の3（未）体験フェスティバル

期日：平成27年7月12日（日）

会場：岩手大学盛岡市産学官研究センター

対象：小学生・親子

来訪人数：約1,250名

(3) 親子で楽しむ自然体験 in 冬のテンパーク

期日：平成28年2月20日（土）・21日（日） 1泊2日

対象：岩手県内在住の親子

参加者：29家族92名の親子（盛岡市，滝沢市，八幡平市，釜石市，一関市，花巻市，雫石町）とボランティア11名

IV 「体験の風をおこそう」運動推進月間における「事業エントリー」と「子ども体験遊びリンピック」の実施依頼

(1) 公民館や児童館，公立青少年施設，地域の子ども会や放課後児童クラブに働きかけた。

(2) 児童養護施設に「子ども体験遊びリンピック」の実施を働きかけた。

平成27年度エントリー数（北東北3県）「体験の風をおこそう推進月間事業」194件，「子ども体験遊びリンピック」20件。

V その他，「体験の風をおこそう」運動を推進するための取組

(1) 本運動のロゴマーク，岩手山青少年交流の家の独自のうちわと鉛筆を作成し，教育事業参加者や本運動推進のため訪問した公民館へ配布した。「早寝早起き朝ごはん」国民運動に関する普及・啓発事業については，教育事業「テンちゃん一家の一週間」で参加児童に徹底したほか，事業参加者や研修支援団体に普及した。

(2) 東北地方の国立青少年教育施設4か所が連携し，施設開放事業や地方自治体へのさらなる普及を図る。

① 国立岩手山青少年交流の家「テンパークまつり2015」9月27日（日）

② 国立那須甲子青少年自然の家「なすかしの森ファミリーフェスティバル」10月4日（日）

③ 国立磐梯青少年交流の家「体験の風をおこそう in 磐梯」10月18日（日）

④ 国立花山青少年自然の家「はなやままるごとフェスティバル」11月1日（日）

5. 事業の成果

1 岩手県，青森県，秋田県，宮城県の主要公民館等を直接訪問し，「体験の風をおこそう」運動の趣旨を説明するとともに幟旗の設置を依頼したことにより，北東北4県の「体験の風をおこそう」運動に対するより一層の理解を深めることができた。

2 親子で楽しむ宿泊・自然体験 in テンパークを2月20日（土）～21日（日）の1泊2日で行ったことにより，岩手県内在住の親子（盛岡市，滝沢市，八幡平市，釜石市，一関市，花巻市，雫石町）とボランティア11名

石町) 29 家族 92 名の親子に冬の岩手山青少年交流の家の体験を提供することができた。県内の沿岸の親子と当施設周辺の親子が体験をとおして交流を深め思い出多い2日間となった。

- 3 岩手県青少年健全育成県民会議等の本運動を推進する団体やその団体が行う事業に出向き、保護者や指導者に子供たちの体験活動の重要性について説明を行ったことにより、団体の下部組織まで「体験の風をおこそう」運動を推進することができた。
- 4 公民館や公立青少年教育施設等における事業に連携して参加することにより、事業参加者やその地域に「体験の風をおこそう」運動のさらなる普及につながった。

6. 今後の展開

1 普及・啓発の強化

これまで、青森県、岩手県、宮城県、秋田県の全市町村の教育委員会及び主要公民館への普及・啓発活動を行ってきた。今後は、各地域の住民への情報発信の基地である市民センター・公民館等への普及・啓発を行い、北東北地域での更なる普及・啓発を推進する。

2 連携協力の拡大による多様な体験の場の提供

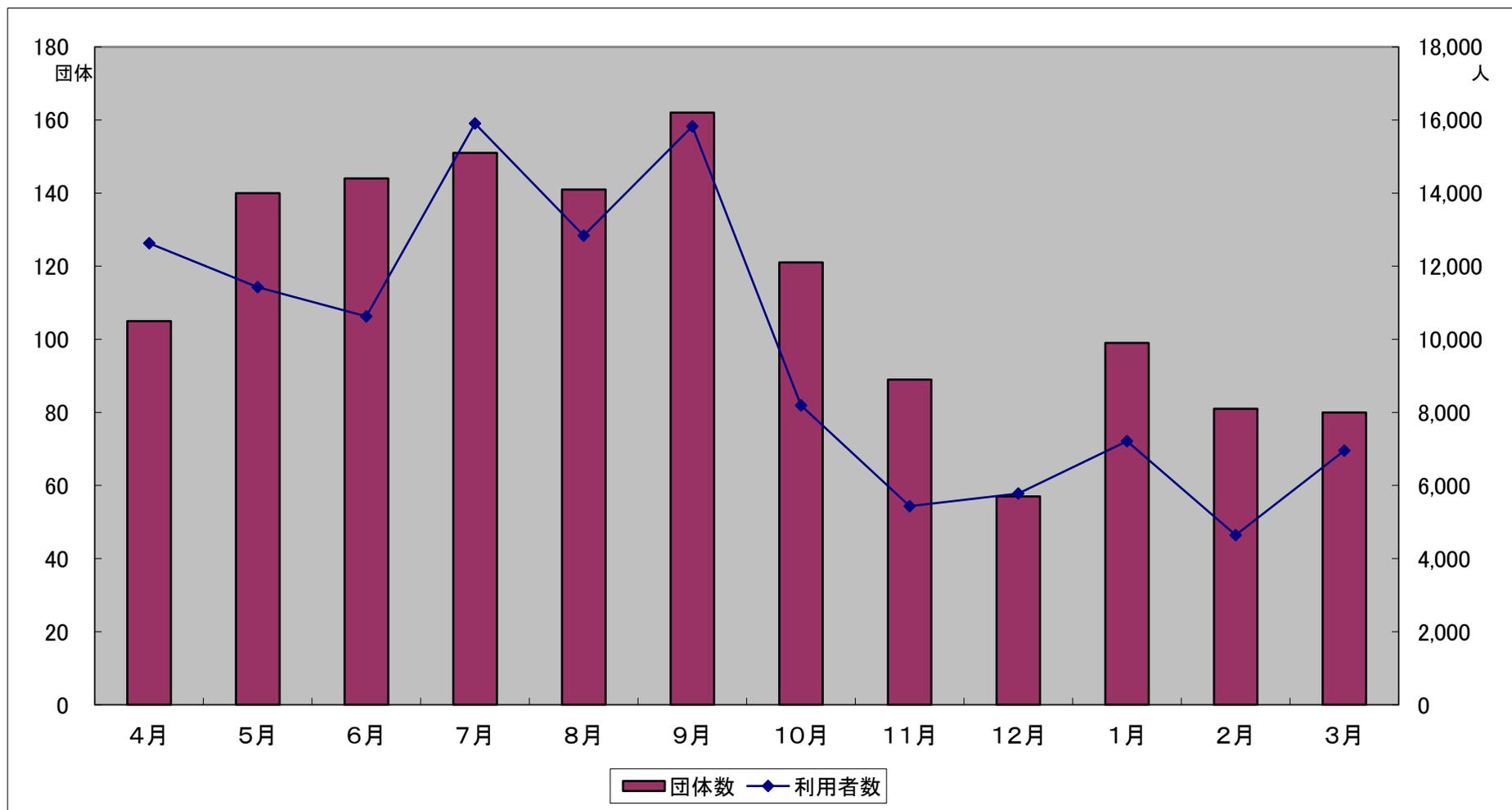
各地域の企業・団体等との交流を増やしていく。各地コンベンション協会、NPO法人、商工会、青年会議所等とのネットワークを生かすと共に、公立青少年教育施設、高等教育機関、児童養護施設等とも連携を図り、「体験の風をおこそう」運動の社会での認知度を高める多様な体験の場を提供していく。

みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会委員一覧

平成28年1月27日現在

氏名	よみがな	役職名等
浅沼道成	あさぬま みちなり	岩手大学 人文社会科学部 教授
石川正悦	いしかわ しょうえつ	岩手県立盛岡農業高等学校 校長
伊藤博章	いとう ひろあき	八戸市教育委員会 教育長
大石泰夫	おおいし やすお	盛岡大学 文学部 教授
菊池啓子	きくち けいこ	岩手県立陸中海岸青少年の家 所長
熊谷雅英	くまがい まさひで	滝沢市教育委員会 教育長
國分隆史	こくぶ たかし	岩手県PTA連合会 副会長
児玉政光	こだま まさみつ	青森県教育庁 生涯学習課長
沢屋隆世	さわや たかせ	秋田県教育庁 生涯学習課長
主濱恵悦	しゅはま けいえつ	滝沢市子ども会育成連合会 会長
白木貞彦	しらき さだひこ	滝沢市立一本木小学校 校長
神初見	じん はつみ	(株)IBC岩手放送 取締役放送本部長
菅原正弘	すがわら まさひろ	盛岡市立河南中学校 校長
高橋一仁	たかはし かずひと	盛岡市青年会議所 理事長
松下洋介	まつした ようすけ	岩手県教育委員会 生涯学習文化課 総括課長
三浦正之	みうら まさゆき	宮城県教育庁 参事兼生涯学習課長
横澤繁	よこさわ しげる	岩手県レクリエーション協会 理事長

月別利用状況

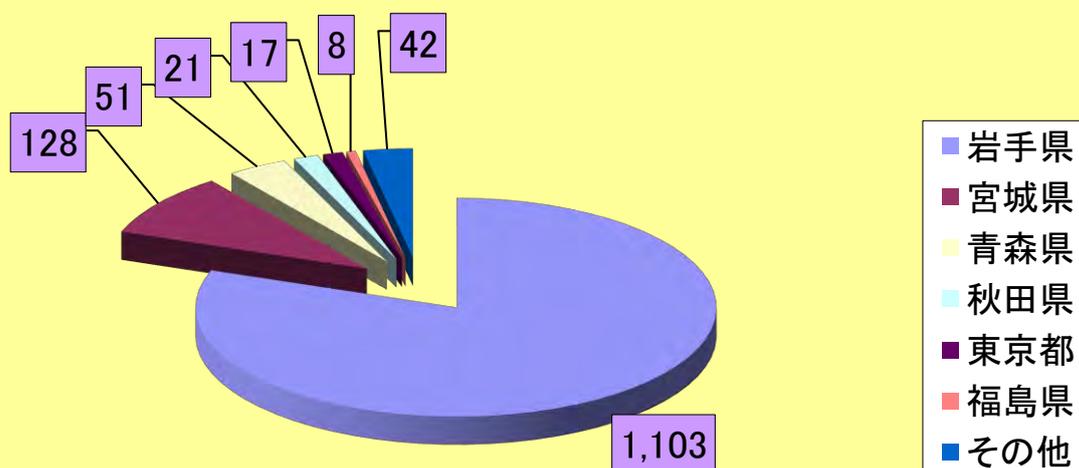


区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	105	140	144	151	141	162	121	89	57	99	81	80	1,370
利用者数	12,630	11,424	10,628	15,904	12,839	15,830	8,191	5,431	5,776	7,216	4,642	6,953	117,464

地域別利用状況

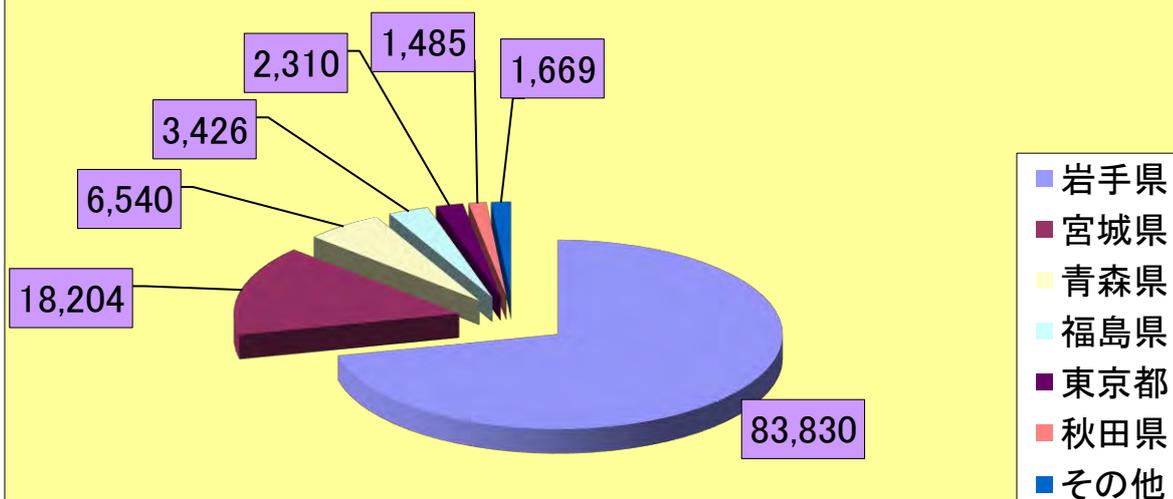
	岩手県	宮城県	青森県	秋田県	東京都	福島県	その他	合計
団体数	1,103	128	51	21	17	8	42	1,370
比率	80.5%	9.3%	3.7%	1.5%	1.2%	0.6%	3.1%	100.0%

団体数



	岩手県	宮城県	青森県	福島県	東京都	秋田県	その他	合計
利用者数	83,830	18,204	6,540	3,426	2,310	1,485	1,669	117,464
比率	71.4%	15.5%	5.6%	2.9%	2.0%	1.3%	1.4%	100.0%

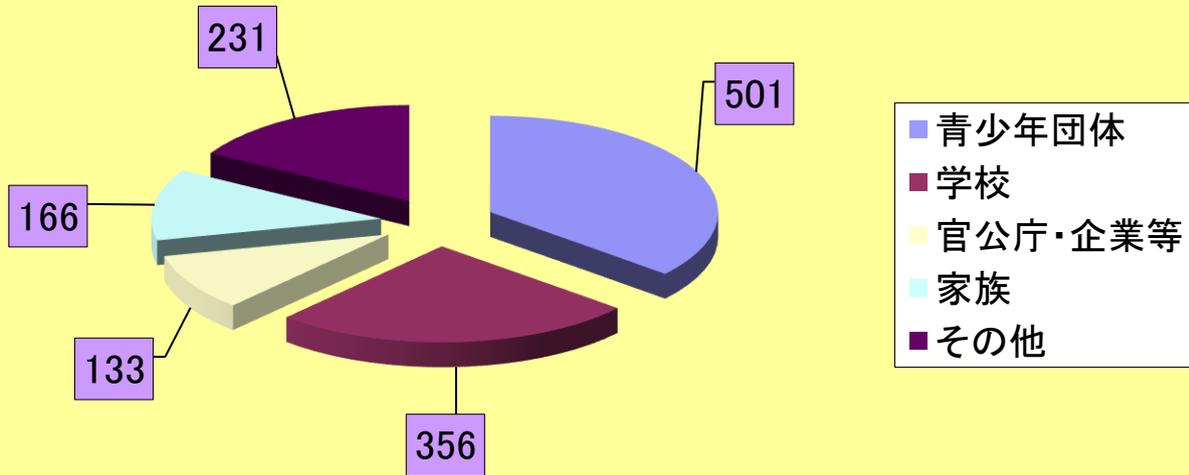
利用者数



主催団体別利用状況

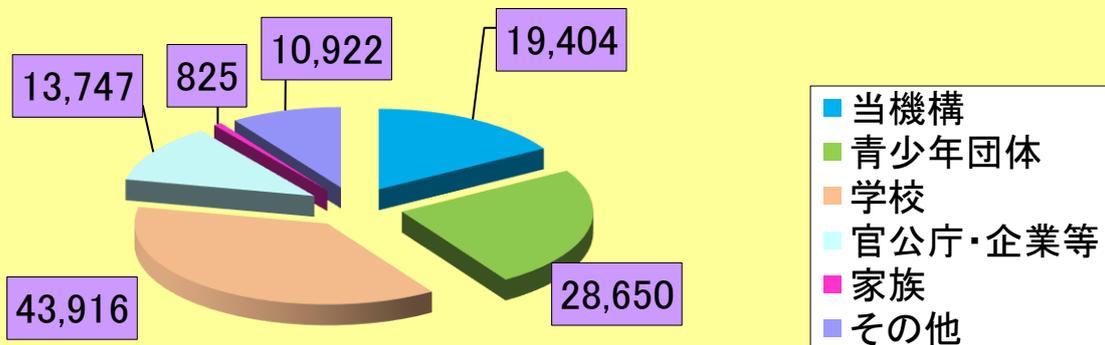
	青少年団体	学校	官公庁・企業等	家族	その他	合計
団体数	501	356	133	166	231	1,387
比率	36.1%	25.7%	9.6%	12.0%	16.7%	100.0%

団体数



	当機構	青少年団体	学校	官公庁・企業等	家族	その他	合計
利用者数	19,404	28,650	43,916	13,747	825	10,922	117,464
比率	16.5%	24.4%	37.4%	11.7%	0.7%	9.3%	100.0%

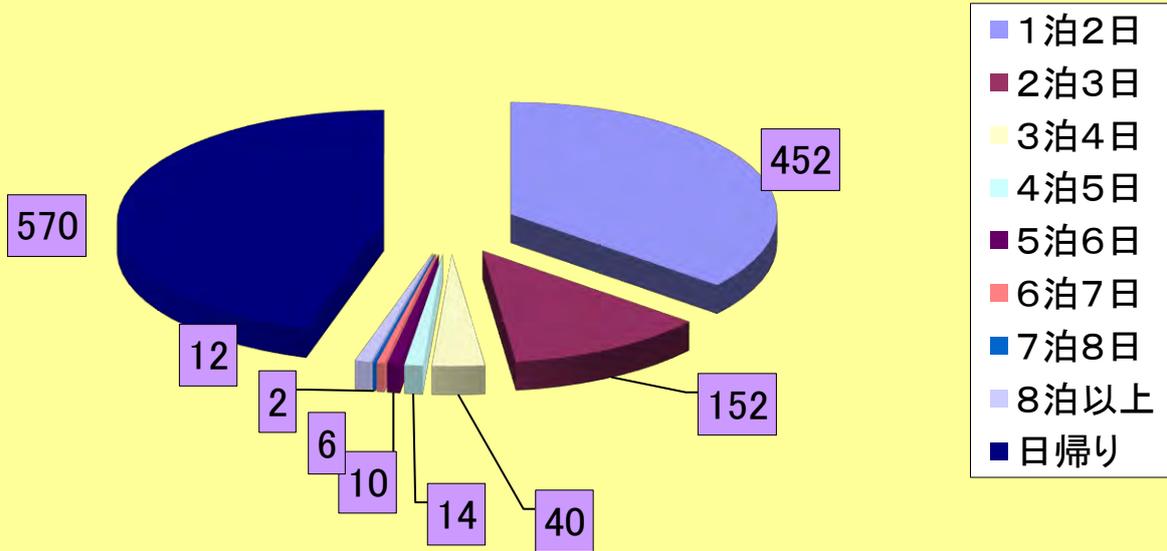
利用者数



泊数別利用状況

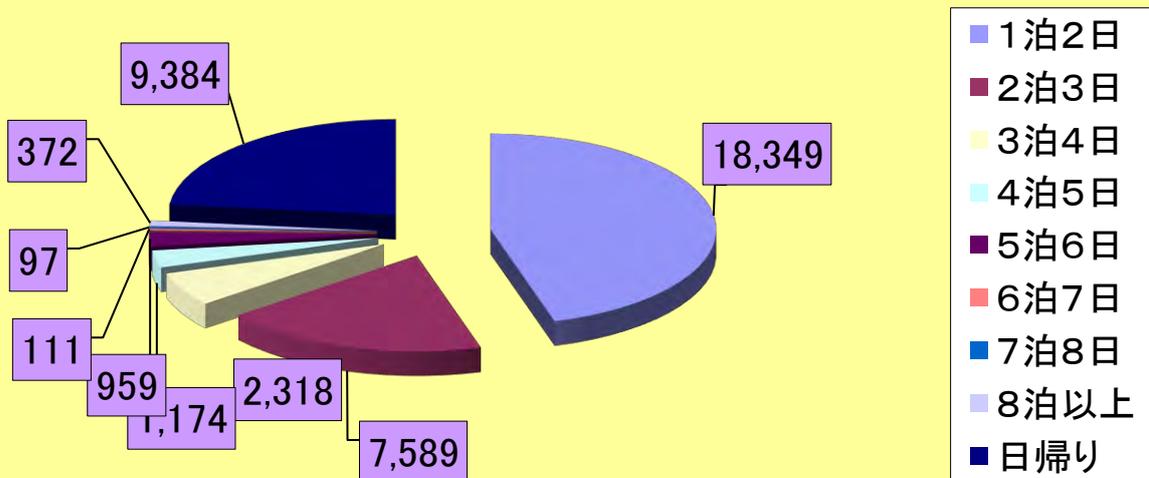
	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日	6泊7日	7泊8日	8泊以上	日帰り	計
団体数	452	152	40	14	10	6	2	12	570	1,258
比率	35.9%	12.1%	3.2%	1.1%	0.8%	0.5%	0.2%	1.0%	45.3%	100.0%

団体数

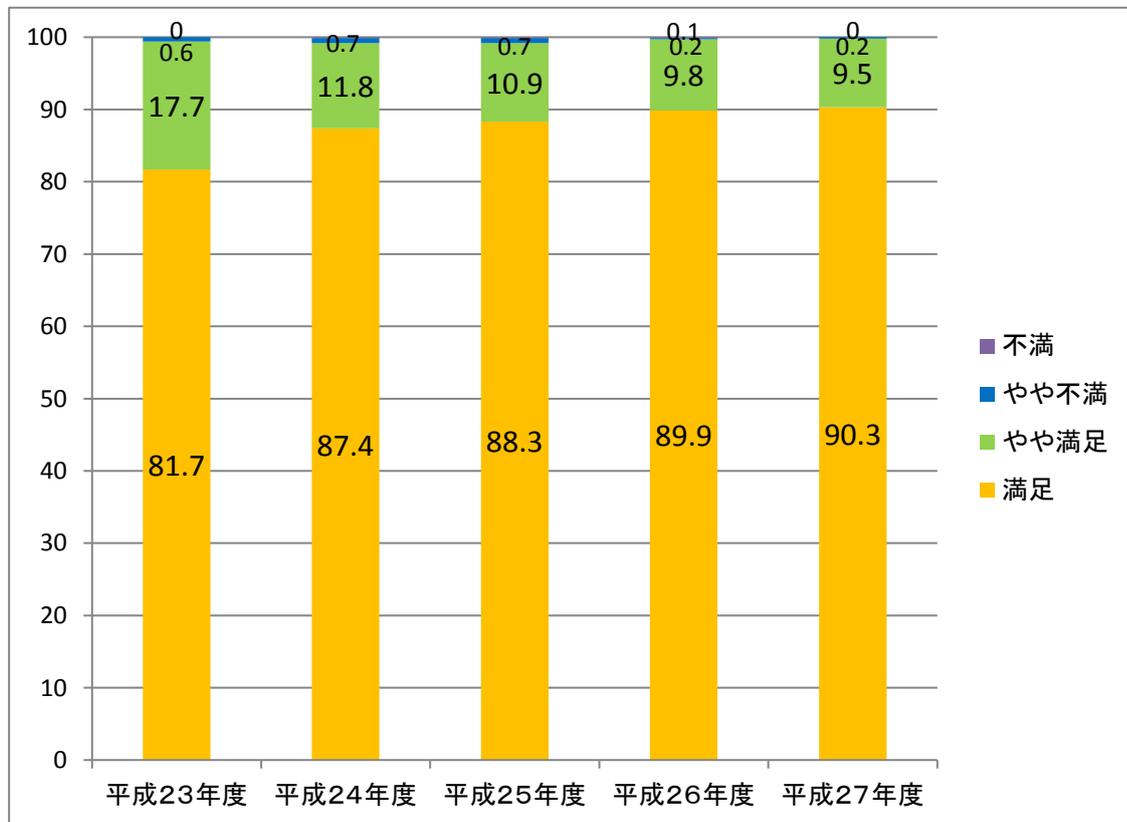
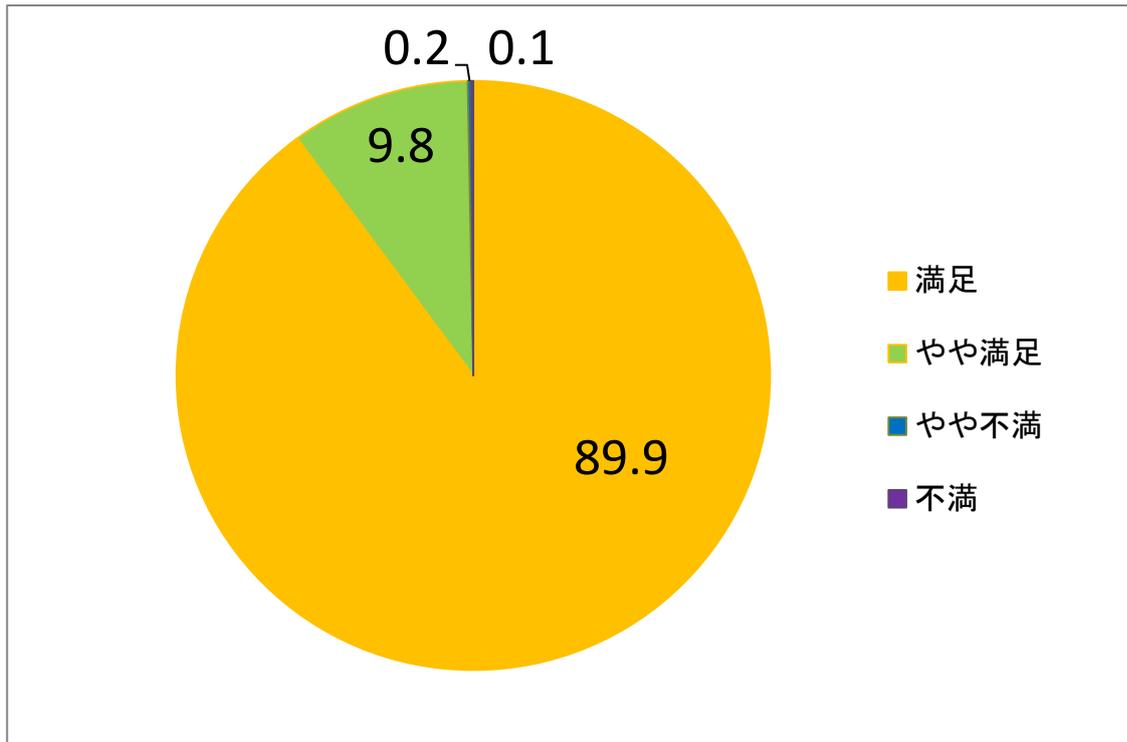


	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日	6泊7日	7泊8日	8泊以上	日帰り	計
利用者数	18,349	7,589	2,318	1,174	959	111	97	372	9,384	40,353
比率	45.5%	18.8%	5.7%	2.9%	2.4%	0.3%	0.2%	0.9%	23.3%	100.0%

実利用者数



施設を利用している総合的な満足度



施設の利用実績（過去5年間の比較）

単位：人

年 度	総利用者数			研修支援事業			主催事業(教育事業等)			被災者・ 避難者等	宿泊室 稼働率 %
	合 計	宿 泊	日帰り	小 計	宿 泊	日帰り	小 計	宿 泊	日帰り		
27	117,464	88,880	28,584	98,060	85,158	12,902	19,404	3,722	15,682	—	54.1
26	113,513	87,908	25,605	104,896	83,726	13,219	16,568	4,182	12,386	—	53.5
25	117,151	89,079	28,072	104,896	85,080	19,816	12,255	3,999	8,256	—	53.3
24	111,186	88,485	22,701	100,374	83,198	17,176	10,812	5,287	5,525	—	51.8
23	100,022	79,081	20,941	75,188	60,139	15,049	10,643	4,751	5,892	14,191	50.3

(1) 平成22・23年度の総利用者数は、研修支援事業及び主催事業に被災者・避難者等を加えた数値。

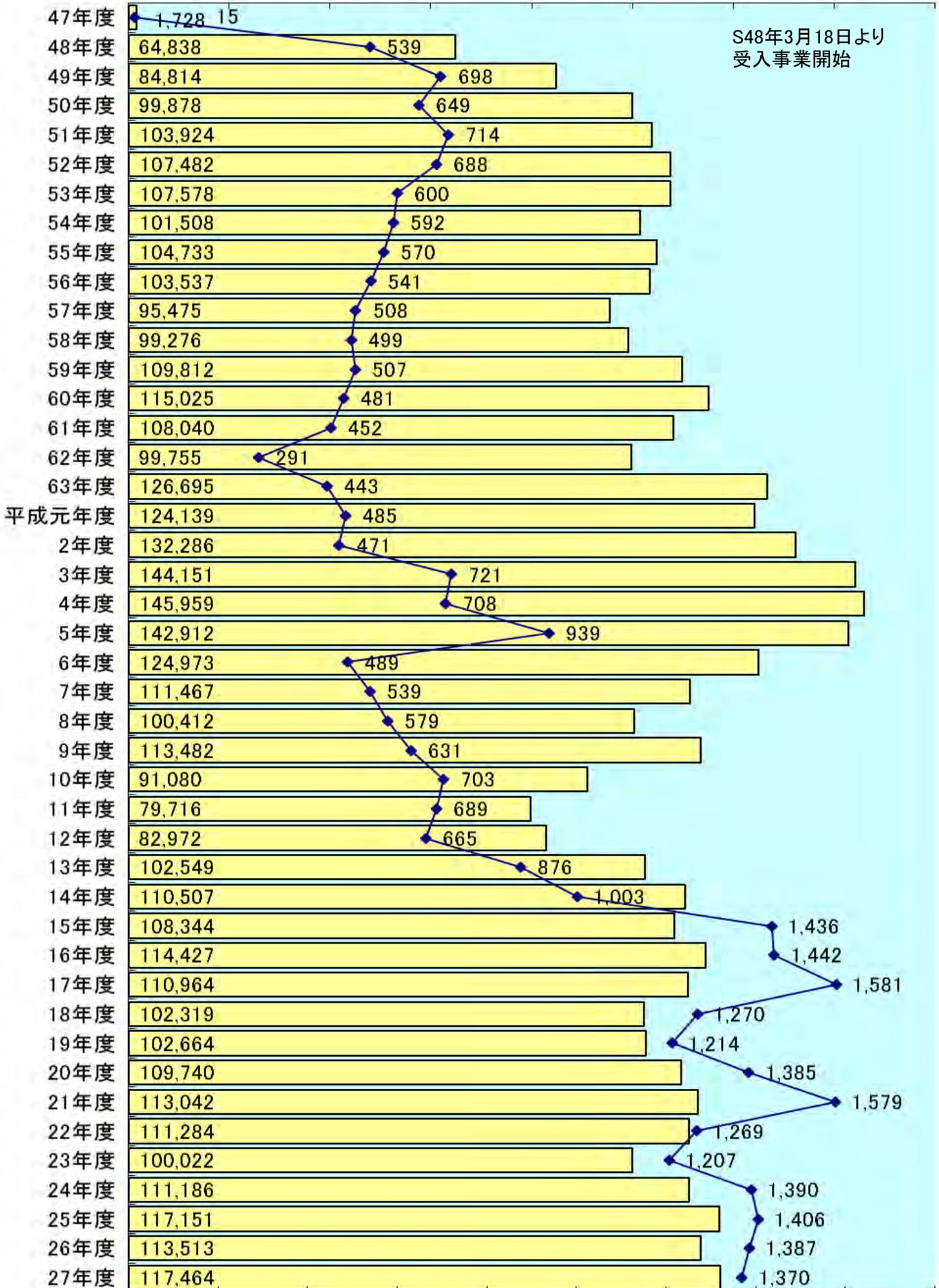
震災の影響により3月11日から5月末までの間、研修支援事業・主催事業の受け入れを停止した。

(2) 被災者・避難者等とは、東日本大震災の被災者捜索・災害復旧にあたるため施設に滞在した自衛隊利用者を指す。

利用状況の推移 昭和47～平成27年度

利用者数

0 20,000 40,000 60,000 80,000 100,000 120,000 140,000 160,000



0 200 400 600 800 1,000 1,200 1,400 1,600 1,800

団体数

平成27年度 当施設におけるボランティアの活動状況

5月23日、24日に法人ボランティア養成事業の「How To ボランティア」を実施し、今年度も継続して登録した法人ボランティア55名に加え、53名が新規にボランティア登録し、今年度の事業に向けた追加登録で10名が加わり、総勢118名が当施設の事業運営の補助を行ってきた。今年度は「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」をとおして、ボランティアとしてのスキルアップや事業に向けた運営の準備、自主企画の準備や報告会等を行った。継続登録の法人ボランティアが本年度登録のボランティアの指導を含め活動を行い、当施設の運営に大きく貢献している。また、日独学生リーダー研修の日本学生リーダー、立能登青少年交流の家で行われたボラシャッフルキャンプへの参加など、全国規模で岩手山の法人ボランティアが活躍している。今年度は、国立青少年教育振興機構の理事長から、岩手山法人ボランティア6名が理事長表彰を受けた。

・主な事業における法人ボランティアの参加状況

No	活動名	参加状況		主な活動内容
		日数	人数	
1	How To ボランティア	3	14	ボランティア活動紹介, 受講者の補助
2	ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト(8回)	11	137	講義, 演習, 自主企画打合せ, 「テンパークちゃれんじくらぶ秋・冬」打ち合わせや事前研修等
3	頭と心と体の3(未)体験フェスティバル	1	4	木の工作・プラとんぼ作成補助
4	さんりく体験!探検ツアー	3	5	Gリーダー, 体験活動補助, 生活指導補助
5	日独学生青年リーダー交流会	4	18	意見交換, 共同体験, 小学校訪問準備
6	滝沢市産業まつり	2	2	木の工作補助
7	テンパークちゃれんじくらぶ・秋	3	20	Gリーダー, 生活全般指導補助, 企画運営
8	親子宿泊体験・テンパークまつり	1	34	受付, 創作活動, 自然体験活動
9	テンちゃん一家の一週間	7	12	Gリーダー, 生活・学習の補助
10	えいご de キャンプ	3	29	体験活動支援, 生活全般指導補助
11	スキーすき好き シーハイル! (2回)	2 2	6 11	スキー体験補助, 生活指導補助, 活動支援補助
12	テンパークちゃれんじくらぶ・冬	3	20	Gリーダー, 生活全般指導補助, 企画運営
13	県北ステラまつり	1	1	創作活動補助
14	親子で楽しむ自然体験 in 冬のテンパーク	2	11	自然体験補助, 創作体験補助



今年度の How To ボランティアの参加者



ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト
テンパークちゃれんじくらぶ・冬 企画会議

平成27年度の法人ボランティア活動状況

	活動総数	参加人数
主催事業及び連絡協力推進事業	337	752
他施設	28	107
ボランティア自主企画	75	136
外部団体	9	17
合計	449	1,012

■活動状況に関する一覧表およびグラフの補足説明

a. 登録者数推移について

登録者数は、平成24年度を境に右肩上がりを示している。特質すべき点は、平成24年度から安定的に40名～60名ほどの新規ボランティアを獲得している点である。さらに、「岩手山ボランティア育成ビジョン」の草案を視野に入れた平成25年度のボランティア登録更新者（数値は平成26年登録者数に反映）からは、2年目以降もボランティア登録を継続する学生が安定的に増加していることが分かる。

b. 年代別登録数について

年代別登録数を見ると、平成25年から27年にかけて、大学1、2年生の年代である18歳、19歳の割合が増加している。一方で、新規ボランティアにとって憧れや目標のロールモデルとなる、大学3、4年生の年代である20歳、21歳、22歳の割合は、平成25年度から安定数を維持できている。

c. 延べボランティア活動人数推移

平成20年度から、「ボランティアのためのスキルアップ研修」を事業として展開しており、定期的にボランティアミーティングを実施していた。しかしながら、職員やボランティアの入替えに伴い、少数の特定人物だけが参加する閉鎖的な環境となっていたため、平成24年度に縮小を検討し始めた。

検討の結果、平成25年度はボランティアミーティングの実施を「テンパークちゃれんじクラブ夏・冬」における事業企画活動のみに限定し、年4回の開催とすることとした。平成24年度までのボランティアミーティングは、ボランティア日当や旅費の支払いもしていたため、事業運営費の効率的な運用の側面でも削減する必要があると判断し、定期ボランティアミーティングは廃止とした。

「岩手山ボランティア育成ビジョン」の草案を作成し始めた、平成25年度からは、ボランティアの活躍機会を効率的に提供できるようになり、ボランティアミーティング以外の教育事業に参加するボランティアが劇的に増加している。

平成27年度は、「岩手山ボランティア育成ビジョン」の発展期に伴い、ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクトを展開している。ボランティアブラッシュアッププロジェクトの展開の成果もあり、平成27年度の延べ活動総数は前年から倍増の1,012名である。今年度の活動機会の増加には、幾つか要因が挙げられるが、第一にボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクトへの参画（延べ298名）が挙げられる。また、ブラッシュアップ・プロジェクトの講師に他施設のボランティア・コーディネーターを招聘することで、那須甲子ドリームプロジェクトⅣ（14泊15日）に参加する者もあった。さらに、岩手山職員が企画実行委員会委員となっている機構本部の教育事業「世界の仲間とゆく年くる年」においても、複数のボランティアが参加した。

岩手山ボランティア育成ビジョンのポイント

岩手山青少年交流の家を取り巻く ボランティア状況の的確に把握

立地条件、施設の持つ指導力、若者のニーズ、これまでの取り組み実績等を的確に把握することで質の高いボランティア養成を推進する。

岩手山青少年交流の家が目指す ボランティア育成の方向性を明示

単なる人手として養成しているのではなく、青少年教育のナショナルセンターとして相応しい育成の姿を明示。若者の自己実現へ向けたステップとなる体験を提供。「社会を生き抜く力の養成」「未来に飛躍する人材育成」へと繋げる。

育成における 「起点」→「継続」の循環的育成スキームの構築による戦略的な育成

育成の過程から「起点」と「継続」のポイントを的確に見極め、戦略的な育成を行う。「起点」においては、ボランティア養成研修「How to ボランティア」における「継続」のきっかけを3つの要素から仕掛け、「継続」においては、若者にとって魅力的で成長に繋がる「ブラッシュ・アップ・プロジェクト」を展開し、若者の内発的な動機を醸成していく。

これまでの調査研究から得られた知見を元に、ナショナルセンターとして先鋭的な視点に基づく育成を実現していく。

国立岩手山青少年交流の家

住所：020-0601 岩手県滝沢市後 292

TEL 019-688-4221 FAX 019-688-5047 MAIL iwate-vol@niye.go.jp

岩手山ボランティア育成ビジョン担当 ボランティア・コーディネーター 及川

岩手山ボランティア 育成ビジョン

平成 27 年
5 月 21 日
策定

育成における「起点」と「継続」

循環的なボランティア育成が若者の未来を拓く

平成 25 年 6 月 14 日に閣議決定された第 2 期教育振興基本計画を承けて、国立岩手山青少年交流の家における法人ボランティアの養成指針を「岩手山ボランティア育成ビジョン」として明文化しました。

TEN PARK

国立岩手山青少年交流の家

育成の「起点」

ボランティア養成研修「How to ボランティア」

この機会に、ボランティアの心に「火を点ける」ことができれば、岩手山が目指すべき循環的な人材育成の第一歩を踏み出すことができる。

3つの重点要素

1 「魅力的な体験プログラム」

施設の持つ最も有効な要素は「体験プログラム」である。体験プログラムは「普段なかなか経験することのできない、交流の家で学べる体験」であると考えられる。養成後のステップアップの機会として、体験学習法や人間関係作りの理論、更には教育心理学的な知見等を取り入れながら子どもと関わる専門性を、体験の中から学んで行くことも、参加者にとって魅力の一つとして映ると考えられる。

2 「魅力的なボランティア仲間の存在」

新規ボラが先輩ボラに対して「ボランティアってすごい」「あの先輩のようにになりたい」「どうしたらあんなに堂々と人前で話せるのだろうか?」といった、憧れや目標を抱くことが出来るロールモデルとして捉えることができる機会を作ることが重要である。また、多くの同期仲間の存在も重要であり、「ナナメ」の関係性が重要である。

3 「魅力的な講師の存在」

専門的な知見は、実際に体験して学んだ事柄を、ボランティア自身の経験知として深化させることが出来る。そのために、ボランティアに関する知識経験が豊富であったり、教育心理学的な専門知見を有したりする人間的な魅力にあふれた講師を招聘することで、ボランティア活動のスタートとなる養成研修にふさわしい研修になると考えられる。また、実社会で働く専門性を有した人物としても講師の役割は重要である。ボランティアとして取り組んだ先に、「どんな将来が待っているのか?」あるいは「どんな将来を目指すことが出来るのか?」「何に役立つのか?」等、実際に社会で活躍している人物が参加者に刺激的な魅力を与えると考えられる。

育成の「継続」

「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」

調査研究で得た知見から得た、継続に向けた新たな「価値」の創出。若者が「社会を生き抜く力」を身に付けること。そしてプロジェクト成功に向けた取り組みの課程で得られる「自分」に対する「信頼」。自信にあふれる若者を育てる、自尊感情を育むプログラム。

調査研究から得た知見

ボランティアは子どもと関わる企画活動を展開することで、情動知能が向上する

人間の感情やその感情に対する対処、適応などの情動能力が、対人間、あるいは様々な社会状況において生じる複雑な問題において大きな役割を果たす。(Mayer and Salovey 1995)
→急激に変化する現代社会において、必要な「社会を生き抜く力」を図る指標となる

4 「自主企画活動の立案及び運営の体験」

継続して取り組むボランティアが今後も交流の家のボランティアとして活動を続けていくには、交流の家がある一定以上の付加価値を提供し続けることが重要であると考えられる。育成を行っても、活躍の場や自己研鑽の場がなければ、ボランティアにとっては参加・活動する価値がなくなり、アルバイトやその他のコンテンツ(趣味やサークル活動等)といった他の有益な選択肢へと流れてしまうだろう。そこで、交流の家では継続して取り組むボランティアに対する新たな研鑽機会として、ボランティア自身のアイデアで事業を企画運営することが出来る教育事業「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」を展開する。「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」は、平成27年度に新規に実施する教育事業であり、その対象は交流の家で登録している法人ボランティアである。「ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト」は、法人ボランティアが複数の企画チームを組織し、自然体験キャンプや、学生交流キャンプ等様々な活動を自由に考え実施するプログラムである。

岩手山ビジョンが目指す循環的育成スキーム

青少年を取り巻く現状と課題

第2期教育振興基本計画の策定に伴う背景は、家庭の教育力の低下や情報テクノロジーの発達・グローバル化の進展に伴う社会構造の急激な変化等が挙げられるだろう。

青少年教育施設のボランティア育成の対象となる年代は

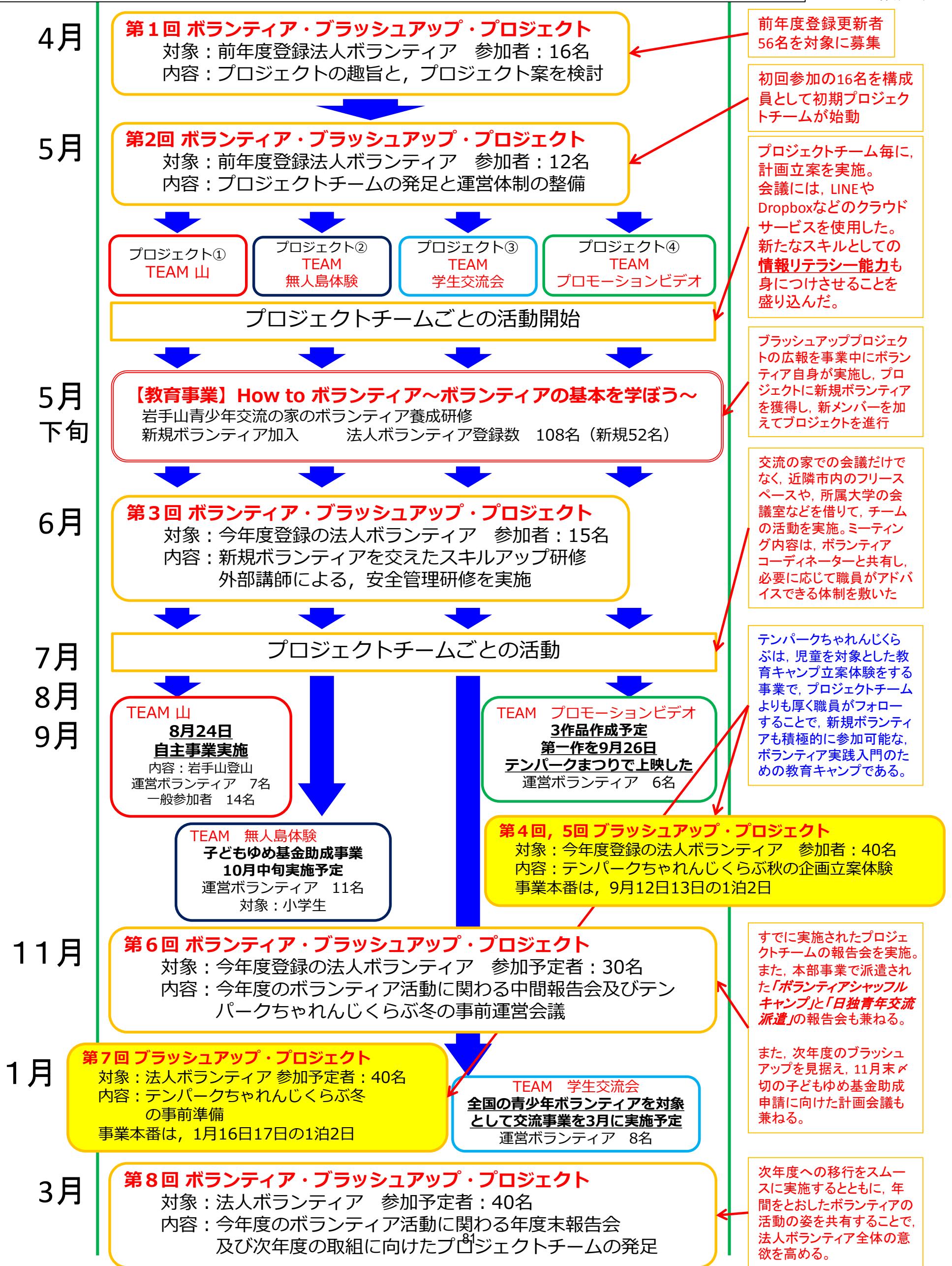
「社会の荒波に船出するための最後の教育機会を迎えている」

職員に依存することなくボランティアが次代のボランティアを育てて行く循環

育成の「起点」 育成の「継続」

岩手山ボランティア育成ビジョンは、簡潔に述べると「育成の起点」で新規ボランティアを開拓し、「育成の継続」で継続的に活動するボランティアを育成していくことである。継続的に活動するボランティアを「育成の起点」において、ロールモデルとして参画させることで、人材育成の好循環を作り出し、循環的ボランティア育成スキームを構築することができると考えられる。

「育成の起点」と「育成の継続」の2軸を包括的に捉えることで、岩手山ボランティア育成ビジョンにおける「循環的育成スキーム」として完成する。

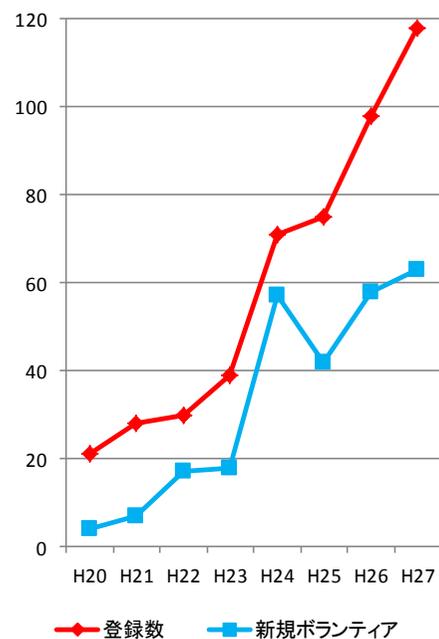


国立岩手山青少年交流の家における法人ボランティアの活動状況に関する推移

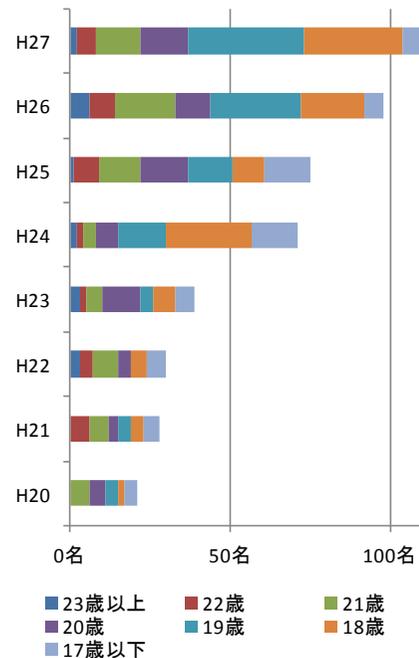
■活動状況に関する一覧表およびグラフ（平成20年度～27年度）

	登録数	新規ボランティア	23歳以上	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳以下	述べボランティア活動人数/年間	備考	担当職員	
平成20年度	21名	4名	0名	0名	6名	5名	4名	2名	4名	122名		村田	
平成21年度	28名	7名	0名	6名	6名	3名	4名	4名	5名	282名		佐々木	
平成22年度	30名	17名	3名	4名	8名	4名	0名	5名	6名	264名		平田	
平成23年度	39名	18名	3名	2名	5名	12名	4名	7名	6名	281名		南山	
平成24年度	71名	57名	2名	2名	4名	7名	15名	27名	14名	281名		氏家	及川
平成25年度	75名	42名	1名	8名	13名	15名	14名	10名	14名	384名	定期ボランティアミーティング廃止 ボランティア育成ビジョン創成期	丹	及川
平成26年度	98名	58名	6名	8名	19名	11名	28名	20名	6名	466名	ボランティア育成ビジョン試行期	中田	及川
平成27年度	118名	63名	2名	6名	14名	15名	36名	31名	14名	955名	ボランティア育成ビジョン発展期	鎌田	及川

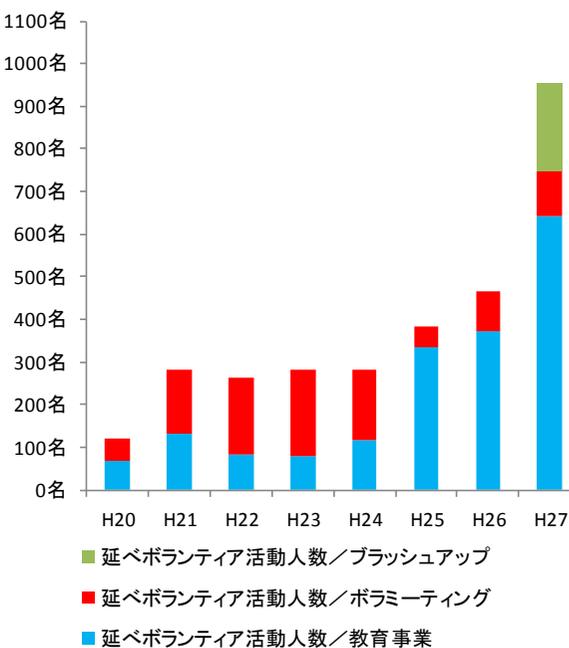
登録者数推移



年代別登録者数推移



述べボランティア活動人数推移



	ボランティアミーティング開催数	ボランティアミーティング平均出席数
H20	10回	5.4名
H21	19回	7.9名
H22	32回	5.7名
H23	34回	5.9名
H24	26回	6.3名
H25	4回	12.3名
H26	4回	23.3名
H27	4回	27.0名

■活動状況に関する一覧表およびグラフの補足説明

a. 登録者数推移について

登録者数は、平成24年度を境に右肩上がりを示している。特質すべき点は、平成24年度から安定的に40名～60名ほどの新規ボランティアを獲得している点である。さらに、「岩手山ボランティア育成ビジョン」の草案を視野に入れた平成25年度のボランティア登録更新者（数値は平成26年登録者数に反映）からは、2年目以降もボランティア登録を継続する学生が安定的に増加していることが分かる。

b. 年代別登録数について

年代別登録数を見ると、平成25年から27年にかけて、大学1、2年生の年代である18歳、19歳の割合が増加している。一方で、新規ボランティアにとって憧れや目標のロールモデルとなる、大学3、4年生の年代である20歳、21歳、22歳の割合は、平成25年度から安定数を維持できている。

c. 述べボランティア活動人数推移

平成20年度から、「ボランティアのためのスキルアップ研修」を事業として展開しており、定期的にボランティアミーティングを実施していた。しかしながら、職員やボランティアの入替えに伴い、少数の特定人物だけが参加する閉鎖的な環境となっていたため、平成24年度に縮小を検討し始めた。

検討の結果、平成25年度はボランティアミーティングの実施を「テンパークちゃれんじクラブ夏・冬」における事業企画活動のみに限定し、年4回の開催とすることとした。平成24年度までのボランティアミーティングは、ボランティア日当や旅費の支払いもしていたため、事業運営費の効率的な運用の側面でも削減する必要があると判断し、定期ボランティアミーティングは廃止とした。

「岩手山ボランティア育成ビジョン」の草案を作成し始めた、平成25年度からは、ボランティアの活躍機会を効率的に提供できるようになり、ボランティアミーティング以外の教育事業に参加するボランティアが劇的に増加している。

平成27年度は、「岩手山ボランティア育成ビジョン」の発展期に伴い、ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクトを展開している。ボランティアブラッシュアッププロジェクトの展開の成果もあり、平成27年度の延べ活動総数は前年から倍増の955名である。今年度の活動機会の増加には、幾つか要因が挙げられるが、第一にボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクトへの参画（延べ298名）が挙げられる。また、ブラッシュアップ・プロジェクトの講師に他施設のボランティア・コーディネート者を招聘することで、那須甲子ドリームプロジェクトⅣ（1泊15日）に参加する者もあった。さらに、岩手山職員が企画実行委員会委員となっている機構本部の教育事業「世界の仲間とゆく年くる年」においても、複数のボランティアが参加した。

平成27年度 盛岡大学社会教育活動実習受入事業

1 趣 旨

盛岡大学に在籍する学生が、国立岩手山青少年交流の家が主催するボランティア事業に参加することにより、ボランティア活動の基本を理解し、社会貢献の意義を学び、ボランティアリーダーとしての資質を身につけると共に、独立行政法人国立青少年教育振興機構におけるボランティアスタッフの養成を図る。

2 期 間

平成27年5月23日（土）～平成28年2月21日（日）

3 実習生数

27名

4 実習内容及び参加者数

○必修

- (1) How To ボランティア～ボランティア活動の基本を学ぼう～

期 日 : 5月23日（土）～24日（日）

参加者数 : 27名

内 容 : 履修者には必修事業として位置づけ、ボランティア活動の基本を学び、実践しようとする意欲を育てる。

- (2) テンパーク広場2015

期 日 : 9月27日（日）

参加者数 : 22名

内 容 : 教育事業「テンパーク広場2015」の運営補助を行う。

○選択

- (1) 体験活動支援セミナー～ドキドキ わくわく ボランティア・秋～

期 日 : 9月12日（土）～13日（日）

参加者数 : 13名

内 容 : 小学生を対象とした1泊2日のキャンプのグループリーダーとして、実践の場で学ぶ。

- (2) 体験活動支援セミナー～ドキドキ わくわく ボランティア・冬～

期 日 : 1月16日（土）～17日（日）

参加者数 : 8名

内 容 : 小学生を対象とした1泊2日のキャンプのグループリーダーとして、実践の場で学ぶ。

- (3) 親子で楽しむ自然体験 in テンパーク

期 日 : 1月20日（土）～21日（日）

参加者数 : 1名

内 容 : 自然体験や創作活動の運営補助を行う。

5 履修の流れ

- (1) 履修ガイダンスで履修方法の説明及び希望調査を実施 : 4月8日（水）

- (2) 選択した各事業に参加

6 評価について

各事業への参加状況及び実施後のレポート提出状況等で総合して評価する。

7 その他

- (1) 履修者は、機構本部の社会教育実習生の取扱に準じて4,000円を事前に振り込む。

- (2) 参加した事業毎に参加費を納入する。

平成27年度 東北福祉大学社会教育実習生の受入

1 趣旨

国立岩手山青少年交流の家での実習体験をとおして、社会教育活動の意義を理解し、社会教育実習生としての必要な知識の習得と能力の向上を図る。

2 期間及び参加者数

平成27年9月8日（火）～9月12日（日） 1名

3 実習内容

- ・当施設で提供する教育事業及び活動プログラム（研修支援の業務）について理解し、指導補助に携わりながら、指導の方法や支援の仕方について学ぶ内容とした。
- ・2日間で約28,000人が来場した「IBCまつり」の創作補助を行った。

4 日 程

8：30	職員朝会出席
8：45	退所点検確認業務実習
9：00	実習指導担当専門職と打合せ・実習
12：00	昼食・休憩
13：00	実習
17：15	実習終了 夕食・入浴

5 その他

- (1) 実習費（4,000円）は事前に振り込む。
- (2) 一日の食費1,640円（朝食420円、昼食530円、夕食690円）、シーツ等洗濯代200円が必要経費となる。
- (3) 食費、シーツ等の支払いについては最終日に売店に直接納入する。
- (4) 実習生の持ち物として、洗面用具・着替え・運動着・運動靴（外・内）・帽子・雨具・保険証（写し可）等を持参する。

平成27年度 広報について

① 新規利用団体の獲得に向けて

今年度は岩手県内の高等学校 17 校を直接訪問し、勉強合宿・部活動等での利用について広報活動を行った。また、滝沢市校長会において、各校の校長等に対して、当施設の利用説明会を行った他、盛岡市PTA連合会等において、「体験の風をおこそう」運動と併せ当施設のPR等を行っている。

② 近隣の自治体等との連携について

滝沢市の「産業まつり」、岩手産業文化センター（アピオ）で開催された「IBCまつり」、釜石市で開催された「しぜんとあそび in 釜石あそび」の広場に於いて当施設の体験ブースを出店し、施設のPR活動を行うとともに、「早ね早おき朝ごはん」の顔出しパネルをブース横に設置し、同運動の普及・啓発を行った。

→両イベント共に当施設のブースに多数の方に訪れていただくことができた。「体験の風をおこそう」運動等や、当施設のPRにも大いに役立った。

③ 公立の社会教育施設との連携について

岩手県立県北青少年の家で開催された「ステラパルまつり」及び岩手県内の県立3施設合同で開催された「親子でチャレンジ」に出展し、当施設の広報を行った。

→当日はそれぞれ多くの親子連れに当施設のブースを訪れていただくことができ、所期の目的を達成することができたと考える。今後も近隣の社会教育施設と事業運営等を通じて相互に連携を深めていく予定である。

④ テレビコマーシャルによる広報

IBC岩手放送において、「体験の風をおこそう」運動のPRと、国立岩手山交流の家と岩手県立青少年交流の家3施設の、テレビコマーシャルを2週間にわたり放映した。

→テレビコマーシャルの放映により、「体験の風をおこそう」運動と岩手県内の青少年教育施設の認知度が大いに向上した。

⑤ 滝沢市との連携により、四半期ごとに滝沢市の広報に合わせて当所のニュースレターを全世帯（約22,000世帯）に配布している。

→幅広い住民に対して、より身近な施設として交流の家を認識していただくことができ、イベントの集客にも効果があった。

⑥ みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会と連携し、青森・岩手・宮城・秋田県の主要公民館や青少年教育関係団体（32施設・団体）を直接訪問し、広報を行った。

また、青森県青森市・弘前市、岩手県盛岡市・宮古市、秋田県秋田市で行った「子どもゆめ基金説明会」においても交流の利用についての広報を行った。

→各県の公民館・青少年教育関係団体から、改めて当交流の家の取組みについて認識していただくことができた。

平成27年度高等学校訪問先一覧

	学 校 名	対 応 者	広 報 日			学 校 名	対 応 者	広 報 日	
			月 日	曜日				月 日	曜日
1	盛大附属高校	副校長	11 月 24 日	火	10	盛岡白百合 中学校・高校		12 月 3 日	木
2	盛岡中央高校	副教頭 教務主任	11 月 24 日	火	11	盛岡第二高校		12 月 3 日	木
3	盛岡第三高校	副校長	11 月 24 日	火	12	盛岡第四高校	副校長	12 月 3 日	木
4	盛岡誠桜高校	教頭	11 月 24 日	火	13	盛岡南高校	進路指導部	12 月 3 日	木
5	盛岡第一高校	副校長	11 月 24 日	火	14	盛岡工業高校	副校長	12 月 3 日	木
6	岩手 中学校・高校	副校長	11 月 24 日	火	15	盛岡スコーレ	教務主任	12 月 3 日	木
7	岩手女子高校	副校長	11 月 24 日	火	16	盛岡商業高校	進路指導部長	12 月 3 日	木
8	江南義塾盛岡高校	副校長	11 月 24 日	火	17	盛岡市立高校	生徒指導主事	12 月 3 日	木
9	盛岡農業高校	副校長 農場長	11 月 24 日	火					

当施設に関する記事の掲載について

○平成27年度

No	掲載日	媒体名	記事タイトル等
1	27.5.25	文教ニュース	岩手山青少年交流の家「鞍掛山実地踏調査」
2	27.5.25	文教ニュース	元初中局長の辻村夫妻仲介でミニコンサート
3	27.6.9	盛岡タイムス	青少年交流の家公開講座「火山としての岩手山を知る」
4	27.6.15	文教ニュース	「ボランティア活動の基本を学ぼう」開催
5	27.6.22	文教速報	「集団の力を活かすアドベンチャープログラム体験会」
6	27.7.10	文教速報	岩手大と岩手山交流の家が連携・協力協定を締結
7	27.7.16	盛岡タイムス	頭と体と心を使って 岩手大学 体験フェスティバル
8	27.8.3	岩手日報	体験活動と一緒に テンパークちゃれんじくらぶ～秋募集
9	27.8.7	文教速報	「さんりく体験！探検ツアー」を開催 復興支援意識高める
10	27.8.21	文教速報	被災地児童を対象に「えいごdeキャンプ」
11	27.9.2	文教速報	自立支援が必要な子どもたちのチャレンジタイム
12	27.9.6	盛岡タイムス	ドイツ青年リーダーと交流 柳沢小で授業参観など
13	27.10.7	文教速報	「テンパークちゃれんじくらぶ」を開催
14	27.10.12	岩手日報	英語キャンプ異文化楽しむ 被災地の児童ら参加
15	27.10.21	文教速報	青少年機構研修指導員ら社会教育功労者表彰
16	27.11.25	盛岡タイムス	海の子と森に遊ぶ 児童がキャンプで交流
17	27.12.4	文教速報	通学合宿「テンちゃん一家の一週間」
18	27.12.9	岩手日報	健全育成で文科省表彰 楽しい登山指導 泉貴美子さん
19	27.12.15	盛岡タイムス	自然体験と交流 テンパークちゃれんじくらぶ～冬募集
20	27.12.16	文教速報	OB・現職ら39名が旧交 岩手山青少年交流の家OB会
21	28.1.8	文教速報	被災地の児童・生徒を対象に「えいごdeキャンプ」開催
22	28.2.3	岩手日報	盛岡大6人全国表彰 青少年の家で奉仕活動
23	28.2.5	盛岡タイムス	6人表彰は全国最多 青少年教育振興機構ボランティアの盛人生
24	28.2.5	文教速報	「テンパークちゃれんじくらぶ・冬」を開催
25	28.2.15	文教速報	岩手山交流の家からは6名受賞 「法人ボランティア表彰」授与式を開催
26	28.3.4	文教速報	岩手山交流の家でスキー体験 スキー すき好き シーハイル！

平成27年度当初予算

(単位：千円)

事業費	教育事業経費	4,900
	研修支援事業経費	1,500
	小計	6,400
管理運営費	運営経費	73,353
	(事業・管理運営経費)	(69,353)
	(施設・設備整備事業運営経費)	(4,000)
	小計	73,353
基金事業費	附帯業務経費	4,650
	(リレーションシップ事業)	(4,650)
	小計	4,650
合計		84,403

主な施設整備・設備の改修、更新状況

- ・ 浴場棟便所改修工事（利用者利便性のため）
- ・ 浴槽自動塩素濃度管理装置取付工事（利用者の安全・安心確保のため）
- ・ 館内放送設備等更新工事（老朽化のため）
- ・ 食堂棟厨房天井 給・排器具交換工事（老朽化のため）
- ・ 食堂棟照明器具LED化工事（省エネのため）
- ・ 浄化槽機器更新工事（老朽化のため）
- ・ 宿泊棟トイレウォシュレット工事（一部・利用者利便性のため）
- ・ 管理研修棟机更新（一部・老朽化のため）

日 誌 抄

【所内会議・研修・教育事業等】

月	日	内 容
4月	1日	辞令交付式 着任式
	1日	平成27年度新任職員研修会（第1回）（～2日）
	2日	平成27年度交通安全研修
	9日	事務連絡会（第1回）
	16日	環境ボランティアによる環境整備
	26日	ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト（第1回）
	29日	活動プログラム職員体験研修（鞍掛山登山（第1回））
	23日	給食業務等運営委員会（第1回）
5月	1日	活動プログラム職員体験研修（姫神山登山（第1回））
	1日	平成27年度新任職員研修会（第2回）
	7日	歌とピアノのミニコンサート（～9日）
	13日	事務連絡会（第2回）
	14日	活動プログラム職員体験研修（姫神山登山（第2回））
	16日	ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト（第2回）
	18日	マイマイ蛾駆除薬剤散布
	20日	給食業務等運営委員会（第2回）
	20日	岩手県立盛岡峰南高等支援学校による花壇整備（第1回）
	23日	教育事業「How to ボランティア ～ボランティア活動の基本を学ぼう～」（～24日）
	23日	教育事業「kids together えいご de キャンプ in テンパーク①」（～24日）
27日	事務連絡会（第3回）	
6月	2日	教育事業集团の力を活かすアベンチャープログラム体験会
	6日	ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト（第3回）（～7日）
	7日	国立岩手山青少年交流の家公開学習会「火山としての岩手山を知る」
	8日	事務運営会議（支援セミナー・テンちゃれ・IBC祭り）
	9日	岩手県立盛岡峰南高等支援学校による花壇整備（第2回）
	10日	事務連絡会（第4回）
	15日	活動プログラム職員体験研修（岩手山登山（第1回））
	17日	安全管理者講習報告会
	17日	環境ボランティアによる環境整備
	17日	岩手県立盛岡峰南高等支援学校による花壇整備（第3回）
	18日	広報プロジェクト会議（第1回）
	18日	給食業務等運営委員会（第3回）
	24日	事務連絡会（第5回）

月	日	内 容
7月	1日	活動プログラム職員体験研修（岩手山登山（第2回））
	1日	平成27年度新任職員研修会（第3回）（～3日）
	8日	事務連絡会（第6回）
	11日	SD研修「セクハラ認識度チェックテスト」
	15日	環境ボランティアによる環境整備
	15日	施設業務運営委員会（第1回）
	13日	岩手県立盛岡峰南高等支援学校による花壇整備（第4回）
	18日	教育事業さんりく体験！探検ツアー（～20日）
	22日	給食業務等運営委員会（第4回）
	22日	事務連絡会（第7回）
	22日	事務運営会議（支援セミナー・テンチャレ・テンパークまつり・IBC祭り）
	25日	教育事業「kids together えいご de キャンプ in テンパーク②」（～26日）
8月	5日	教育事業「タートルズキャンプ ～自立支援が必要な子どもたちのチャレンジタイム～」（～7日）
	10日	教育事業「教員免許状更新講習」（～11日）
	12日	事務連絡会（第8回）
	19日	環境ボランティアによる環境整備
	22日	ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト（第4回）
	24日	ボランティアブラッシュアップ（岩手山登山）
	25日	岩手県立盛岡峰南高等支援学校による花壇整備（第5回）
	26日	事務連絡会（第9回）
	31日	給食業務等運営委員会（第5回）
9月	1日	教育事業日独学生青年リーダー交流事業（～7日）
	5日	ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト（第5回）
	8日	平成27年度第1回消防訓練
	12日	教育事業「体験活動支援セミナー ～ドキドキ わくわく ボランティア・秋～」（～13日）
	〃	教育事業「テンパークチャレんじくらぶ ～ドキドキ わくわく・秋～」（～13日）
	16日	給食業務等運営委員会（第6回）
	16日	事務連絡会（第10回）
	26日	教育事業「テンパークまつり2015 ～親子宿泊体験大募集～」（～27日）
27日	教育事業「テンパークまつり2015」	

月	日	内 容
10月	6日	岩手県立盛岡峰南高等支援学校による花壇整備（第6回）
	7日	「体験の風をおこそう」運動およびゆめ基金制度に係るSD研修
	7日	事務連絡会（第11回）
	7日	自己点検評価委員会
	11日	教育事業「kids together えいご de キャンプ in テンパーク③」（～12日）
	14日	給食業務等運営委員会（第7回）
	14日	広報プロジェクト会議（第2回）
	15日	健康診断
	19日	岩手県立盛岡峰南高等支援学校による花壇整備（第7回）
	21日	事務連絡会（第12回）
	28日	教育事業アベンチャープログラム体験会～第2回
31日	ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト（第6回）	
11月	4日	環境ボランティアによる環境整備
	5日	緊急地震速報対応訓練
	6日	大型バス運転講習（紫波中央自動車学校）
	8日	教育事業「通学合宿 ～テンちゃん一家の1週間」（～14日）
	10日	SD研修「交通安全チェックテスト」
	10日	事務連絡会（第13回）
	18日	教育事業「岩手県内青少年集団宿泊教育施設職員合同研究会」（～19日）
	24日	給食業務等運営委員会（第8回）
29日	SD研修(防災気象講演会)	
12月	5日	ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト（第7回）
	9日	事務連絡会（第14回）
	12日	教育事業「kids together えいご de キャンプ in テンパーク④」1回目（～13日）
	16日	給食業務等運営委員会（第9回）
1月	5日	仕事始の会
	6日	子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業 「スキー体験inテンパーク ～スキーすき好きシーハイル!～」(～7日)
	8日	事務連絡会（第15回）
	12日	SD研修「安全運転セルフチェック」
	13日	給食業務等運営委員会（第10回）
	16日	教育事業「体験活動支援セミナー ～ドキドキ わくわく ボランティア・冬～」(～17日)
	〃	教育事業「テンパークちゃれんじくらぶ ～ドキドキ わくわく・冬～」(～17日)
	20日	事務連絡会（第16回）
	23日	子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業 「スキー体験inテンパーク ～スキーすき好きシーハイル!～」(～24日)

月	日	内 容
2月	2日	S D 研修「消防機器操作方法説明会」
	2日	S D 研修 「女性の活躍促進セミナー」(岩手大学)
	10日	平成27年度第2回消防訓練
	10日	事務連絡会(第17回)
	10日	給食業務等運営委員会(第11回)
	17日	事務連絡会(第18回)
	20日	親子で楽しむ自然体験 IN 冬のテンパーク(～21日)
	24日	普通救命講習
	27日	教育事業「kids together えいご de キャンプ in テンパーク⑤」1回目(～28日)
3月	2日	事務連絡会(第19回)
	16日	S D 研修「アドベンチャープログラム」
	9日	給食業務等運営委員会(第12回)
	12日	ボランティア・ブラッシュアップ・プロジェクト(第8回)(～13日)
	16日	事務連絡会(第20回)
	16日	広報プロジェクト会議(第3回)
	24日	国立岩手山青少年交流の家感謝状交付式
	25日	辞令交付式 離任式
	26日	教育事業「kids together えいご de キャンプ in テンパーク⑥」(～27日)
	28日	教育事業「kids together えいご de キャンプ in テンパーク⑦」(～29日)
	30日	離任式

【所外会議・研修等】

月	日	会議・研修名	出席者
4月	1日	平成27年度新任所長・新任次長研修	所長
	7日	平成27年度第1回岩手県社会教育主事等会議（～8日）	企画指導専門職4名
	14日	第1回秋田県生涯学習・社会教育関係職員会議	副主任企画指導専門職1名
	20日	平成27年度生涯学習・社会教育主管課長等会議（宮城県）	企画指導専門職1名
	21日	岩手県電話電話ユーザー協会主催 平成27年度ビジネスマナー（初級・新入社員）	事業推進係員1名
	22日	平成27年度新任事業系職員研修（～24日）	企画指導専門職2名
	22日	平成27年度滝沢市子ども会育成連合会理事会	次長
	24日	平成27年度北管内生涯学習・社会教育主管課長会議（兼） 第1回北地区社会教育関係職員研修会（秋田県）	副主任企画指導専門職1名
28日	五日会4月例会	所長	
5月	9日	平成27年度教育事業 国立青少年教育振興機構共通プログラムボランティア養成研修「第36期はなやまボランティアスクール」講師派遣	企画指導専門職1名
	10日	滝沢市子ども会育成連合会総会	企画指導専門職1名
	15日	ゆめ基金及び体験の風運動 普及・啓発活動 平成27年度秋田県社会教育主事連絡協議会 総会・研修会	企画指導専門職1名
	18日	さんりく体験！探検ツアー事前視察（久慈市他）	主任企画指導専門職1名 副主任企画指導専門職1名 事業推進係員1名
	21日	平成27年度第1回独立行政法人国立青少年教育振興機構会議（～22日）	所長
	22日	日独セミナー（オリンピック記念青少年総合センター）	所長
	25日	平成27年度第1回独立行政法人国立青少年教育振興機構次長会議（～26日）	次長
25日	平成27年度教職員等中央研修（第4回中堅教員研修）（～6月19日）	企画指導専門職1名	
6月	2日	アドベンチャープログラム体験会（～3日）	
	3日	滝沢市グリーン・ツーリズム推進協議会総会	所長
	7日	陸上自衛隊岩手駐屯地 創立58周年記念行事	所長
	9日	日本電話電話ユーザー協会盛岡地区協会平成27年度総会	所長
	11日	平成27年度管理系係長研修（～12日） （国立オリンピック記念青少年総合センター）	主幹
	17日	五日会6月例会	所長
	17日	整備管理者選任前講習	管理係主任1名 総務係員1名
	17日	盛岡地区安全運転管理者部会通常総会	次長
	16日	平成27年度体験活動安全管理講習～山系活動編（～19日） （国立三瓶青少年交流の家）	企画指導専門職1名 事業推進係員1名
	19日	日本野外教育学会 第18回学会大会（～21日）	事業推進係員1名
22日	平成27年度公益社団法人岩手県青少年育成県民会議通常総会	所長	
29日	国立岩手山青少年交流の家と岩手大学との連携・協力に関する協定書調印式		

月	日	会議・研修名	出席者
7月	1日	平成27年度岩手山山開き	所長他
	3日	所長ヒアリング	所長
	6日	国立青少年教育施設東北地区連携会議（～7日）	次長 主任企画指導専門職1名 事業推進係長1名
	12日	体験教室「頭と心と体の3体験フェスティバル」（会場：岩手大学）	総務係長、総務係員1名 企画指導専門職1名 事業推進係長1名 管理係主任、管理係員1名
	13日	平成27年度岩手県グリーン・ツーリズム推進協議会総会	所長
	15日	平成27年度東北地区官庁施設保全連絡会議（盛岡第2合同庁舎）	管理係主任1名
	17日	平成27年度岩手県内青少年集団宿泊教育施設連絡協議会役員会	次長 主任企画指導専門職
	22日	岩手県立県南青少年交流の家自主事業「夏山トレッキング」（遠野市）	企画指導専門職1名
	23日	平成27年度青少年を非行・被害から守る県民大会	所長
	28日	みちのく「体験の風をおこそう」運動共催事業 「おいでよ！サマーキャンプ」（青森県種差少年自然の家）	副主任企画指導専門職1名 企画指導専門職1名
30日	平成27年度第1回滝沢市社会教育委員会議	所長	
8月	1日	復興支援コンサート「絵本と子守唄のつどい」（遠野市宮守町）	所長他
	18日	平成27年度日独学生青年リーダー交流ボランティア事前打ち合わせ	企画指導専門職2名
	18日	みちのく「体験の風をおこそう」運動協賛事業「あきた白神わんぱく夏塾2」（～20日）	副主任企画指導専門職1名 企画指導専門職1名
	19日	五日会8月例会	所長
	22日	滝沢市産業まつり（～23日）	次長、主幹他
	23日	県北青少年の家ステラパル夏まつり	企画指導専門職1名
28日	平成27年度日独学生青年リーダー交流合宿セミナー（～30日）	企画指導専門職1名	
9月	1日	平成27年度日独学生青年リーダー交流事業（～7日）	次長 企画指導専門職2名 事業推進係員2名
	5日	「世界の仲間とゆく年くる年～体験日本のお正月～」企画運営委員会（～6日）	事業推進係員1名
	4日	平成27年度秋田県北地区社会教育主事協会第2回研修会	主幹 企画指導専門職1名
	9日	平成27年度都道府県・政令都市「青少年体験活動等担当者会議」（～10日）	所長 企画指導専門職1名
	10日	体験の風をおこそうフォーラム（国立オリンピック記念青少年総合センター）	所長 企画指導専門職2名
	12日	IBCまつり（～13日）（岩手産業文化センター アピオ）	所長、次長 主任企画指導専門職1名 企画指導専門職1名 事業推進係員1名 総務係員1名、管理係員1名
	15日	岩手県県北教育事務所社会教育担当者会議	企画指導専門職2名
	19日	2015年国際キャリア教育学会 日本大会（～21日）（つくば）	事業推進係員1名
	24日	国立青少年教育施設東北地区連携会議④（～25日）	所長
	28日	平成27年度東北地区国立大学法人等若手職員研修（～30日）（山形大学）	事業推進係員1名
29日	子どもゆめ基金平成28年度助成活動募集説明会	主任企画指導専門職1名 総務係員1名	

月	日	会議・研修名	出席者
10月	3日	「世界の仲間とゆく年くる年～体験日本のお正月～」企画運営委員会（～4日）	事業推進係員1名
	3日	平成27年度子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業「なすかしの森ファミリーフェスティバル」	企画指導専門職1名
	10日	みちのく「体験の風をおこそう」運動協賛事業「まんたらめちびっ子キャンプ」（秋田市大平山自然学習センター）	副主任企画指導専門職1名
	16日	平成27年度自家用自動車整備管理者講習会	総務係員1名
	17日	体験の風をおこそうin磐梯[ばんだいフェスティバル]	管理係主任1名 事業推進係員1名
	22日	「体験の風をおこそう」運動広報（青森県）	管理係主任1名 事業推進係員1名
	23日	生涯学習計画論講義（岩手大学）	企画指導専門職2名 事業推進係員1名
	24日	滝沢市立柳沢小中学校学習発表会	次長
	23日	人事・事業ヒアリング（機構本部）	所長
	27日	「体験の風をおこそう」運動広報（秋田県）（～28日）	企画指導専門職1名 事業推進係員1名
	28日	平成27年度東北地区国立大学法人等若手職員研修（～30日）	事業推進係員1名
	28日	平成27年度ボランティア・コーディネーター研修（～29日）	企画指導専門職1名 事業推進係員1名
	29日	平成27年度第2回岩手県社会教育主事等会議（～30日）	主任企画指導専門職1名 企画指導専門職2名
	30日	五日会10月例会	所長
	30日	滝沢市グリーン・ツーリズム推進協議会研修会	所長
	11月	30日	生涯学習計画論講義（岩手大学）
31日		平成27年度子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業「はなやままるごとフェスティバル」	企画指導専門職1名 事業推進係員1名 管理係員1名
3日		子どもゆめ基金説明会（青森市）	企画指導専門職2名 管理係主任1名
4日		平成27年度生涯学習・社会教育主管課長等会議（宮城県）	企画指導専門職1名
4日		子どもゆめ基金説明会（宮古市）	主任企画指導専門職1名 副企画指導専門職1名
5日		子どもゆめ基金説明会（弘前市）	次長、管理係員1名 総務係員1名
5日		第8回東北地区青少年教育施設協議会総会及び運営研究協議会（～6日）	所長 管理係主任
6日		体験の風をおこそうフォーラムin福島（白河市）	所長 管理係主任
6日		子どもゆめ基金説明会（盛岡市）	副主任企画指導専門職1名 総務係員1名 管理係員1名
6日		生涯学習計画論講義（岩手大学）	主任企画指導専門職1名 企画指導専門職1名
6日		平成27年度東北地区国立大学法人等安全管理協議会（宮城教育大学）	次長
6日		大型バス等運転講習（紫波中央自動車学校）	事業推進係員2名 技術補佐員2名
11日		国立花山青少年自然の家・国立岩手山青少年交流の家 給食業務合同職員研修会（～12日）	花山職員3名、食堂5名 岩手山職員5名、食堂3名
12日		防火管理者講習（～13日）	管理係長1名 管理係主任1名
12日		玉山児童館職員研修会	主任企画指導専門職1名
12日		「世界の仲間とゆく年くる年～体験日本のお正月～」企画運営委員会	事業推進係員1名
14日		親子deチャレンジ（岩手県立県北青少年の家）	企画指導専門職1名
14日		秋田県立岩城少年自然の家オープンデー	主任企画指導専門職1名
16日		平成27年度第2回次長会議（～17日）	次長
16日		平成27年度教職員等中央研修（第4回中堅教員研修）（～12月11日）	企画指導専門職1名

月	日	会議・研修名	出席者
11月	18日	平成27年度岩手県内青少年集団宿泊教育施設職員合同研究会(～19日) (岩手県立県南青少年の家)	所長、次長、総務係長 管理係主任 企画指導専門職4名 事業推進係員2名、食堂2名
	19日	平成27年度第2回管内生涯学習・社会教育担当者会議(岩手県沿岸南部教育事務所)	企画指導専門職2名
	19日	子どもゆめ基金説明会(秋田市)	次長、主幹 管理係主任1名
	19日	岩手県沿岸南部教育事務所第2回管内生涯学習・社会教育担当者会議	主任企画指導専門職1名 企画指導専門職1名
	20日	岩手大学人事交流者懇談会(岩手大学)	事業推進係員2名 総務係員1名
	20日	マイナンバー事務取扱担当者研修(機構本部)	総務係長1名 総務係員1名
	24日	「体験の風をおこそう」運動広報(岩手県内)(～25日)	企画指導専門職1名 総務係員1名
	26日	平成27年度全国青少年教育施設所長会議(～27日)	所長
	26日	「体験の風をおこそう」運動広報(岩手県)(～27日)	事業推進係員2名 総務係員1名
12月	3日	平成27年度ブロック別会計事務協議会	次長
	5日	自然体験活動上級指導者(NEALインストラクター)養成事業	事業推進係長1名
	7日	平成27年度東北地区国立学校等総務部課長・人事担当部課長合同会議及び管理事務セミナー(山形大学)	次長 主幹
	7日	平成27年度岩手県内所在文部科学省関係4機関人事担当課長会議(～8日)	次長
	7日	自然体験活動上級指導者(NEALインストラクター)養成事業研修(～10日)	事業推進係長1名
	9日	「新・機構元気プラン」にかかる具体的取り組み等アイデアを踏まえた実施検討会	事業推進係長1名
	10日	第4回若手職員による実践報告・研究発表会(～11日)	事業推進係長1名
	10日	もりおか広域グリーン・ツーリズム研修会	次長
	10日	若手職員による実践報告・研究発表会(～11日)	事業推進係員1名
	12日	みちのく「体験の風をおこそう」運動協賛事業 わくわく盛岡チャレンジクラブ	主任企画指導専門職1名
	12日	「世界の仲間とゆく年くる年～体験日本のお正月～」企画運営委員会(～13日)	事業推進係員1名
	16日	岩手大学業務マニュアル作成研修	事業推進係員2名
	17日	滝沢市グリーン・ツーリズム推進協議会農林漁家による魅力ある旅行商品づくりのための講習会	所長
	18日	平成27年度第5回宮古地区管内社会教育主事等会議	企画指導専門職1名 総務係員1名
	18日	ゆめ基金説明会(宮古市)	企画指導専門職1名 総務係員2名
28日	世界の仲間とゆく年くる年～体験日本のお正月～(～1月2日)	事業推進係員1名	
1月	5日	平成27年度授業力向上研修講座(～6日)	企画指導専門職1名
	5日	平成27年度教職員等中央研修(第4回副校長・教頭等研修)(～1月22日)	副主任企画指導専門職1名
	15日	国立オリンピック記念青少年総合センター五十周年及び国立青少年教育振興機構十周年記念式典	所長
	16日	みちのく「体験の風をおこそう」運動協賛事業 アウトドアライフ2016 in ウィンター(青森県梵珠少年自然の家)	企画指導専門職1名
	21日	整備管理者選任前研修	総務係長1名 管理係員1名
	23日	「世界の仲間とゆく年くる年～体験日本のお正月～」企画運営委員会	事業推進係員1名
	24日	平成27年度教職員等中央研修(第5回副校長・教頭等研修)(～2月10日)	主任企画指導専門職

月	日	会議・研修名	出席者
2月	4日	岩手県生涯学習推進研究発表会（～5日）	企画指導専門職1名
	4日	全国青少年教育施設研究集会（国立オリンピック記念青少年総合センター）	所長、次長 管理係員1名
	8日	岩手県社会教育主事会議	企画指導専門職3名
	9日	岩手県教育研修発表会（岩手県生涯学習推進センター他）	所長、次長 企画指導専門職1名
	15日	独立行政法人国立青少年教育振興機構会議（第2回） （～16日）	所長
	15日	「体験の風をおこそう」運動広報（宮城県）（～16日）	次長 総務係長 副主任企画指導専門職1名
	22日	文部科学省岩手県人会（東海大交友会館）	所長、次長 総務係長1名 管理係主任1名
	22日	平成27年度東北地区国立青少年教育施設連携会議（～26日）	次長 副主任企画指導専門職1名 事業推進係長1名 管理係主任1名
	25日	滝沢市社会教育委員会（滝沢市公民館）	所長
	25日	平成27年度第2回岩手県社会教育委員会	所長
	25日	東北地区青少年教育施設連携会議（磐梯青少年交流の家）	次長、総務係長 管理係主任1名 企画指導専門職1名 事業推進係長1名
	27日	本部事業子守唄コンサート（あえりあ遠野ホール）	次長 事業推進係員1名
29日	岩手県グリーン・ツーリズム推進協議会農家民泊研修会及び意見交換会（エスポワールいわて）	所長	
3月	4日	岩手県電話電話ユーザー協会主催 対応スキルアップ研修（応用編）	事業推進係員1名
	10日	早寝早起き朝ごはん全国フォーラム（国立オリンピック記念青少年総合センター）	次長 管理係員1名 事業推進係員1名
	11日	防火管理者再講習	次長
	15日	滝沢市グリーン・ツーリズム推進協議会教育旅行・農家民泊受入のための研修会	所長
	16日	滝沢村立柳沢小・中学校卒業式	所長
	23日	平成27年度岩手大学卒業式	所長
	25日	岩手県スポーツ振興事業団第11回評議員会	所長

国立岩手山青少年交流の家施設業務運営委員会委員名簿

平成28年1月27日現在

氏 名	よみがな	役 職 名 等
浅 沼 道 成	あさぬま みちなり	岩手大学 人文社会科学部 教授
石 川 正 悦	いしかわ しょうえつ	岩手県立盛岡農業高等学校 校長
伊 藤 博 章	いとう ひろあき	八戸市教育委員会 教育長
大 石 泰 夫	おおいし やすお	盛岡大学 文学部 教授
菊 池 啓 子	きくち けいこ	岩手県立陸中海岸青少年の家 所長
熊 谷 雅 英	くまがい まさひで	滝沢市教育委員会 教育長
國 分 隆 史	こくぶ たかし	岩手県PTA連合会 副会長
児 玉 政 光	こだま まさみつ	青森県教育庁 生涯学習課長
沢 屋 隆 世	さわや たかせ	秋田県教育庁 生涯学習課長
主 濱 恵 悦	しゅはま けいえつ	滝沢市子ども会育成連合会 会長
白 木 貞 彦	しらき さだひこ	滝沢市立一本木小学校 校長
神 初 見	じん はつみ	(株)IBC岩手放送 取締役放送本部長
菅 原 正 弘	すがわら まさひろ	盛岡市立河南中学校 校長
高 橋 一 仁	たかはし かずひと	盛岡市青年会議所 理事長
松 下 洋 介	まつした ようすけ	岩手県教育委員会 生涯学習文化課 総括課長
三 浦 正 之	みうら まさゆき	宮城県教育庁 参事兼生涯学習課長
横 澤 繁	よこさわ しげる	岩手県レクリエーション協会 理事長

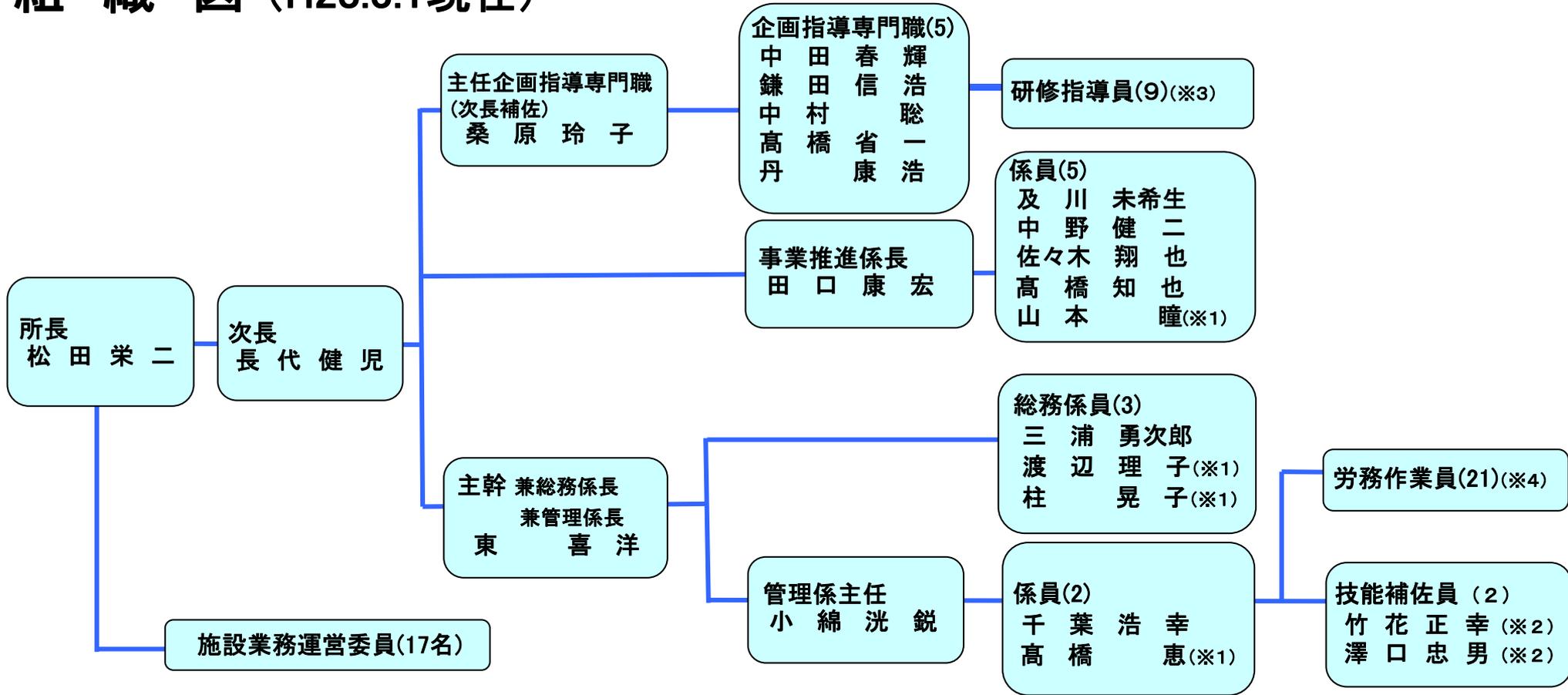
沿 革

昭	47.	5.	1	国立岩手山青年の家機関設置（昭和47年文部省令第17号）	
		12.	7	所章及び生活信条を決定	
	48.	2.	13	本館，講堂，食堂，浴場及び宿泊棟完成	
		3.	19	利用者の受入業務開始	
		6.	17	開所式を挙行	
	49.	3.	26	体育館，総合グラウンド，テニスコート，つどいの広場，取付道路及び駐車場完成	
		5.	19	天皇・皇后両陛下下行幸啓	
		12.	21	南部曲家，遊歩道の整地，キャンプ場の管理棟，炊事場，便所，体育館の渡り廊下，営火場，総合グラウンドの倉庫及び視聴覚研修室の空気調整整備等完成	
	和	50.	5.	19	野球場のバックネット，築山及び体育館脇の庭園，池の完成
			10.	16	管理棟裏の駐車場完成
			10.	31	楽焼用窯場完成
		52.	12.	26	スキー場にロープトウ完成
		53.	12.	12	つどいの広場に照明灯新設
		54.	12.	19	特殊車両庫及びサイクリング車庫新設
58.		9.	11	開所10周年記念式典を挙行	
61.		12.	23	体育館暖房設備工事完成	
63.		4.	6	利用者数100万人突破	
平成		4.	2.	28	宿泊棟の一部和室化工事完成
		9.	12	学校週5日制対応事業開始	
		12.	25	宿泊棟の一部個室化工事完成	
	5.	10.	22	開所20周年記念式典を挙行	
		12.	27	全宿泊棟（4棟）の改修工事（和室化，個室化）完成	
	6.	3.	25	グラウンド及びテニスコートの改修工事（全天候型・照明付）完成	
		10.	13	体育館屋根その他改修工事完成	
	7.	7.	28	第33回全国スポーツ少年大会を秋篠宮殿下，同妃殿下をお迎えして開催	
	8.	3.	29	ボランティア棟の完成	
		8.	5	第7回世界少年野球大会・いわて盛岡大会の開催	
	9.	2.	28	体育館照明設備を昇降式に改修	
		3.	21	食堂棟（レストランポローニア）の完成	
		7.	24	国際青年の村'97を清子内親王殿下をお迎えして開催	
	10.	3.	19	利用者受入開始25周年記念式典挙行	
		9.	1	プラザイーハトーブ（旧食堂改修）完成	
11.	3.	30	南部曲家改修工事完成		
12.	12.	20	南部曲家，宿泊棟の屋根改修工事完成		
13.	4.	1	独立行政法人国立青年の家国立岩手山青年の家に移行		
15.	1.	31	管理研修棟・体育館にエレベーター設置及び体育館東側出入口にスロープ設置		

			給水設備の更新
		3. 28	宿泊棟D棟1階トイレ・洗面所の改修
		9. 26	屋外休憩コーナーの設置
		10. 18	開所30周年記念式典を挙行
			つどいの広場に30周年記念時計塔を設置
平	16.	3. 4	リネンコーナーの改修工事完成
		3. 5	管理研修棟の耐震補強工事・外壁塗装, 利用者玄関の全面改修工事完成
			受付窓口の改修工事完成
		3. 17	管理研修棟2階・3階トイレの改修工事完成
		6. 7	キャンプ場常設テント新設工事完了
		12. 24	屋外給水管改修及び敷設替工事完成
	17.	2. 22	管理・研修棟点字表示整備完了
		4. 28	キャンプ場炊事棟改修及び常設テント増設工事完成
		12. 26	利用者玄関脇道路改修工事完了
	18.	4. 1	独立行政法人国立青少年教育振興機構国立岩手山青少年交流の家に移行
		11. 14	第47回全国青年の家運営研究協議会開催
		11. 30	利用者玄関脇トイレ新設工事完成
19.	2. 28	宿泊棟トイレ・洗面所改修工事完成	
20.	3. 31	体育館通路断熱工事完成	
		3. 31	宿泊室ベット更新
		3. 31	10人乗りワゴン車購入
		6. 30	キャンプ場管理棟外階段改修工事完成
		10. 31	キャンプ場流し場(2カ所)改修工事完成
21.	11. 20		当施設指導員(田中 潔 氏)が社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞
22.	3. 28		利用者数400万人突破
23.	1. 31		体育館の暖房改修及びボイラーの更新工事完成
		3. 11	東日本大震災発災, 利用者の受け入れ停止
		3. 19	被災地捜索・復旧活動に従事する自衛隊滞在開始
		5. 22	自衛隊の滞在終了
		6. 1	利用者の受け入れ再開
		11. 18	当施設指導員(階 幸男 氏)が社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞
24.	3. 5		宿泊棟に防犯カメラ設置
		11. 13	当施設指導員(滝田 章 氏)が社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞
		11. 17	屋外炊飯場排水接続工事完成
		11. 30	災害復旧に伴う外壁他改修工事完成
25.	3. 1		防犯カメラ増設(宿泊棟・利用者玄関)工事完成
		3. 22	体育館音響機器設備更新
		11. 13	当施設元指導員(山田 純 氏)が社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞
26.	3. 24		宿泊室A棟の改修工事の一部(※4人部屋12室を6人部屋6室に改修)を施工
26.	9. 9		滝沢市との連携・協力に関する協定を締結

平成	26.	12.	5	当施設指導員（石川享子 氏）が社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞
	27.	3.	1	宿泊室A棟の改修工事の一部（※4人部屋6室を6人部屋3室に改修）を施工
	27.	6.	29	岩手大学との連携・協力に関する協定を締結
	27.	11.	2	当施設指導員（泉貴美子 氏）が社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞

組織図 (H28.3.1現在)



常勤職員	17名
パートタイム職員(事務補佐員)※1	4名
パートタイム職員(技能補佐員)※2	2名
パートタイム職員(研修指導員)※3	9名
パートタイム職員(労務作業員)※4	21名

※1 事務補佐員として週30時間又は25時間勤務

※2 週30時間勤務

※3 登山指導員として一人当たり年間5日程度勤務

〈研修指導員〉(登山指導員)	
石川 享子	伊藤 聖徳
泉 貴美子	
大友 晃	
佐藤 誠	
滝田 章	
田中 潔	
田中 耕一	
吉田 光	

〈労務作業員(環境ボランティア)〉		
馬場 栄松	小野寺 晶子	佐々木 實
菅原 公佑	細田 精太郎	重茂 勇治
田村 章一	柏木 勇三	山村 洋
田村 耕三	吉田 信吉	千葉 良子
欠畑 澄	小野寺 知明	長沢 キミエ
工藤 忠夫	山口 喜勝	
吉田 清美	中島 徹哉	
小杉 英機	千葉 茂	

協力者一覧

【登山指導員】

9名

氏 名				
石川 享子	泉 貴美子	大友 晃	佐藤 誠	滝田 章
田中 潔	田中 耕一	吉田 光	伊藤 聖徳	

【創作活動・体験活動指導員】

氏 名	プ ロ グ ラ ム
階 幸男	忍び駒（わら細工）、チャグチャグ馬っ子
田中 潔	あけびつるクラフト、焼板、木の実のリース、木の実のコレクション、木の実のやじろべえ
藤沢 昭子	昔話
齋藤 桃江	昔話
太田 トミエ	昔話
西田 宏子	草木染め

【ノーマライゼーション指導者関係】

点 字	特定非営利活動法人岩手点字の会
手 話	木村 敬子

【レクリエーション指導者関係】

特定非営利活動法人岩手県レクリエーション協会

【ネイチャーゲーム指導者関係】

岩手県シェアリングネイチャー協会

【法人ボランティア】

118名

氏 名				
梅田 実里	譽田 朱董	山田 陽介	立花 春香	中村 風真
山本 真輝	北田 颯希	吉田 遼太	安藤 淑恵	根口 龍馬
金野 柚佳子	鈴木 麻裕	小保内絵理子	新沼 南	藤野 峻平
上山 喜崇	千葉 円花	小山 莉奈	工藤 あかり	吉内 元子
高橋 諒	野場 瑞希	斎藤 敦哉	齊藤 可南子	村中 未唯
高橋 知也	伊藤 拓真	西丸 桜香	菅原 瑞穂	野場 千晃
首藤 礼	佐沼 詩穂香	嵯峨 京華	本間 里史	山内 優喜子
高橋 舞子	高橋 美穂	下道 諒志	堀 文人	小國 瑞季
沼田 真奈	今井 拓海	小網 いつき	宮 翼	齋藤 龍之介
畠山 亜美	佐藤 皓	高橋 優明	藤澤 健太郎	島田 直哉
荒関 峻也	杉本 茜	高橋 萌	村岡 凌	金子 優太
渡邊 隆暉	田中 照美	岡村 朋香	渡邊 裕人	志田 翔
笹森 秀斗	田村 絵里子	安藤 里彩	今松 聖矢	橋本 明日香
太野 佑哉	中居 友里絵	外館 聖奈	田中 涼	小田島 早江
玉山 葵	深澤 好花	阿部 美穂	長谷川 太郎	上野 さあや
和蛇田 美穂	星野 雄哉	瀬川 奈央	吉田 拓望	飛知和 あいか
鈴木 孔明	山下 詩乃	郷古 華恵	若宮 純一	板持 雅知
青木 眸美	加藤 真奈美	茂石 祐香	佐藤 享拓	山下 莉奈
有原 悠里	佐々木 藍	谷地 優也	佐藤 陽	
昆野 航	種綿 梨乃	笠松 亮太	高田 恒真	
中村 直人	玉山 彩生	齋藤 諒祐	平田 泰大	
大滝 彩華	細川 咲季	山崎 友紀	増尾 悠大	
木村 千晶	松橋 舞美	奥寺 美月	最上 禎太郎	
今野 蓉子	田沼 優太郎	佐々木 芙美	吉田 優雅	
佐藤 百福	福島 遼平	黒沼 遥希	嶋野 優祐	

【環境ボランティア】

22名

氏 名				
馬場 栄松	菅原 公佑	田村 章一	横山 靖彦	欠畑 澄
工藤 忠夫	吉田 清美	小杉 英機	小野寺 晶子	細田 精太郎
柏木 勇三	吉田 信吉	小野寺 知明	山口 喜勝	中島 徹哉
千葉 茂	佐々木 實	重茂 勇治	山村 洋	千葉 良子
田村 耕三	長沢 キミエ			

※平成27年4月現在